令和５年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業

子どもの読書活動推進に関する実態調査

報 告 書

令 和 6 年 3 月

青森県教育委員会

はじめに

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（「子どもの読書活動の推進に関する法律」第２条）です。

青森県教育委員会では、近年のグローバル化や情報化の急速な進展など変化の激しい時代において、子どもたちが将来社会人・職業人として自立し、価値観の異なる様々な人々とのコミュニケーションをとり、ともに地域社会を形成していくためには、子どもの読書活動の推進は極めて大切であると考え、平成１６年の「青森県子ども読書活動推進計画」の策定以降、令和２年には「同計画（第四次）」を策定し、家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組を通して、子どもの読書活動の推進を図って参りました。

本調査では、県内の小学生、中学生、高校生を対象として、１ヶ月間の読書冊数、読書に対する意識、学校図書館及び公立図書館の利用状況等について質問を設ける一方で、県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象として、学校図書館の状況や子どもの読書活動推進に向けた取組等について質問を設け、研究を行いました。調査結果については、今後、本県における子どもの読書活動の推進に係る施策や事業構築等に生かしていくほか、県内各市町村における子どもの読書活動に関する取組の参考となれば幸いです。

最後に、本調査に御回答いただいた皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

令和６年３月

青森県教育庁
生涯学習課長　　小　舘　孝　浩

目　次

第１章　調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

　　１　調査の名称

　　２　調査の趣旨

　　３　調査対象と回収結果

　　４　調査方法

　　５　研究顧問

第２章　調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

　　１　調査結果の見方　３

　　２　子どもの読書活動に関する状況調査　３

　　３　子どもの読書活動推進に関する学校状況調査　１７

第３章　考察・・４５

　　Ⅰ　子どもの読書活動の推進のために　４５

　　　（青森大学　社会学部　教授　秋田　敏博）

　　Ⅱ　青森県内の学校図書館の整備状況　５４

　　　（青森中央短期大学　食物栄養学科　講師　本間　維）

第４章　資料・・６２

　　○　調査結果単純集計表　６２

　　○　調査票（生徒用）　６８

　　○　調査票（学校用）　７２

第１章　調査概要

１　調査の名称

子どもの読書活動推進に関する実態調査

２　調査の趣旨

県教育委員会では、近年のグローバル化や情報化の進展など変化の激しい時代において、子どもたちが将来社会人・職業人として自立し、価値観の異なる様々な人々とのコミュニケーションをとり、ともに地域社会を形成していくためには、子どもの読書活動の推進は極めて大切であると考え、令和２年には「青森県子ども読書活動推進計画（第四次）」を策定し、家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組を通して、子どもの読書活動の推進を図っている。

本調査は、県内の子どもの読書活動の状況及び小・中・高等学校及び特別支援学校における読書活動推進に関する現状を把握し、今後の施策の企画立案に資することを目的として実施するものである。

３　調査対象と回収結果

（１）子どもの読書活動に関する状況調査

①　調査対象

県内の小学生、中学生、高校生　約 3,000 人

※対象校は、地域バランス及び児童・生徒の在籍数を考慮して選定した。

②　回収結果

・小学校５年生　：　1,133 人（調査対象 28 校）
・中学校２年生　：　1,035 人（調査対象 19 校）
・高校２年生　　：　943 人（調査対象 28 校）

（２）子どもの読書活動に関する状況調査

①　調査対象

県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校　484 校

②　回収結果

校種	配布数	回収数	回収率
小学校	249 校	237 校	95.2%
中学校	151 校	129 校	85.4%
高等学校	63 校	48 校	76.2%
特別支援学校	21 校	21 校	100.0%
計	484 校	435 校	89.9%

４　調査方法

調査票を用いたアンケート方式により実施した。調査対象校へ調査票を送付し、直接記入した調査票を同封の返信用封筒にて回収した。

・調査業務委託先　　株式会社サンブラッソ・エイティーブイ
・調査票の発送　　令和５年 11 月６日
・回答期限　　令和５年 11 月 30 日

５　研究顧問

・秋田　敏博　氏（青森大学　社会学部　教授）
・本間　　維　氏（青森中央短期大学　食物栄養学科　講師）

第２章　調査結果

１　調査結果の見方

・グラフの中の「n=」は、設問に関する回答者を表している。

・結果数値（パーセント）は、小数第２位を四捨五入しており、合計が 100%にならないこともある。

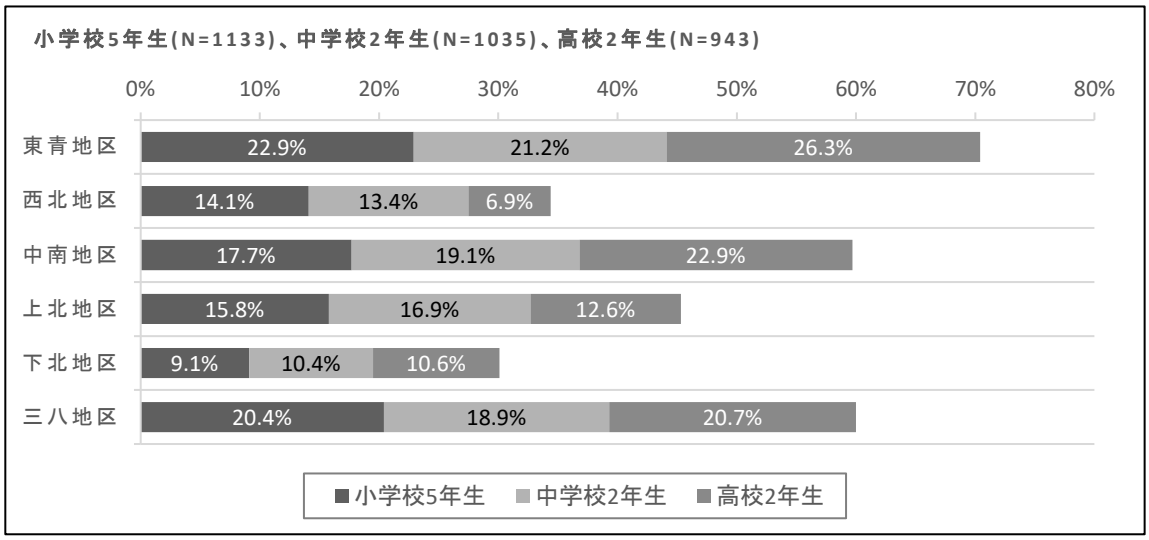
２　子どもの読書活動に関する状況調査

青森県内の小学校５年生（n=1133）、中学校２年生（n=1035）、高校２年生（n=943）より回答を得た結果である。なお、無回答、不明、該当しない設問の回答等は集計から除外したため、各グラフの回答者数と総数は一致しない場合がある。

（１）　学校の所在地

質問１　あなたの通う学校がある市町村を教えてください。

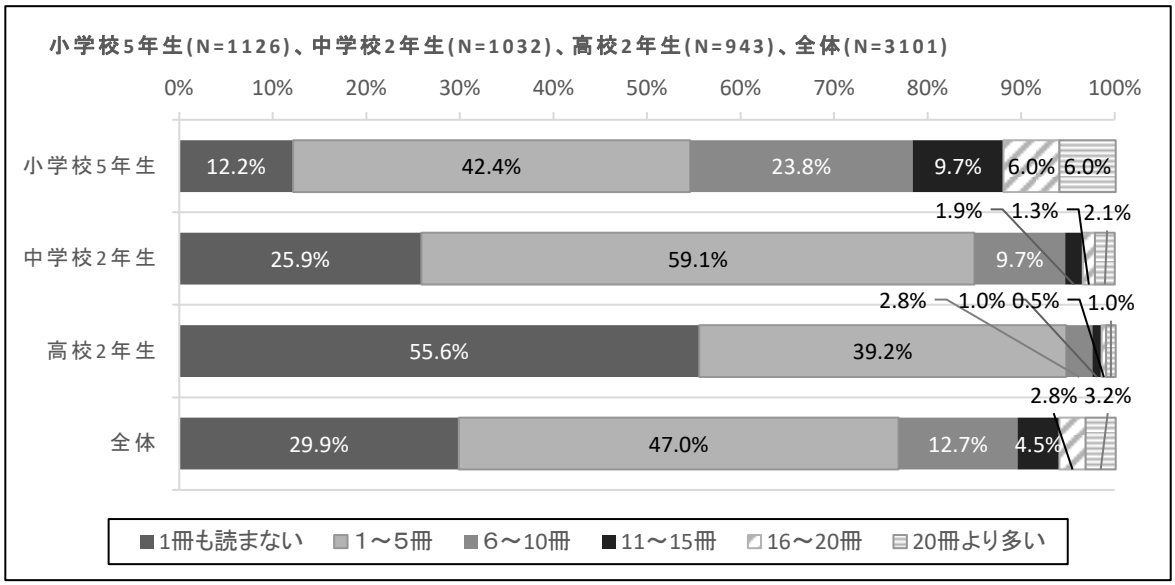
※回答した市町村を県内６地区に分類



（２）　１ヶ月間の読書量

質問２　今年 10 月の１か月間に本を読みましたか。
質問３　今年 10 月の１か月間に本を何冊読みましたか。

※「1 冊も読まない」の割合は質問２で「読まなかった」と回答した児童・生徒数を使用

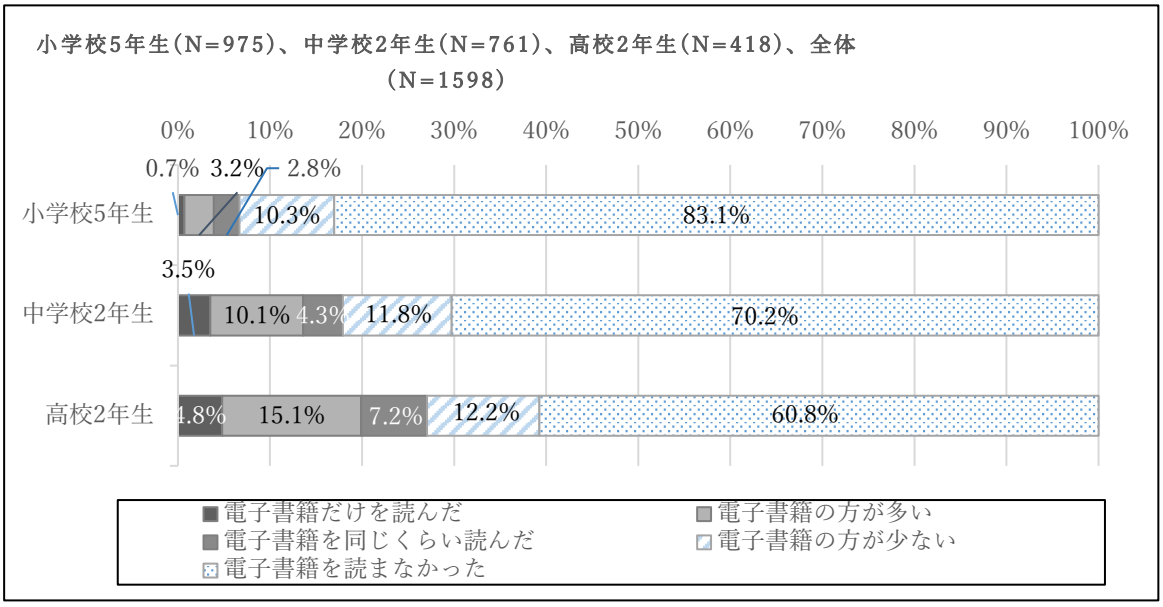


小中高と学校段階が進むにつれて「1 冊も読まない」児童・生徒の割合が高くなり、高校２年生の半数以上で「1 冊も読まない」と回答している。

（３）　電子書籍の読書状況

質問４　今年 10 月の１か月間電子書籍を読みましたか。
質問５　今年 10 月の１か月間、紙の本と比べて、スマートフォンやタブレット端末等で読むことのできる電子書籍をどのくらい読みましたか。

※質問２で「読んだ」と回答した児童・生徒数を使用

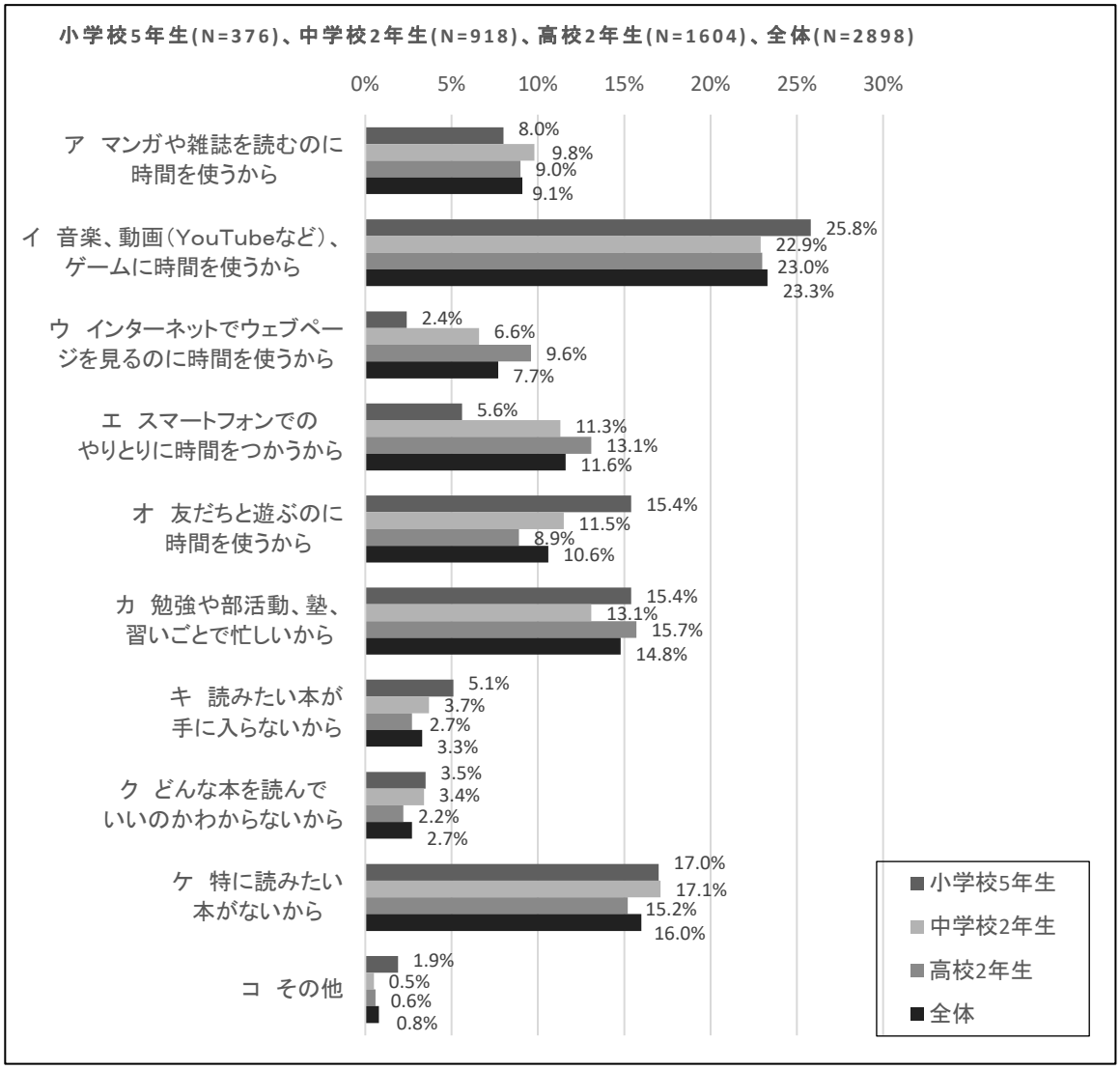


電子書籍の読者は、小中高と学校段階が進むにつれて増えているものの、高校２年生の約６割が「読まなかった」と回答している。

（４）本を読まなかった理由（複数回答）

質問６　読まなかった理由を教えてください。

※質問２で「読まなかった」と回答した児童・生徒数を使用



	小学校5年生		中学校2年生		高校2年生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ア　マンガや雑誌を読むのに時間を使うから	30	8.0%	90	9.8%	145	9.0%
イ　音楽、動画（YouTubeなど）、ゲームに時間を使うから	97	25.8%	210	22.9%	369	23.0%
ウ　インターネットでウェブページを見るのに時間を使うから	9	2.4%	61	6.6%	154	9.6%
エ　スマートフォンでのやりとりに時間をつかうから	21	5.6%	104	11.3%	210	13.1%
オ　友だちと遊ぶのに時間を使うから	58	15.4%	106	11.5%	142	8.9%
カ　勉強や部活動、塾、習いごとで忙しいから	58	15.4%	120	13.1%	252	15.7%
キ　読みたい本が手に入らないから	19	5.1%	34	3.7%	43	2.7%
ク　どんな本を読んでいいのかわからないから	13	3.5%	31	3.4%	35	2.2%
ケ　特に読みたい本がないから	64	17.0%	157	17.1%	244	15.2%
コ　その他	7	1.9%	5	0.5%	10	0.6%

［小学校５年生］　（n=7）
・読むのがめんどうくさいから　・教科書を読んでいるから　・スマートフォンを持っていない
・あまり本にきょうみがないから　・学校の本を読むカードをなくしたから
・ぐあいがわるかったから　・ねたいからつかれている

［中学校２年生］　（n=5）
・家の手伝い　・おもしろくないから　・読んでいたがマンガだから　・読むのが面倒くさいから
・本屋がどこにあるか忘れていたから

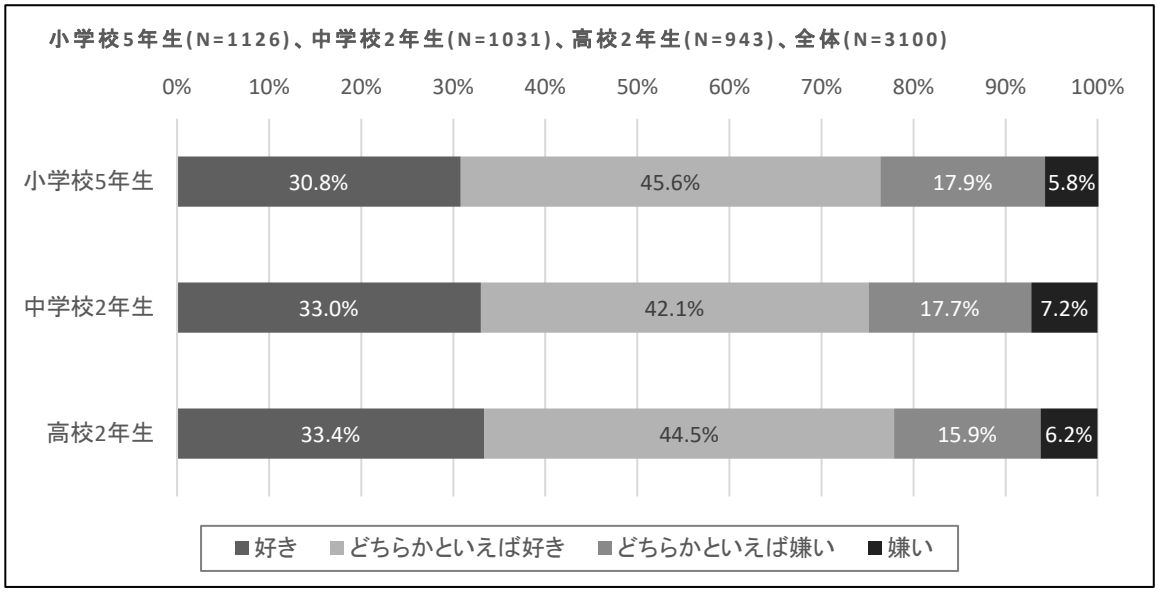
［高校２年生］　（n=10）
・読む時間がないから　・本を面白いと思わん　・読書が苦手だから　・読む時間があったら寝たい

・読みたいのに時間がない　・学校の読書時間に簿記の小テストがあるから　・めんどうくさいから
・読む気分じゃなかったから　・授業で習った源氏物語のマンガを読んでいるから
・本じゃなくて、新聞を読むから

読まなかった理由としては、すべての校種で「音楽、動画、ゲームに時間を使うから」が最も多く、次いで「特に読みたい本がないから」が多くなっている。

（５）読書への評価

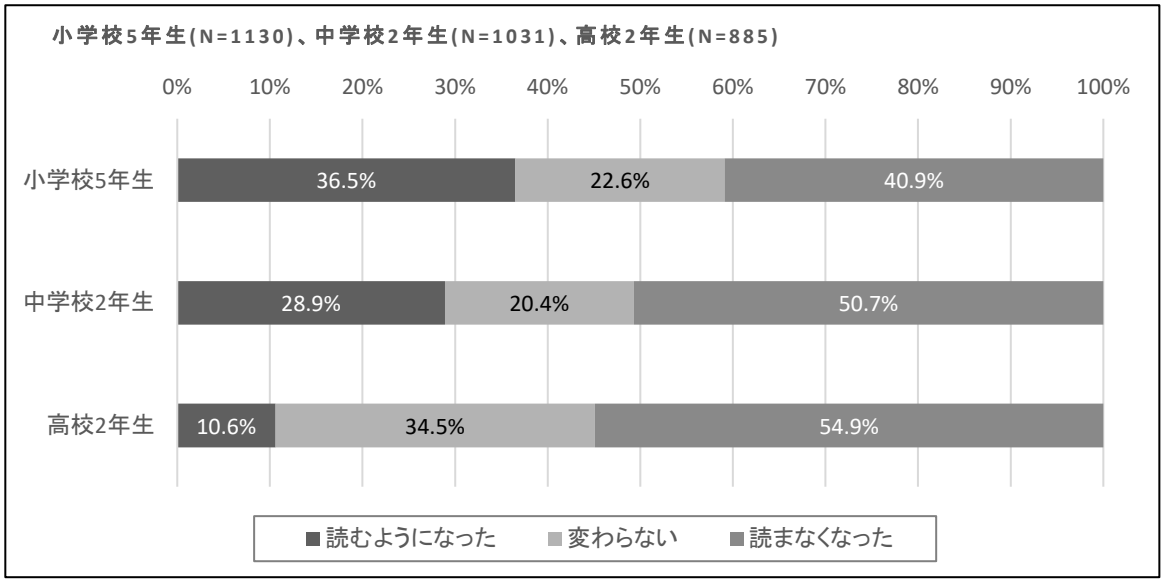
質問７　本を読むことが好きですか。



読書への評価はすべての校種でほぼ同じ傾向を示しており、「好き」、「どちらかといえば好き」を足した割合が約 75%となっている。

（６）昨年と比較した読書頻度

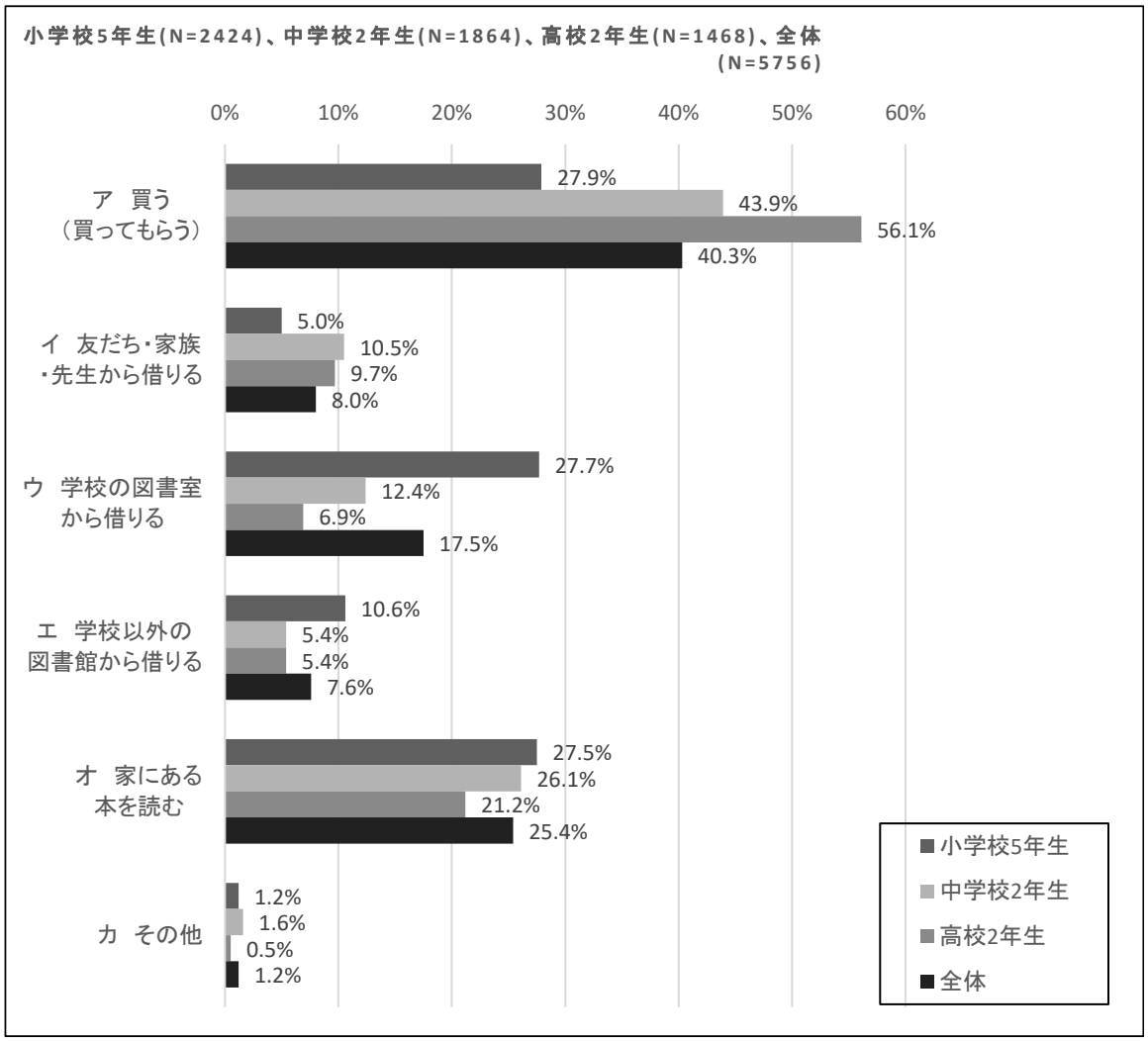
質問８　昨年と比べて本を読むようになりましたか。



昨年と比べた読書の頻度は、小中高と学校段階が進むにつれて低下する傾向が見られる。

（７）本の入手方法（複数回答）

質問９　どのようにして本を手に入れることが多いですか。



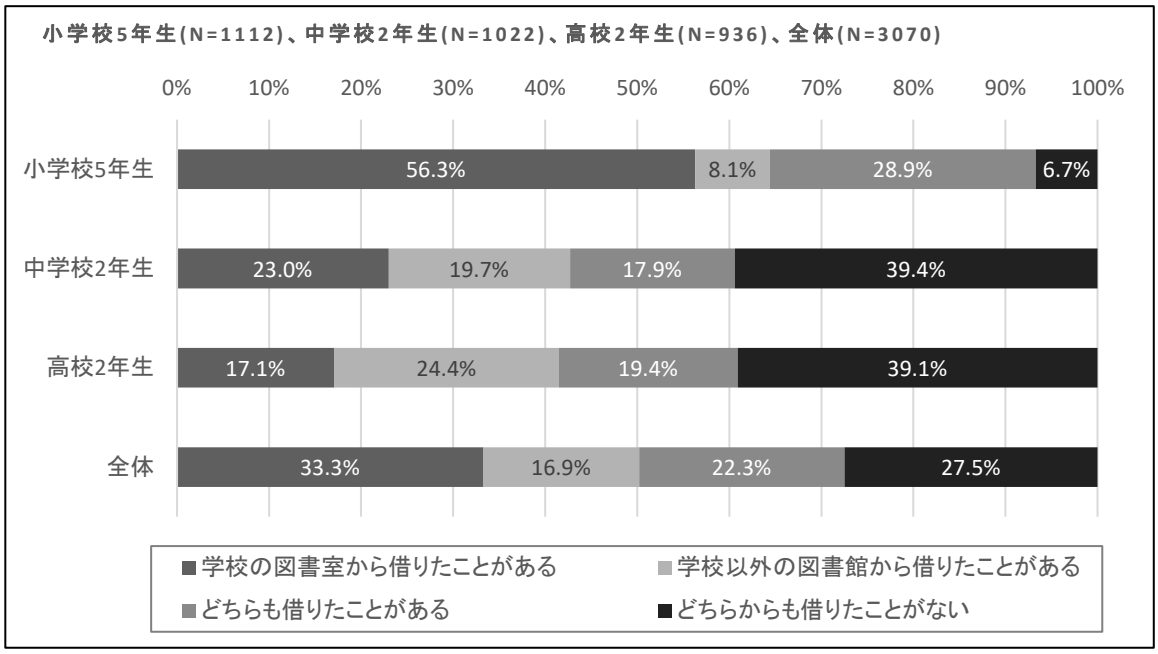
	小学校5年生		中学校2年生		高校2年生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ア　買う（買ってもらう）	676	27.9%	819	43.9%	824	56.1%
イ　友だち・家族・先生から借りる	122	5.0%	196	10.5%	143	9.7%
ウ　学校の図書室から借りる	672	27.7%	232	12.4%	102	6.9%
エ　学校以外の図書館から借りる	258	10.6%	101	5.4%	80	5.4%
オ　家にある本を読む	667	27.5%	486	26.1%	311	21.2%
カ　その他	29	1.2%	30	1.6%	8	0.5%

［小学校５年生］　（n=29）
・教室の本を読む(13)　・本屋で読めるような本を読む　・しりあいの本やが届けてくれる
・おばあちゃんにもらう(2)　・しんせきからもらう　・もらう　・電子書籍で見る(2)
・スマホでさがす　・でんししょせきでかりる　・タブレット（チャレンジタッチ）で借りる。
・オススメのを教えてもらう　・借りない　・じぶんで買う　・買わない　・わからない
［中学校２年生］　（n=36）
・手に入れない(4)　・買わない(2)　・読まない(3)　・インターネット(5)　・教室にある本(4)
・電子書籍(2)　・タブレット　・学校の電子書籍(4)　・学校のタブレット　・小説家になろう
・かぞくからもらう　・手に入らない　・電子書籍の無料キャンペーン
［高校２年生］　（n=12）
・手に入れようとしない　・電子書籍　・図書館で読む　・レンタル　・無料のものを読む
・青空文庫・ネットで注文する　・ネット

本の入手方法はすべての校種で「買う（買ってもらう）」が最も多く、「学校の図書室から借りる」は小学校５年生で約 28%だが高校２年生では約 7%と減少している。

（8）各種図書館から本を借りたことがあるか

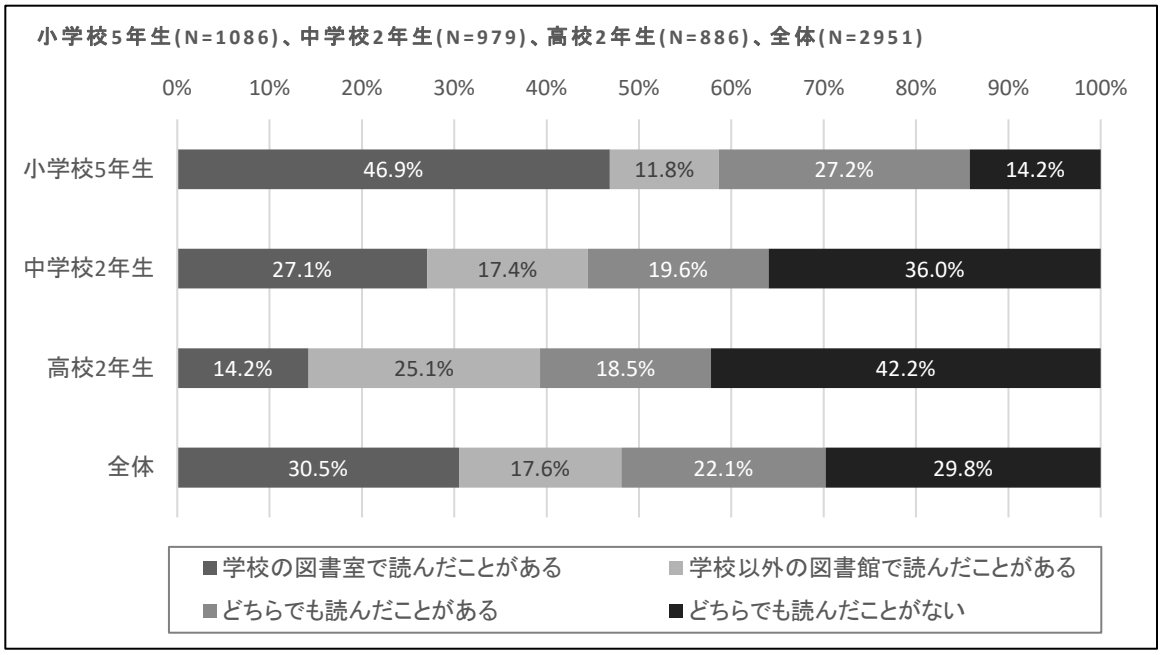
質問 10　学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館から本を借りたことがありますか。



小学校５年生では「本を借りたことがない」生徒は約 7%であるが、中学校２年生・高校２年生では約 40%の生徒が「本を借りたことがない」と回答している。

（9）各種図書館で本を閲覧したことがあるか

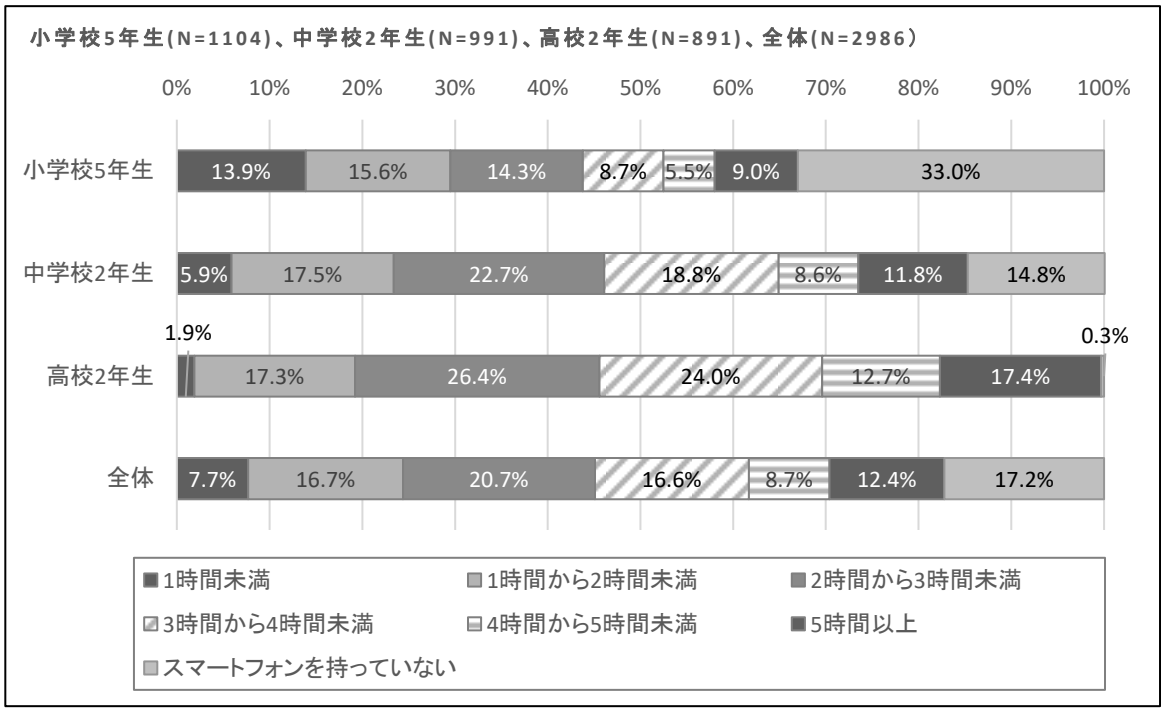
質問 11　学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館で本を読んだことがありますか。



小学校５年生では「本を閲覧したことがない」生徒は約 14%であるが、中学校２年生・高校２年生では約 40%の生徒が「本を閲覧したことがない」と回答している。

（10）スマートフォンの使用状況

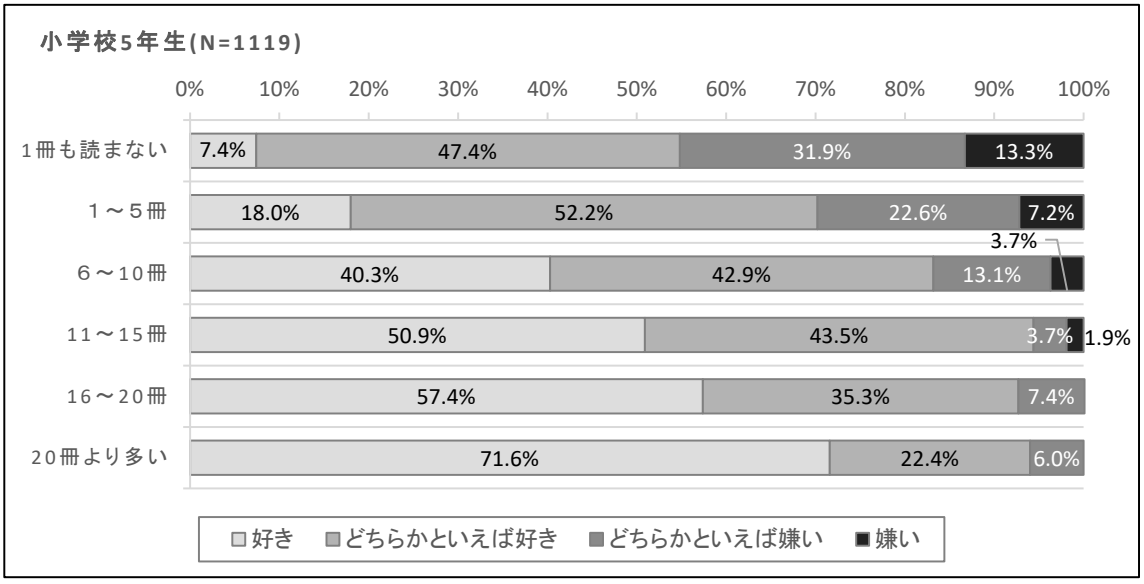
質問 12　１日にスマートフォンを何時間使いますか。



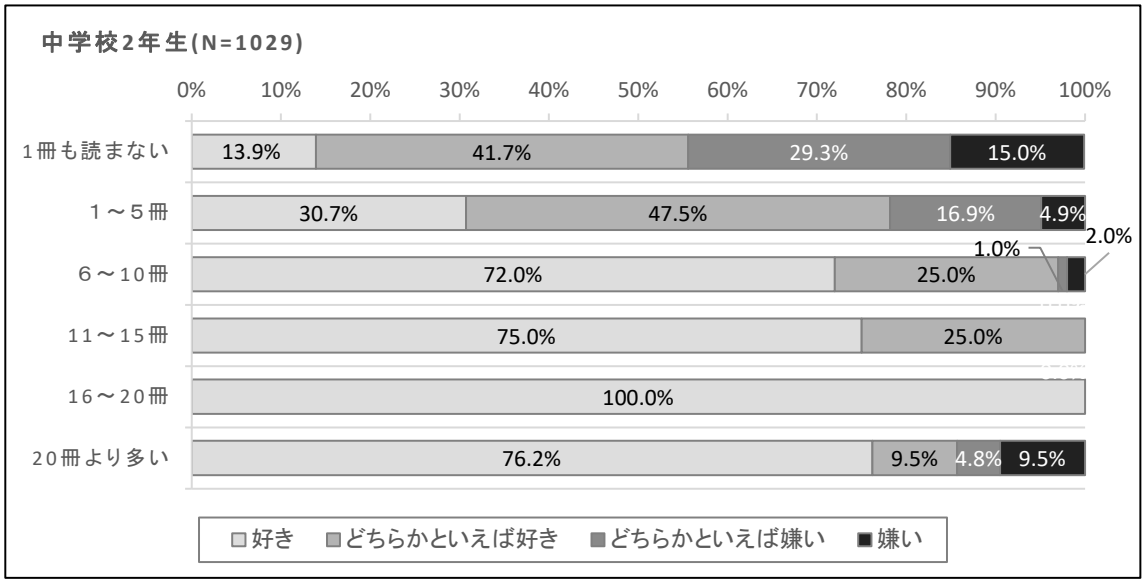
スマートフォンの使用では、小中高と学校段階が進むにつれて所持率が高くなるとともに、長時間の使用が増える傾向にある。

（11）クロス集計１　「１ヶ月の読書量」×「読書への評価」

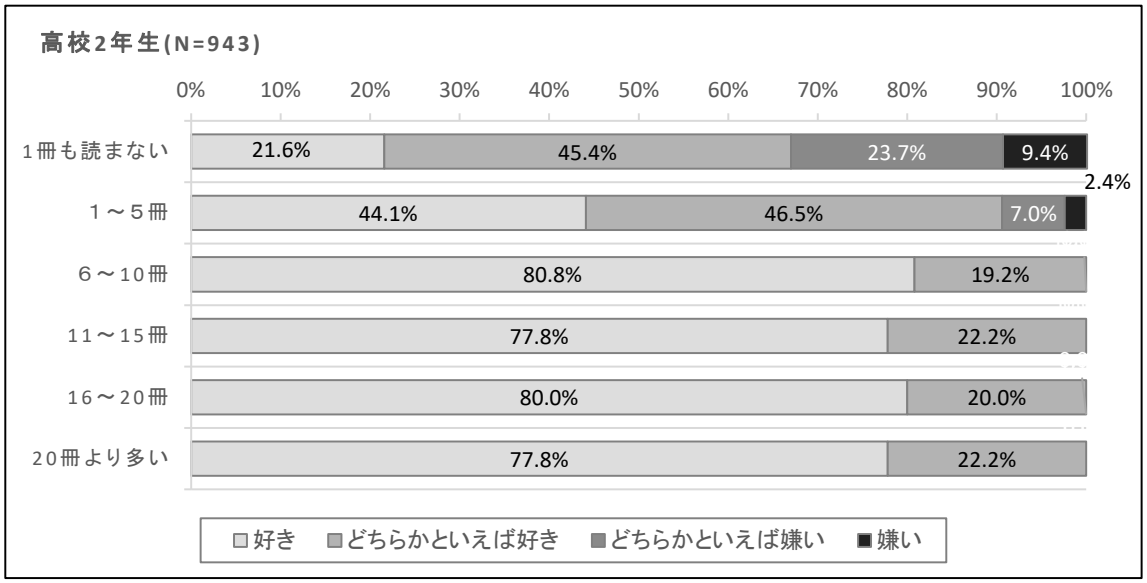
①　小学校５年生



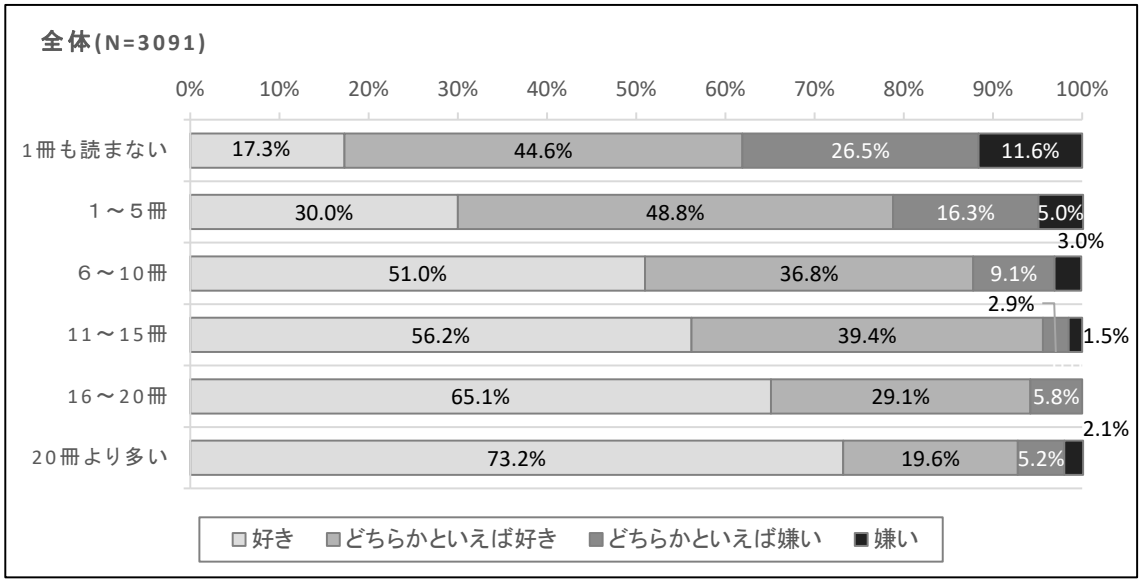
② 中学校２年生



③ 高校２年生

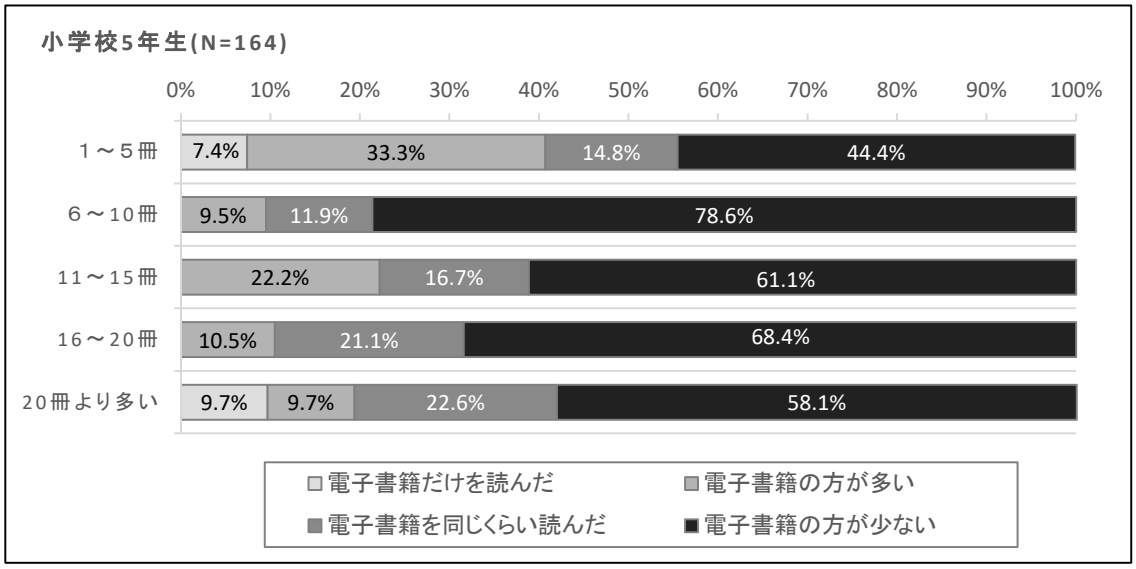


④ 全体

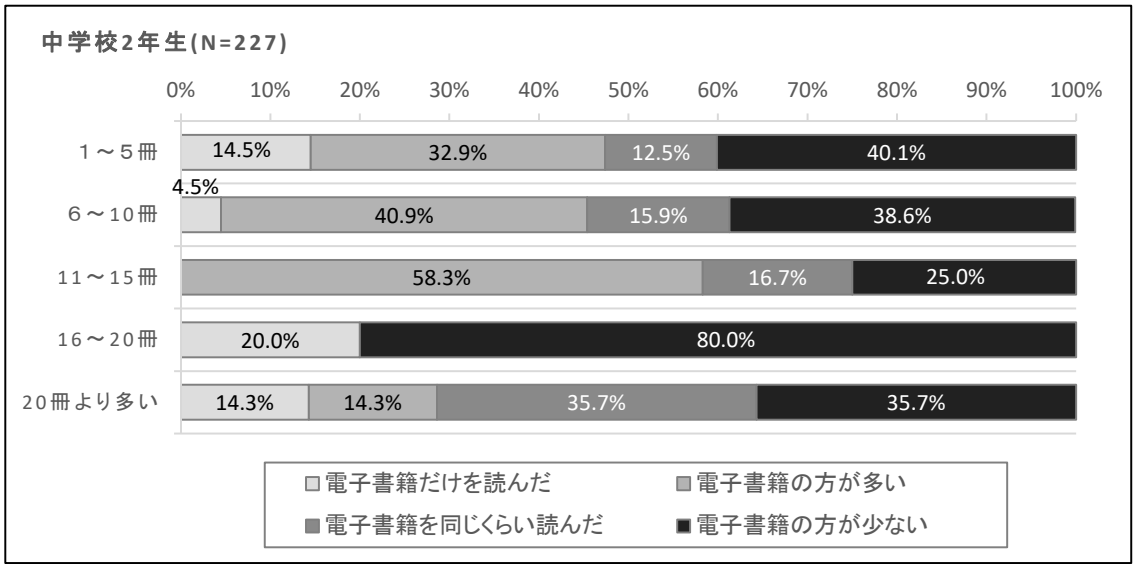


（12）クロス集計２　「1 ヶ月の読書量」×「電子書籍の読書状況」

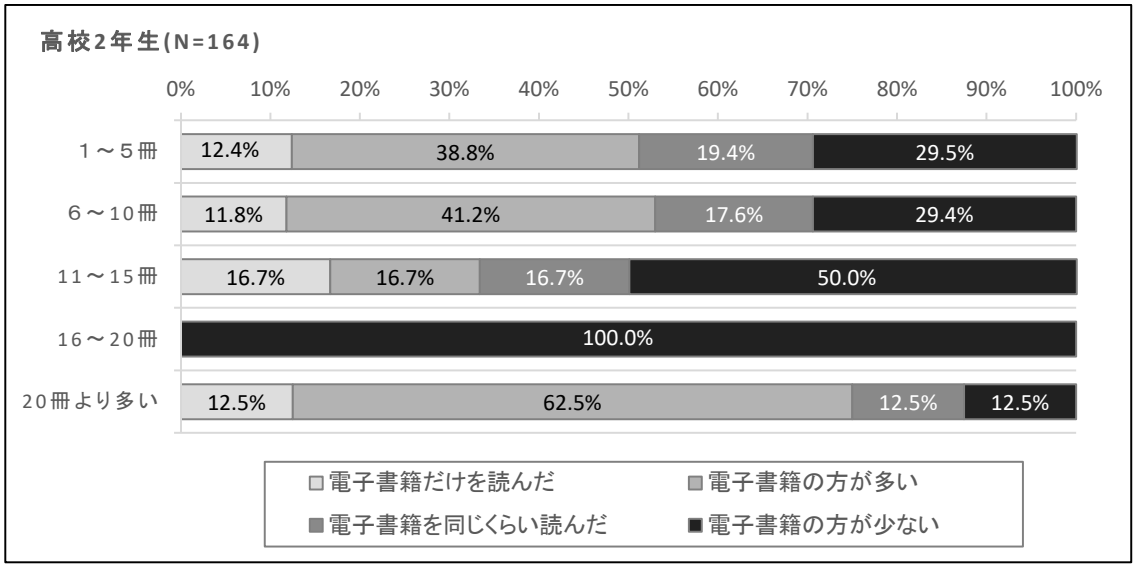
①　小学校５年生



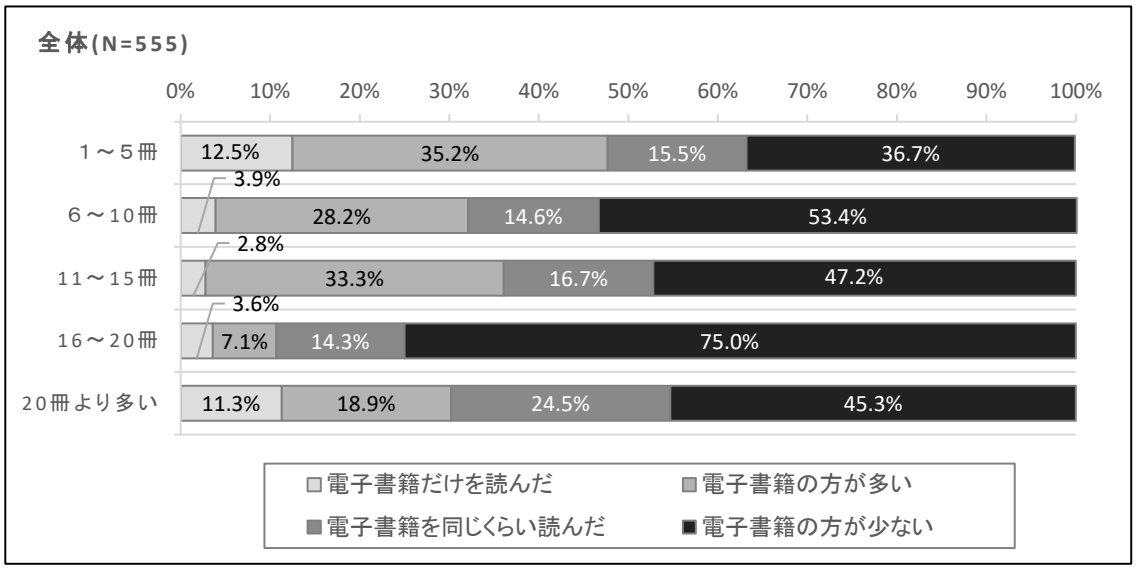
②　中学校２年生



③　高校２年生

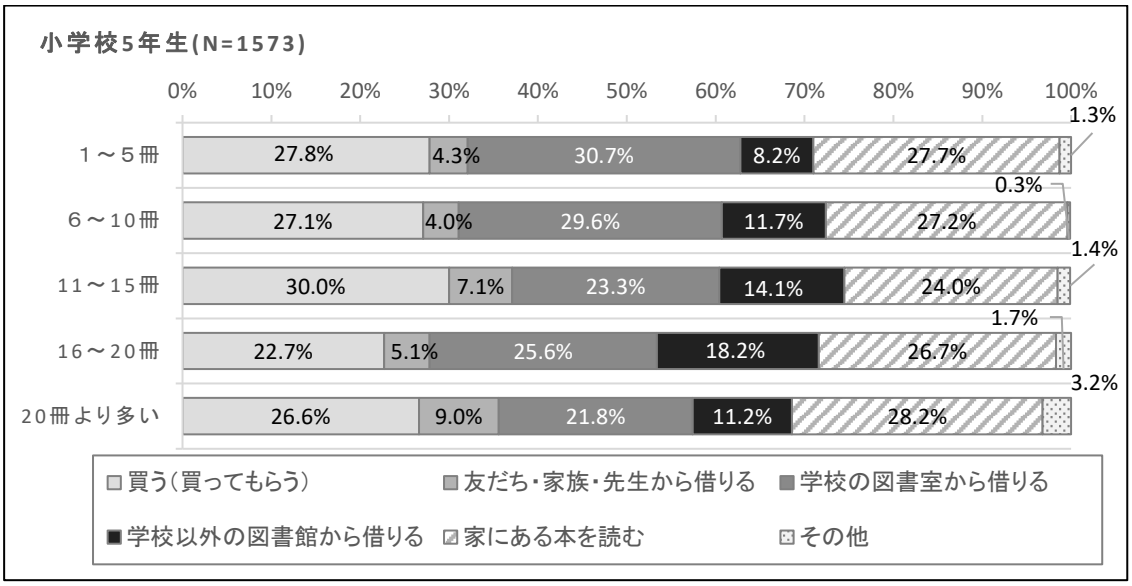


④　全体

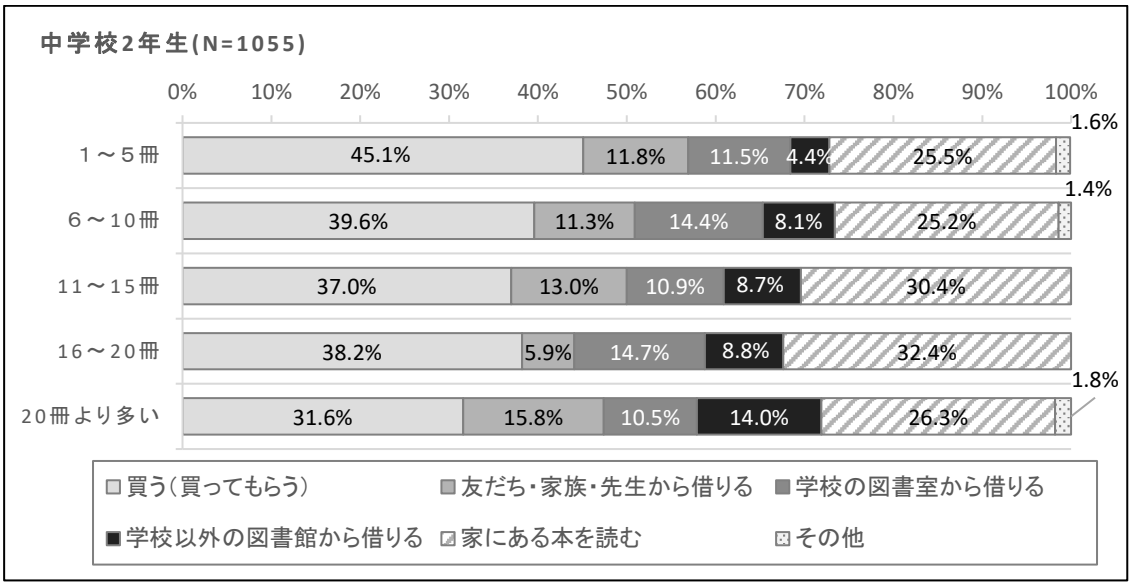


（13）クロス集計３　「1ヶ月の読書量」×「本の入手方法」

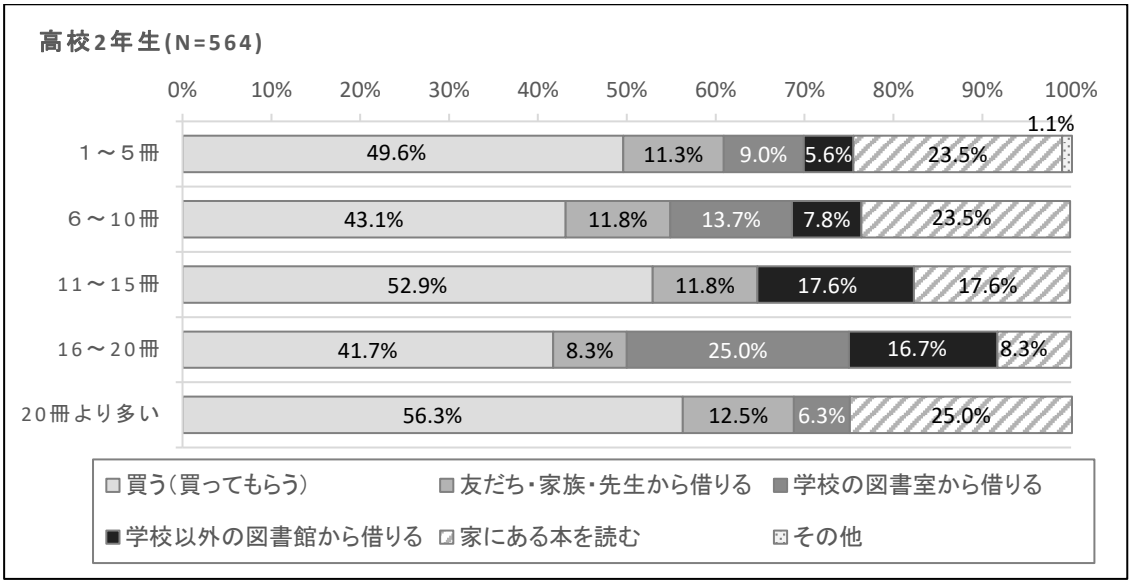
①　小学校５年生



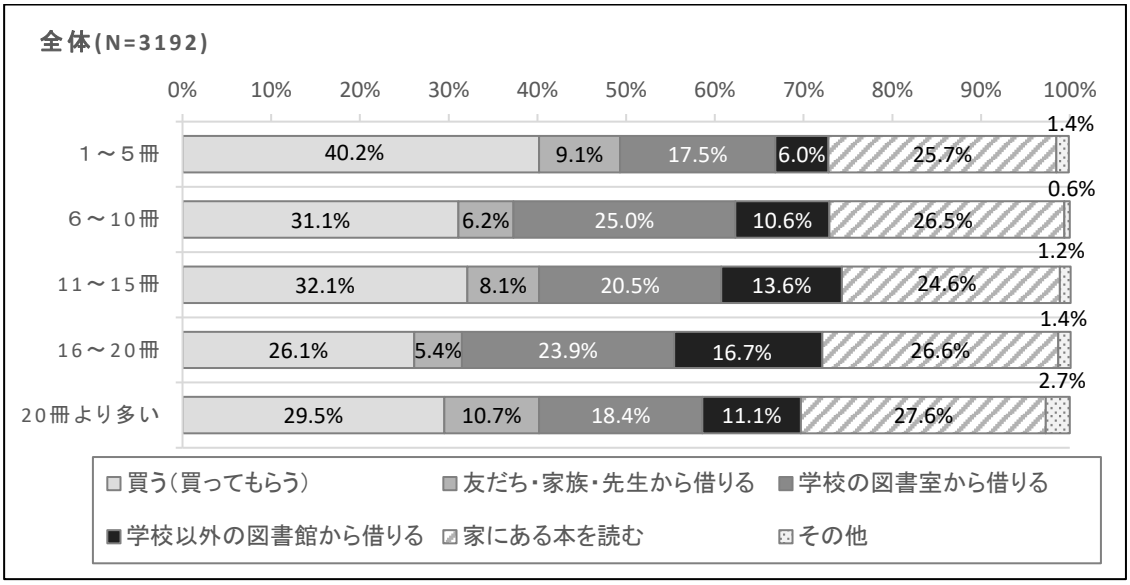
②　中学校２年生



③　高校２年生

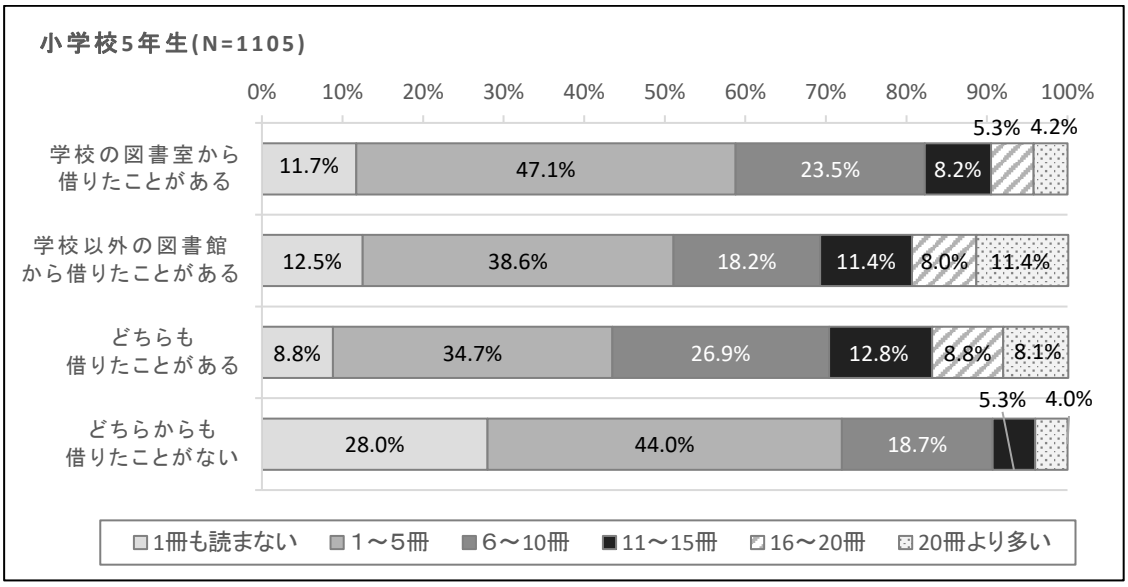


④　全体

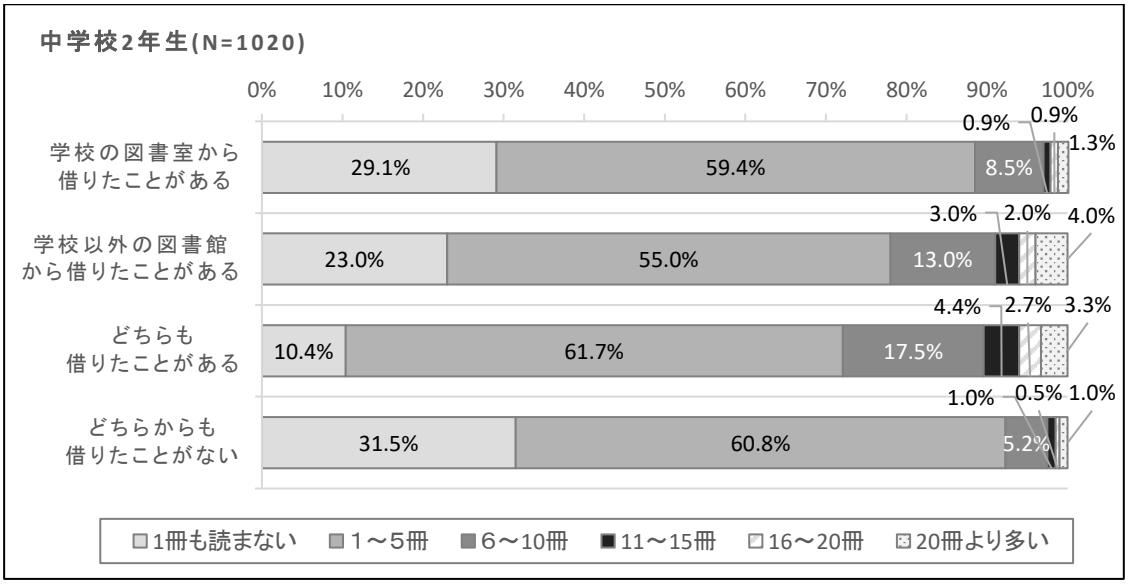


（14）クロス集計４　「各種図書館から本を借りた経験」×「１ヶ月の読書量」

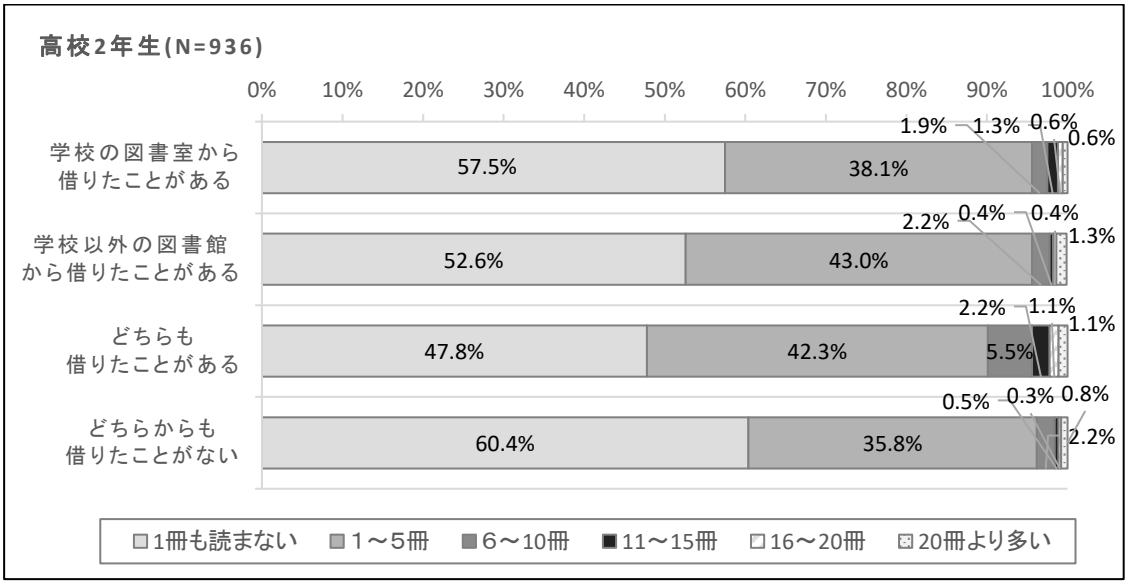
①　小学校５年生



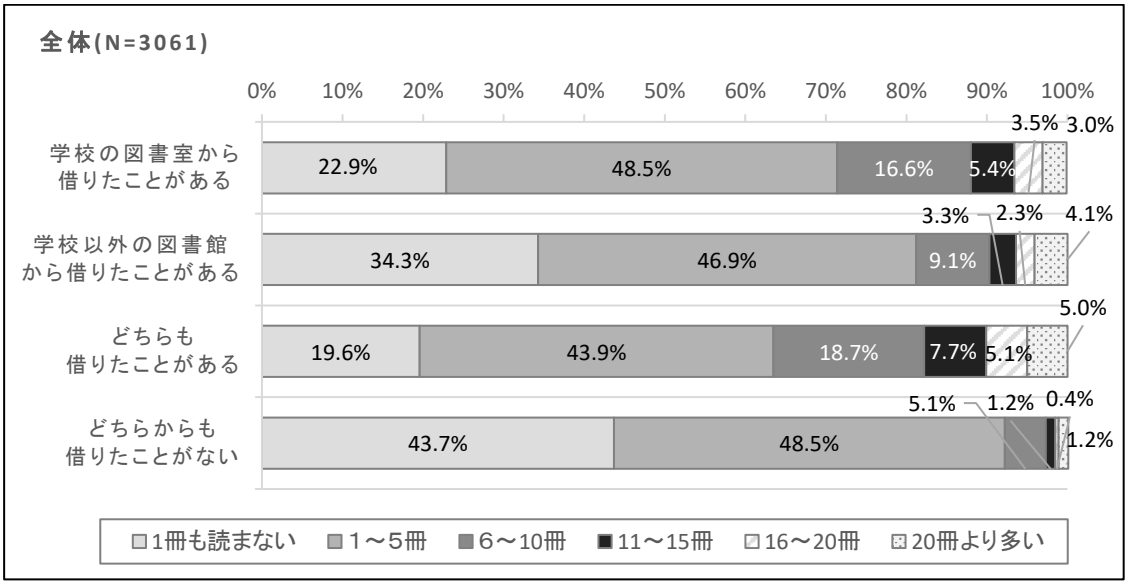
② 中学校２年生



③ 高校２年生

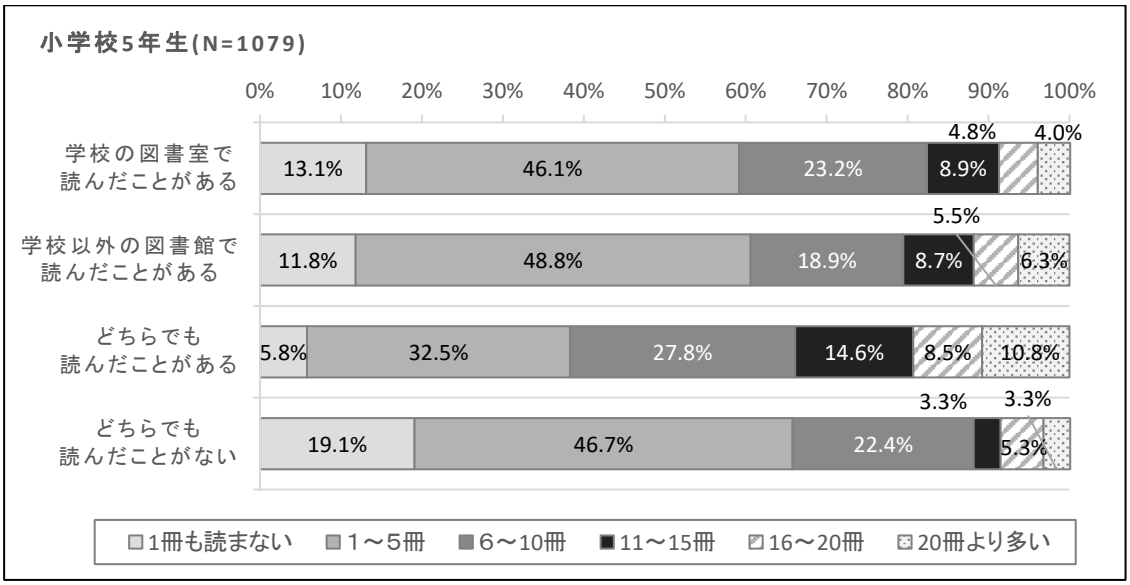


④ 全体

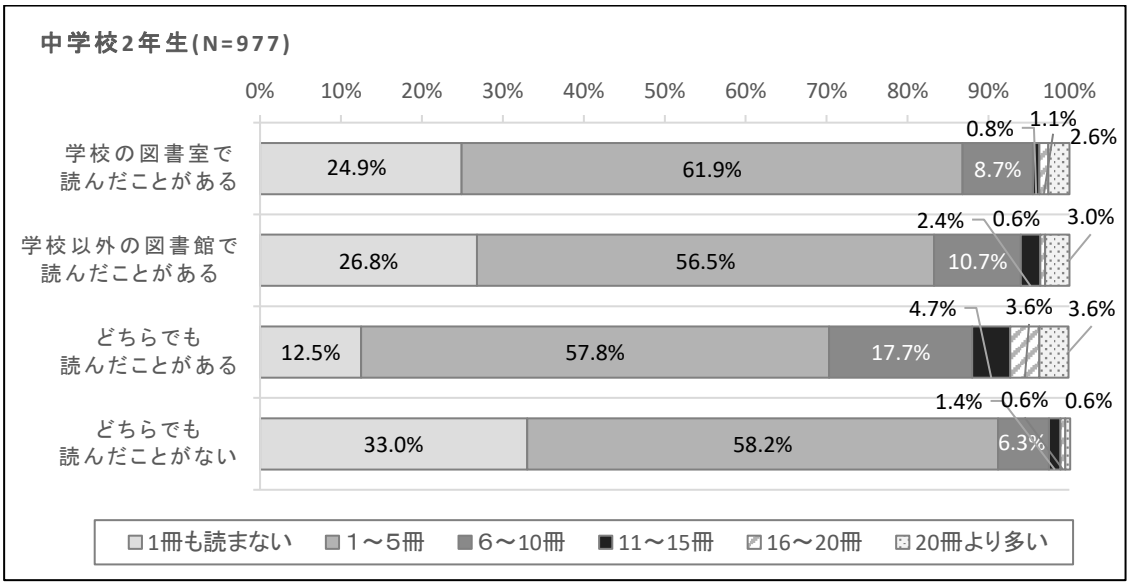


（15）クロス集計５　「各種図書館で本を閲覧した経験」×「１ヶ月の読書量」

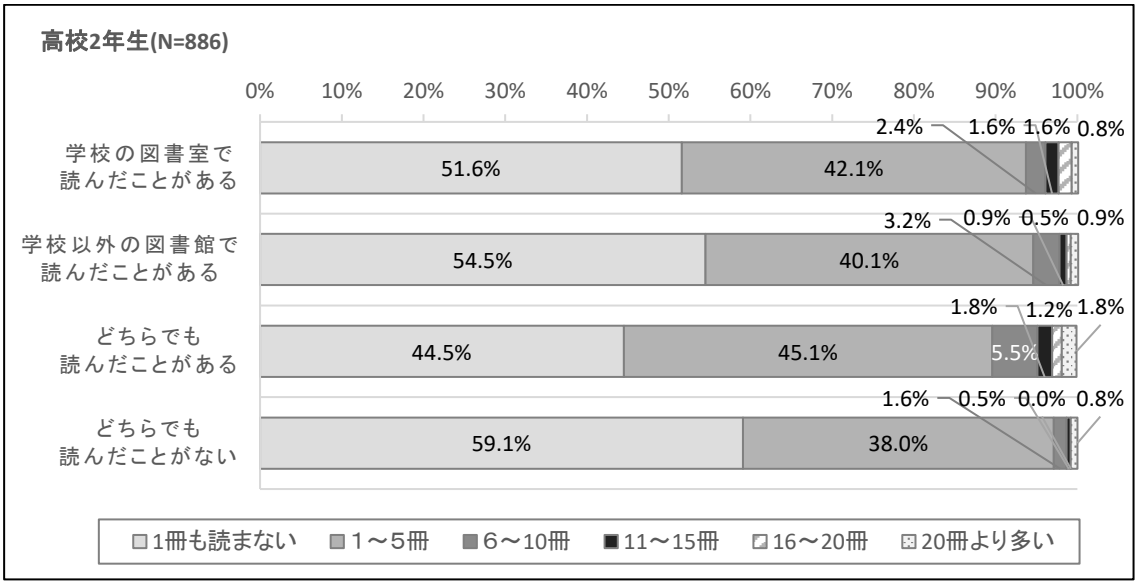
①　小学校５年生



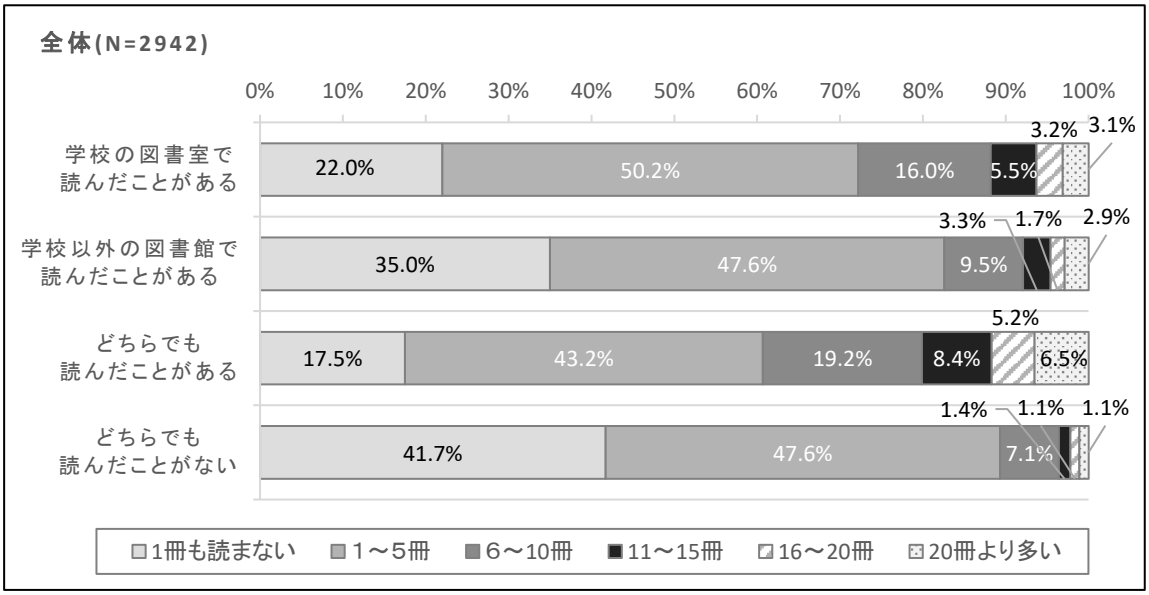
②　中学校２年生



③　高校２年生



④　全体


全体(N=2942)
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
学校の図書室で読んだことがある
22.0%
50.2%
16.0%
5.5%
3.2%
3.1%
学校以外の図書館で読んだことがある
35.0%
47.6%
9.5%
3.3%
1.7%
2.9%
どちらでも読んだことがある
17.5%
43.2%
19.2%
8.4%
5.2%
6.5%
どちらでも読んだことがない
41.7%
47.6%
7.1%
1.4%
1.1%
1.1%
1冊も読まない
1～5冊
6～10冊
11～15冊
16～20冊
20冊より多い

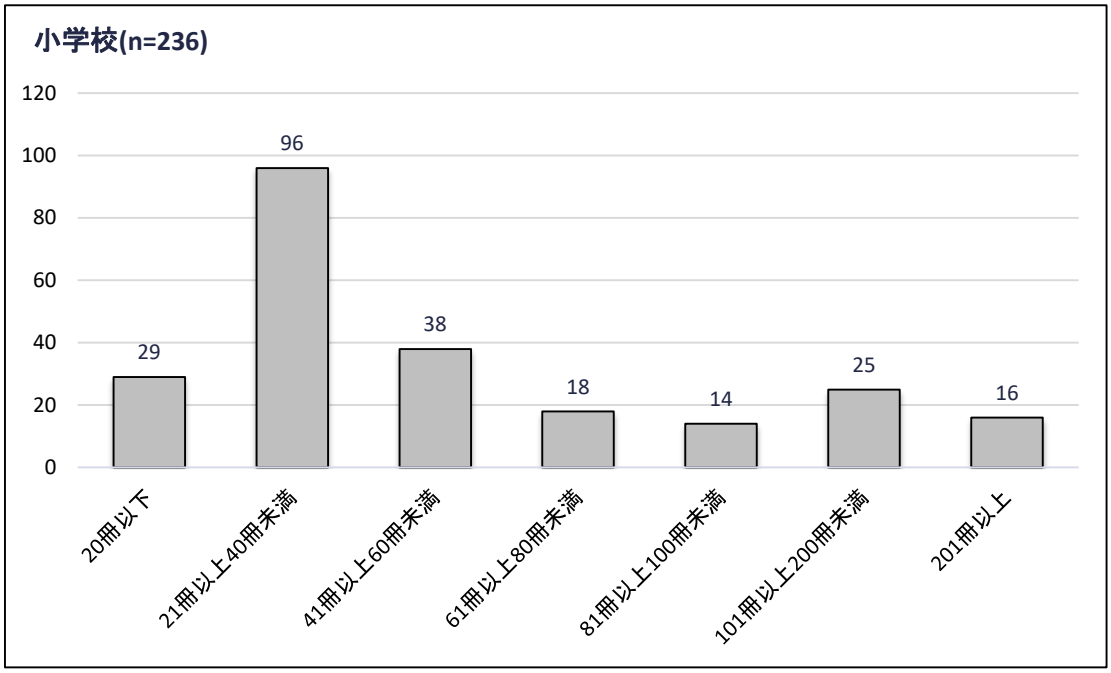
３　子どもの読書活動推進に関する学校状況調査

青森県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校合わせて 484 校を対象とし、小学校 237 校、中学校 129 校、高等学校 48 校、特別支援学校 21 校の計 435 校から回答を得た結果である。なお、無回答、不明等の回答、分析数は集計から除外したため、各学校の総数とは一致しない場合がある。

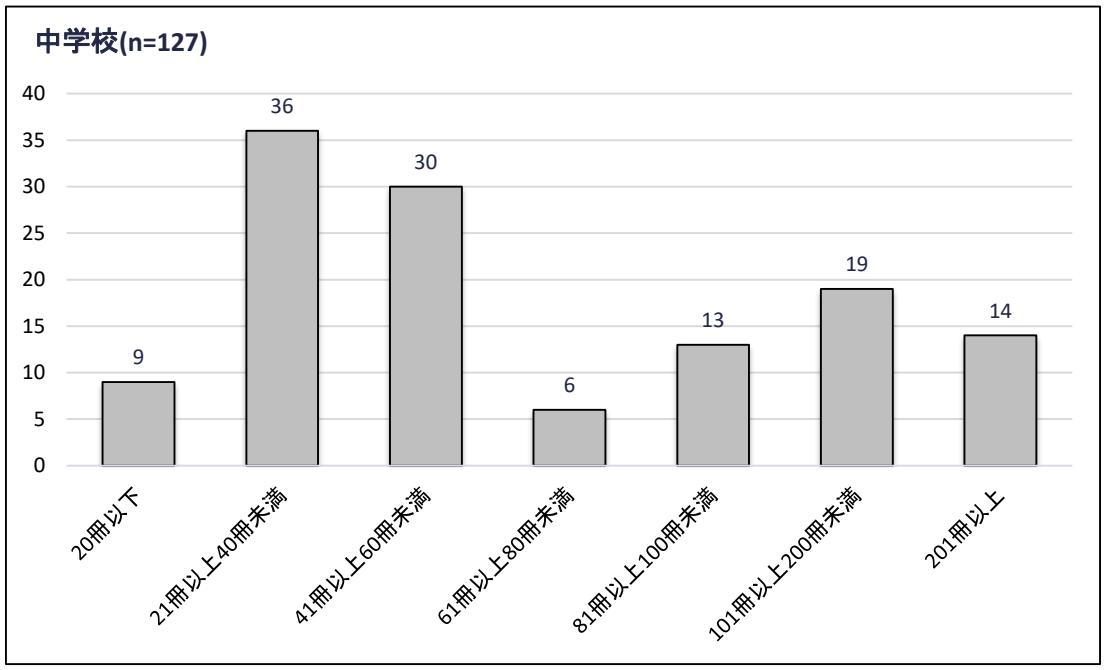
（１）１人あたりの蔵書冊数

設問６　「学校図書館の蔵書数」（令和５年５月１日現在）を設問４「児童・生徒数」（令和５年５月１日現在）で割り、１人あたりの蔵書数を算定した。100 冊未満は 20 冊単位とし、それ以上は１００冊単位としグラフ化した。

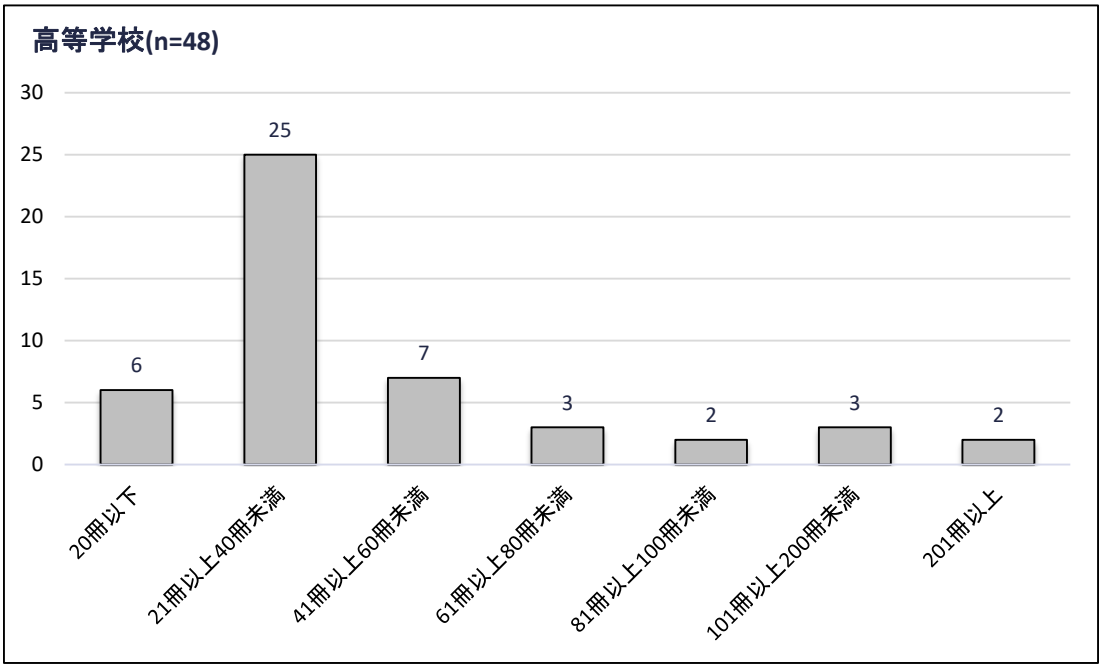
① 小学校



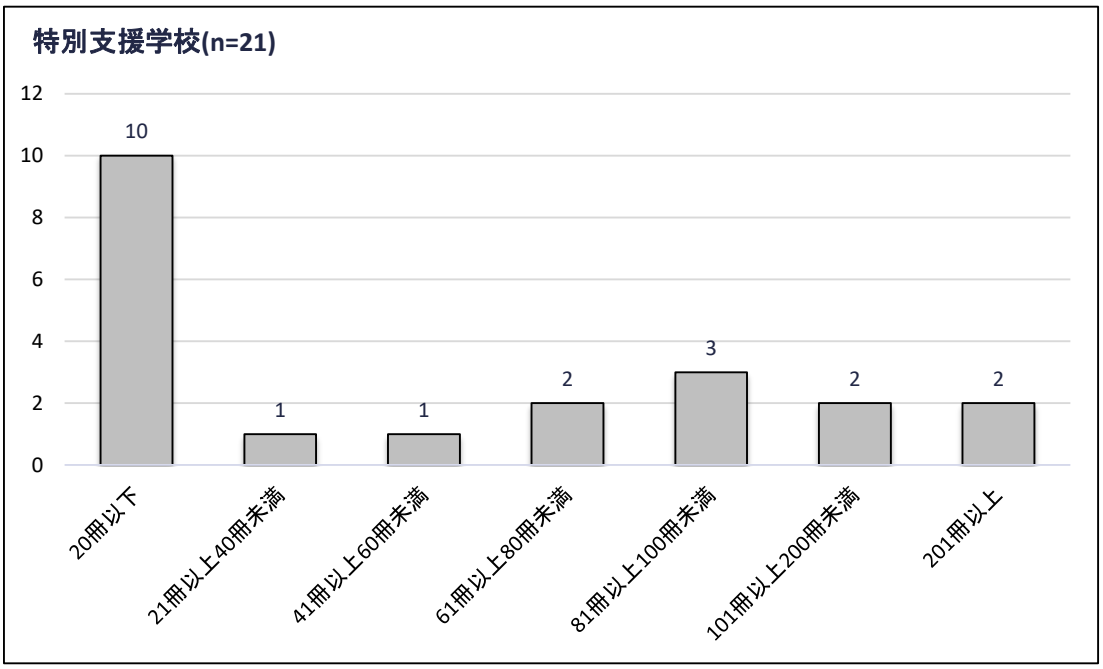
② 中学校



③ 高等学校



④ 特別支援学校



（２）学校図書館図書標準達成状況

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成５年３月に文部科学省により定められた「学校図書館図書標準」の達成状況を整理した。

なお、各学校の達成状況は、次の表を用いて判定している。

ア　小学校

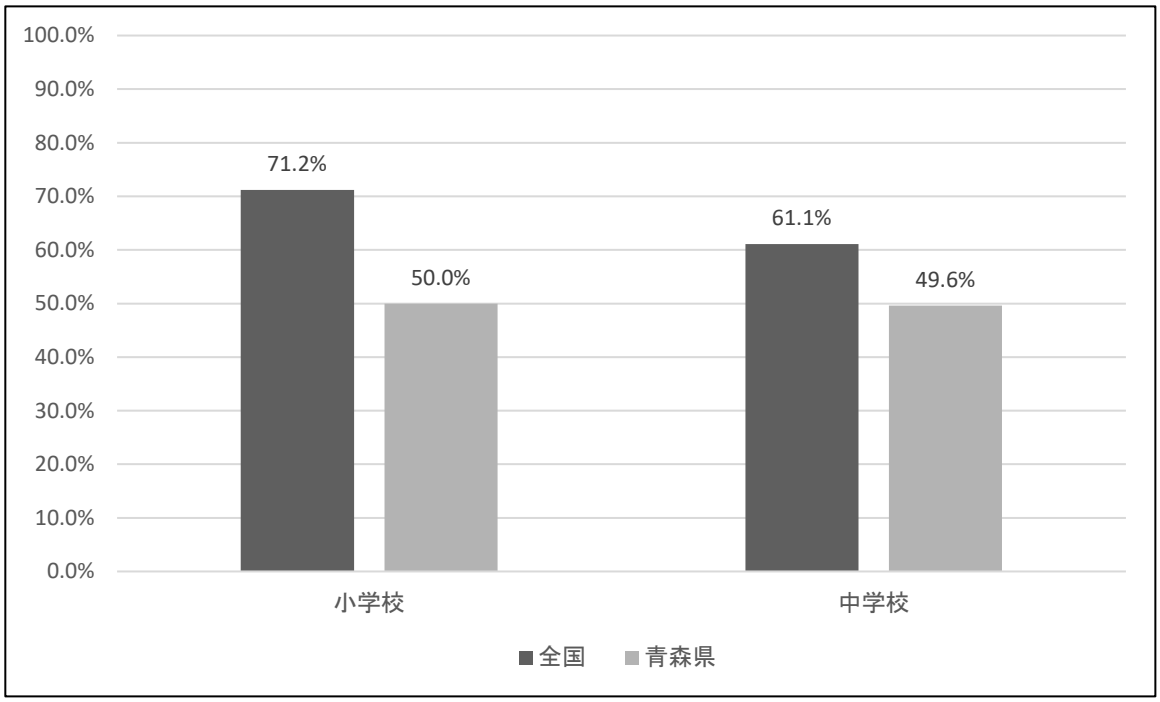
学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3～ 6	3,000＋520×（学級数－ 2）
7～12	5,080＋480×（学級数－ 6）
13～18	7,960＋400×（学級数－12）
19～30	10,360＋200×（学級数－18）
31～	12,760＋120×（学級数－30）

イ　中学校

学級数	蔵書冊数
1～ 2	4,800
3～ 6	4,800＋640×（学級数－ 2）
7～12	7,360＋560×（学級数－ 6）
13～18	10,720＋480×（学級数－12）
19～30	13,600＋320×（学級数－18）
31～	17,440＋160×（学級数－30）

※全国の数値は「令和２年度　学校図書館の現状に関する調査」の結果によるもの

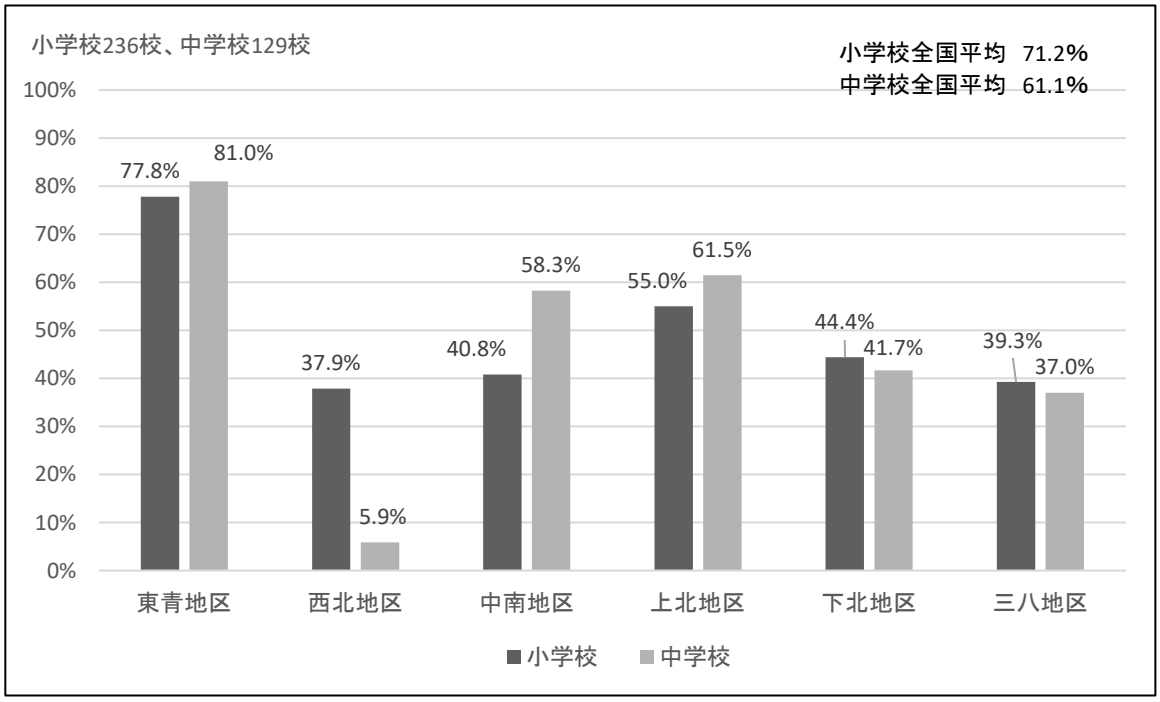
①　小中学校（公立）と全国の比較



	青森県		達成率	
	学校数	達成数	全国	青森県
小学校	236	118	71.2%	50.0%
中学校	127	63	61.1%	49.6%

② 県内６地区の達成状況

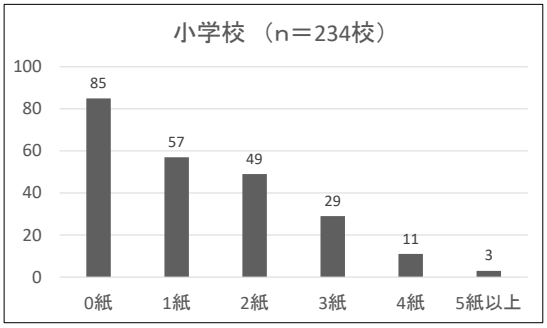
※達成率は、達成した学校数を回答のあった学校数で割って算出した。

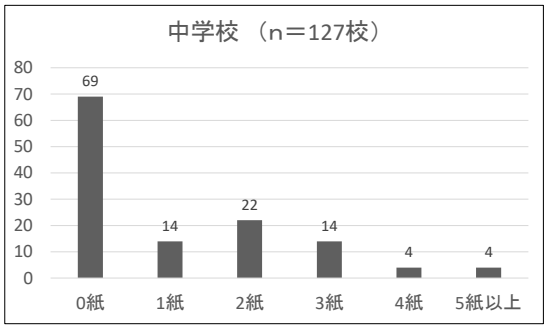


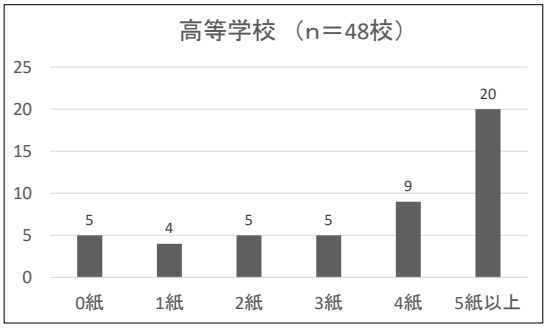
全国平均を上回っているのは、小学校では「東青地区」のみで、中学校では「東青地区」及び「上北地区」である。

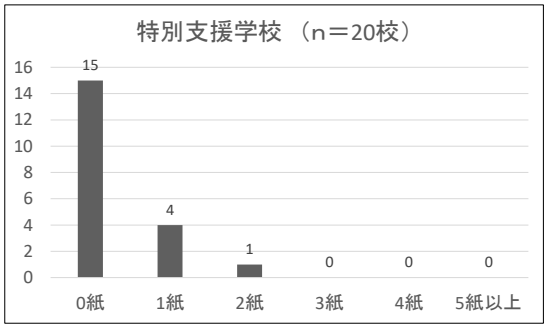
（３）学校図書館の新聞の購読数

設問７　「学校図書館の新聞の購読数」（令和５年５月１日現在）を校種ごとに整理した。







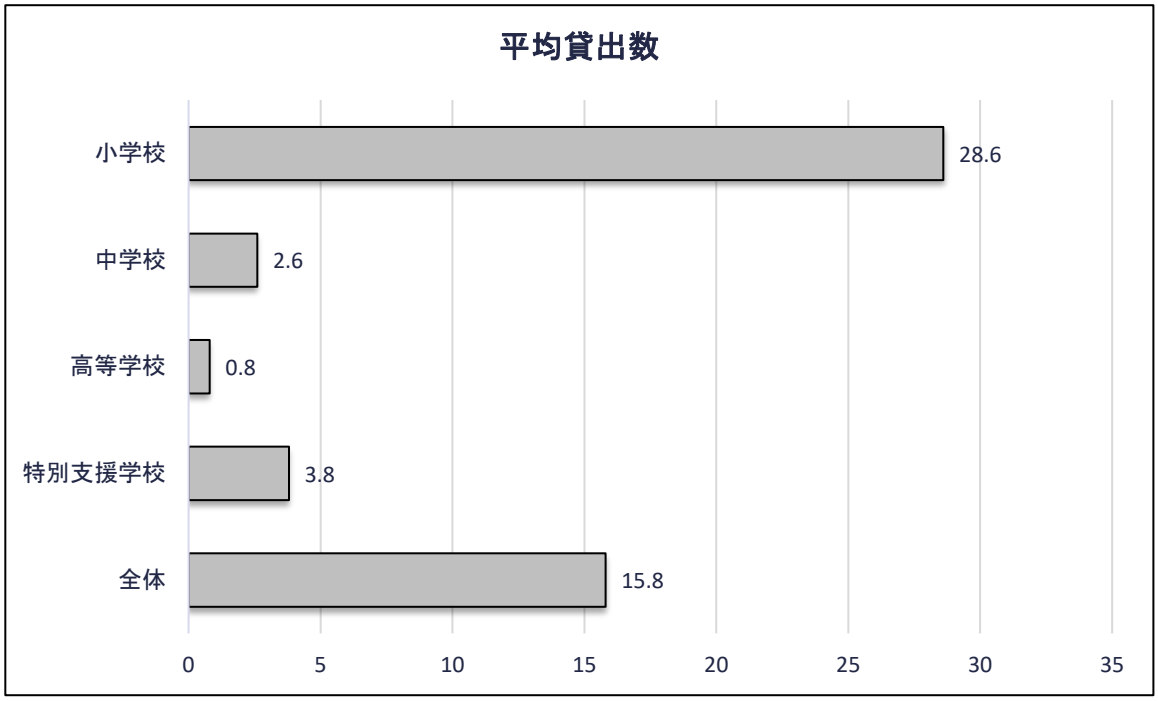


小学校、中学校、特別支援学校では０紙が多く、高等学校では５紙以上が多い。

（４）学校図書館の１人あたり年間貸出冊数

設問８「学校図書館の年間貸出冊数」（令和４年度の実績）から校種ごとに総数を算定し、設問４「児童・生徒数」（令和５年５月１日現在）の総数で除し、１人あたりの年間貸出冊数を求めた。

小学校（n=225）、中学校（n=124）、高等学校（n=46）、特別支援学校（n=20）

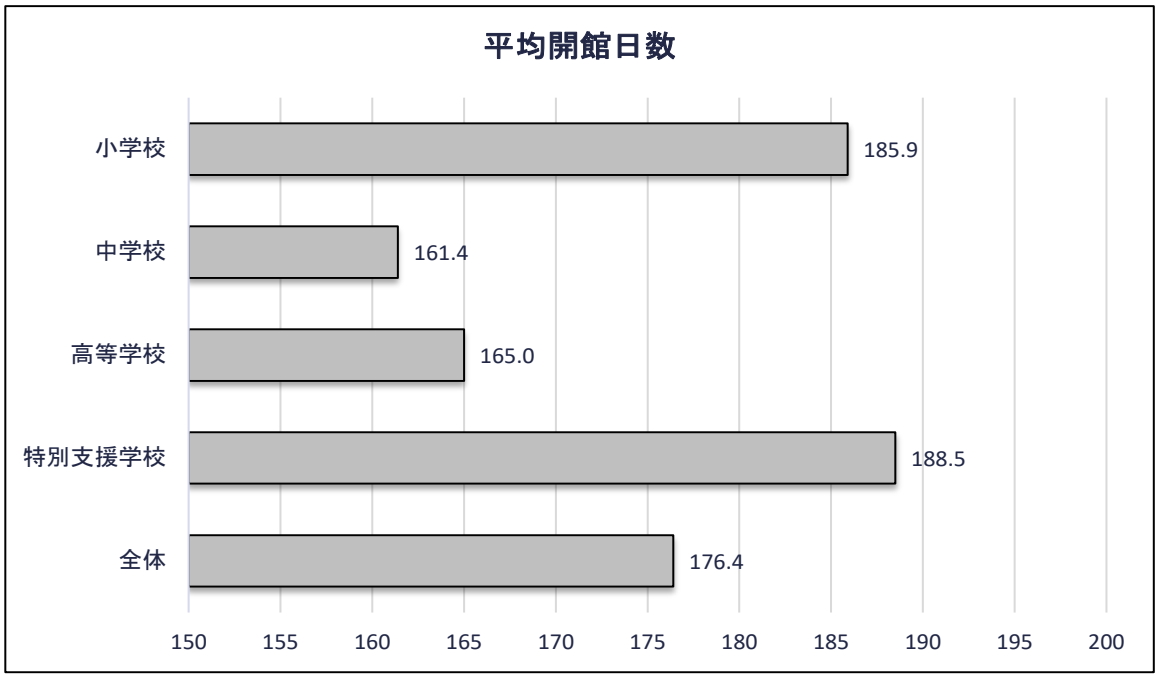


年間の平均貸出数は、小学校で１人あたり約 29 冊となっており、他の校種と比較して多くなっている。

（５）学校図書館の年間開館日数

設問９「学校図書館の年間開館日数」（令和４年度の実績）から校種ごとに総数を算定し、校種ごとに回答のあった学校数で除し年間の平均開館日数を算出した。

小学校（n=235）、中学校（n=127）、高等学校（n=47）、特別支援学校（n=19）

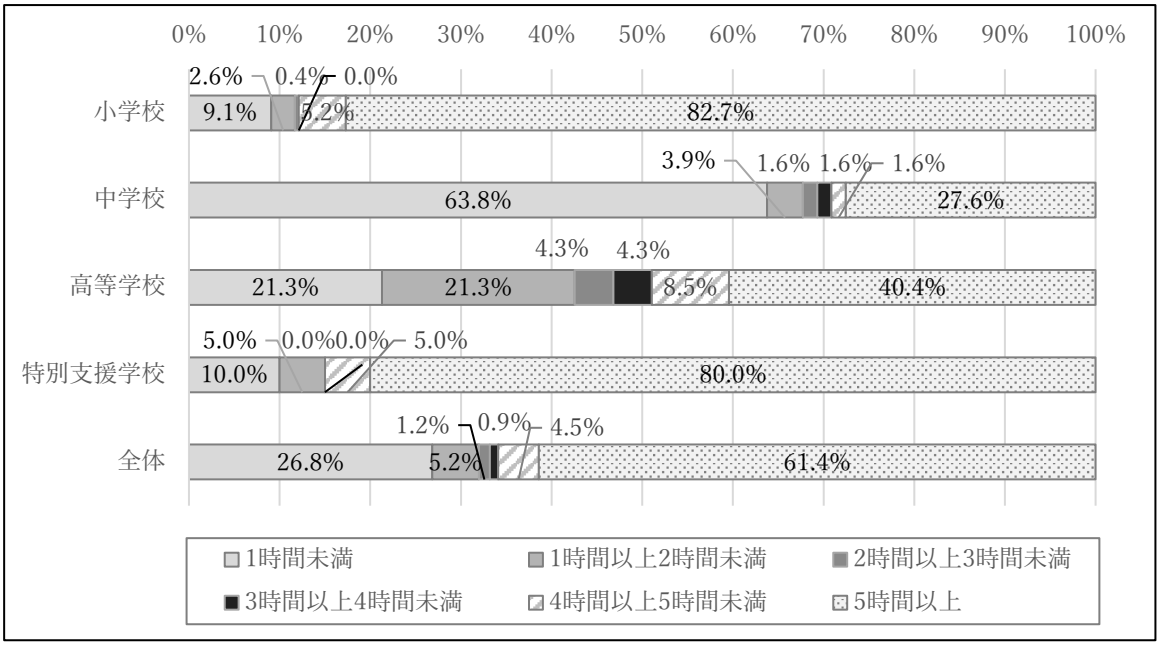


小学校及び特別支援学校では 180～190 日の間となっているが、中学校及び高等学校は 160～170 日の間となっている。

（６）学校図書館の通常の開館時間

設問 10「学校図書館の通常の開館時間」（授業等を含め、生徒が利用できる時間に限る）の回答を校種ごとに整理した。

小学校（n=231）、中学校（n=127）、高等学校（n=47）、特別支援学校（n=20）



小学校、高等学校及び特別支援学校では「5 時間以上」が最も多く、中学校では「1 時間未満」が最も多くなっている。

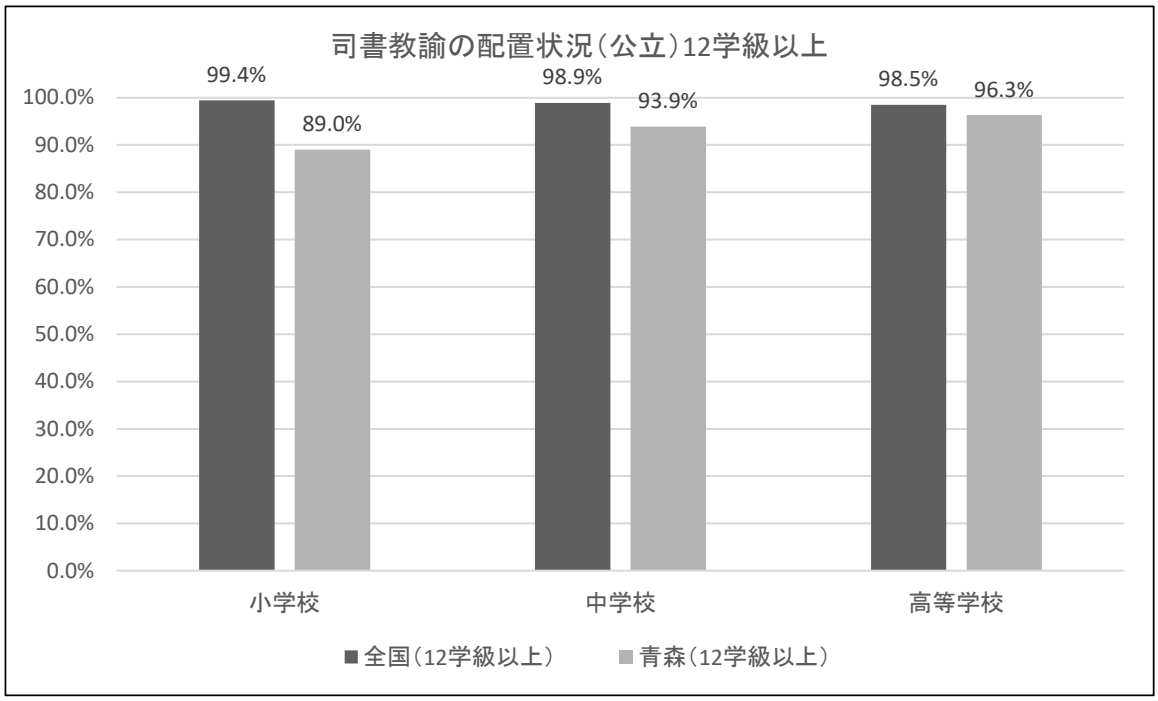
（7）司書教諭配置状況

設問 11「司書教諭配置人数（発令されている職員）」（令和５年５月１日現在）より司書教諭が１ 人以上発令されている学校と発令されていない学校を整理した。また、12 学級以上の学校には必ず配置することが学校図書館法(昭和二八年法律第一八五号)に定められているので、学校を 12 学級以上と 11 学級以下に区別し、校種ごとに学校司書の配置状況を整理した。

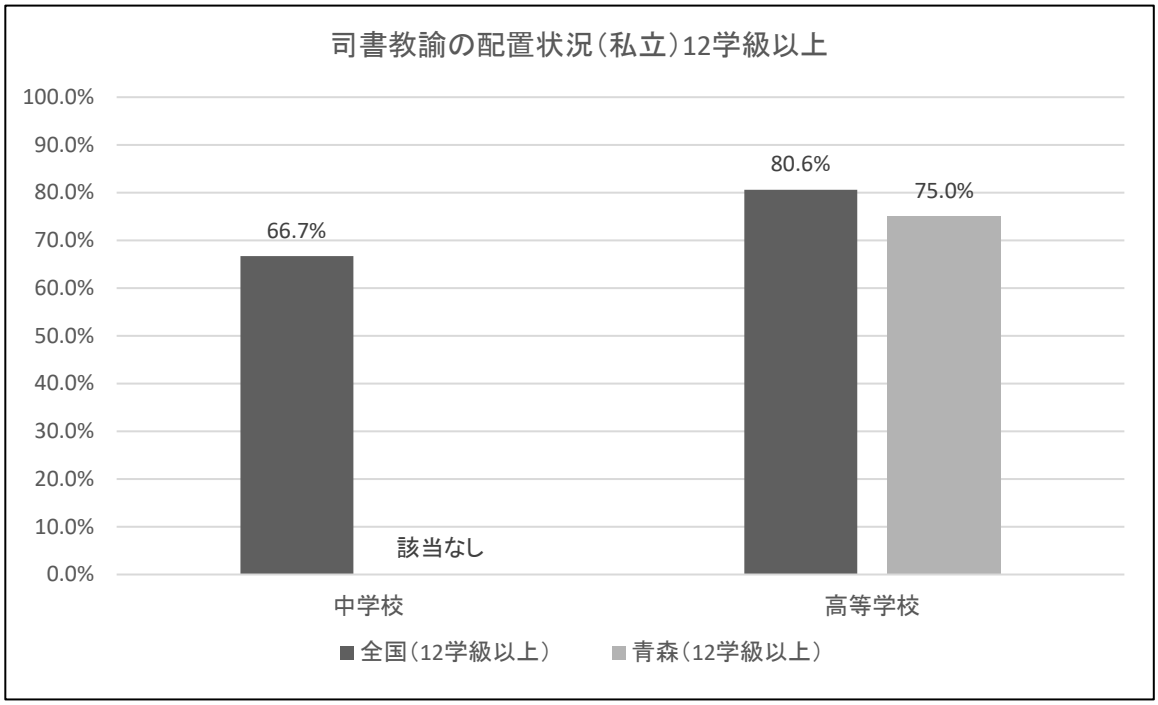
※全国の数値は「令和２年度学校図書館の現状に関する調査」の結果によるもの

① 12 学級以上

該当校数：小学校 237 校中 100 校（無回答 1 校）、中学校 127 校中 33 校、高等学校 39 校中 27 校

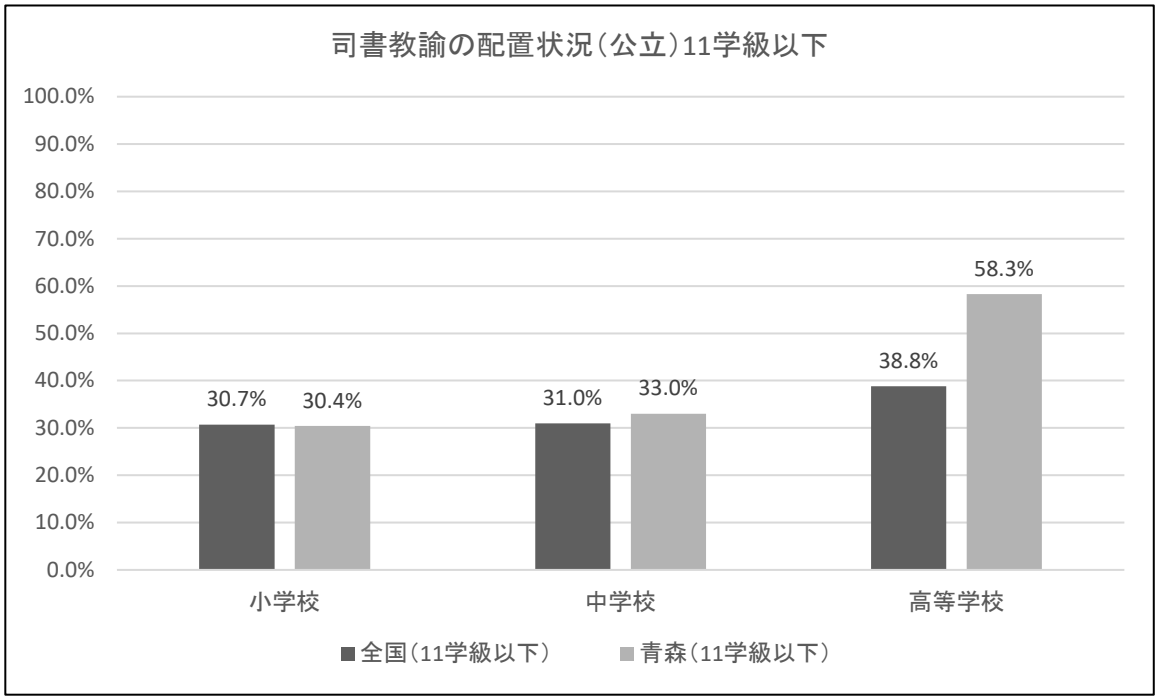


該当校数：中学校２校中０校、高等学校９校中８校

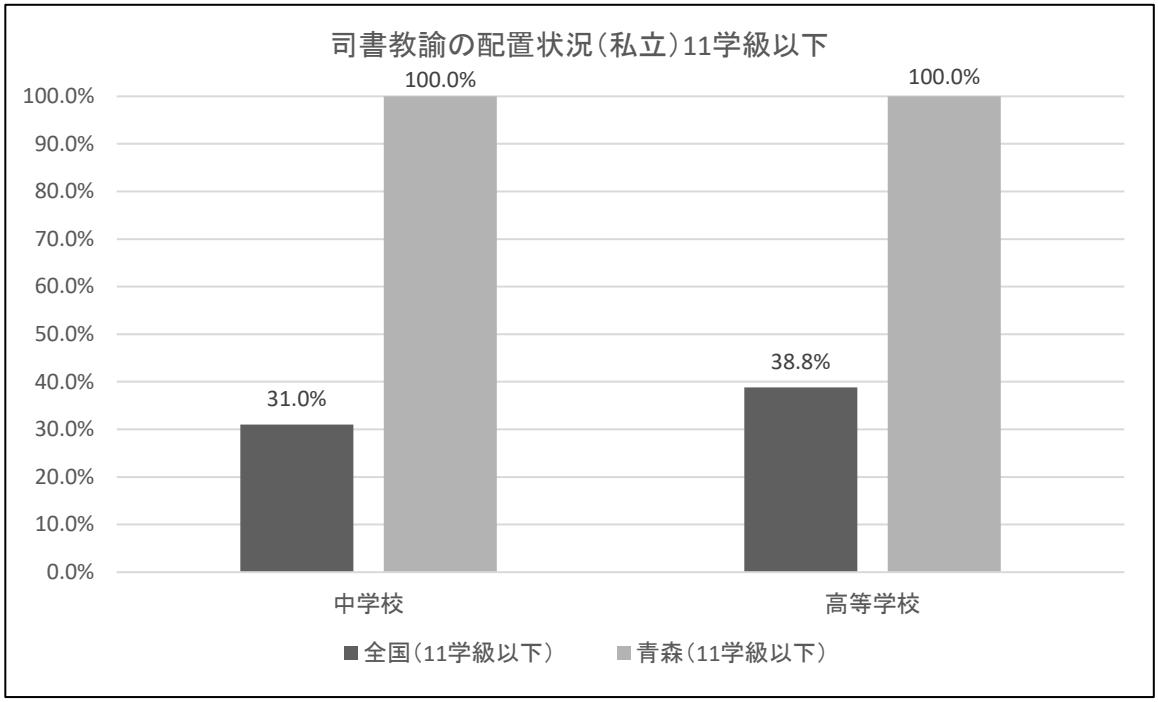


② 11 学級以下

該当校数：小学校 237 校中 135 校（無回答 1 校）、中学校 127 校中 94 校、高等学校 39 校中 12 校



該当校数：中学校 2 校中 2 校、高等学校 9 校中 1 校



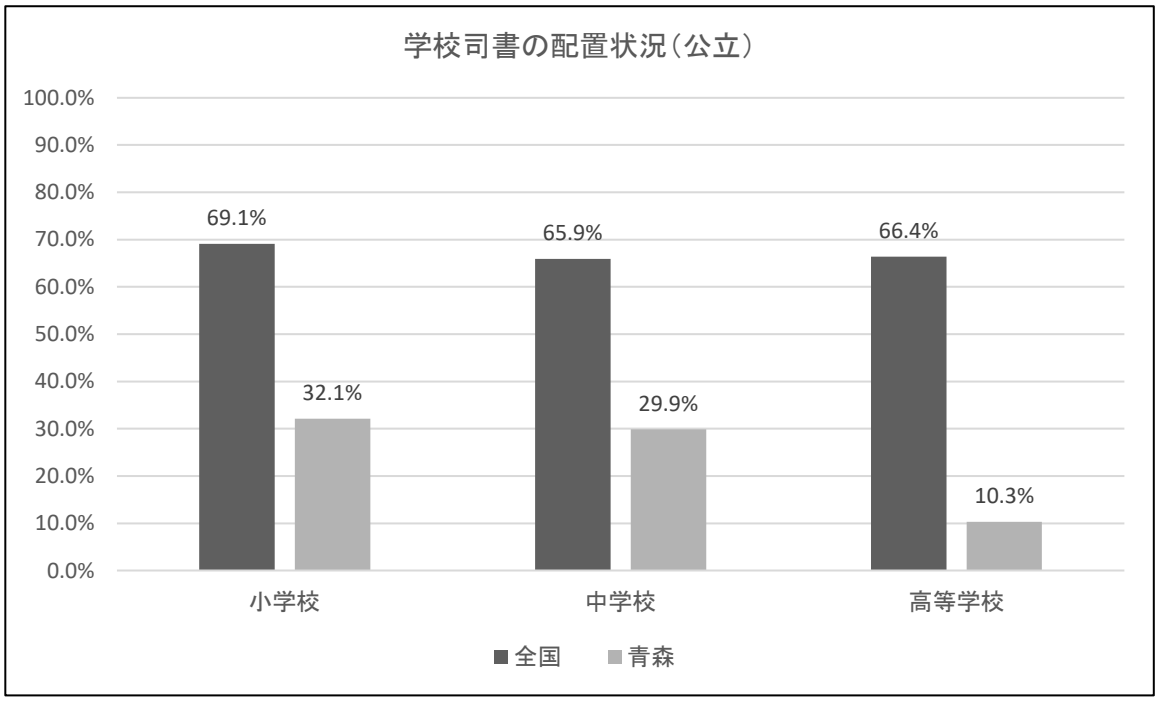
（８）学校司書配置状況

設問 12「学校司書配置人数」（令和５年５月１日現在）より、学校司書の配置状況を整理した。

※全国の数値は「令和２年度学校図書館の現況に関する調査」の結果によるもの

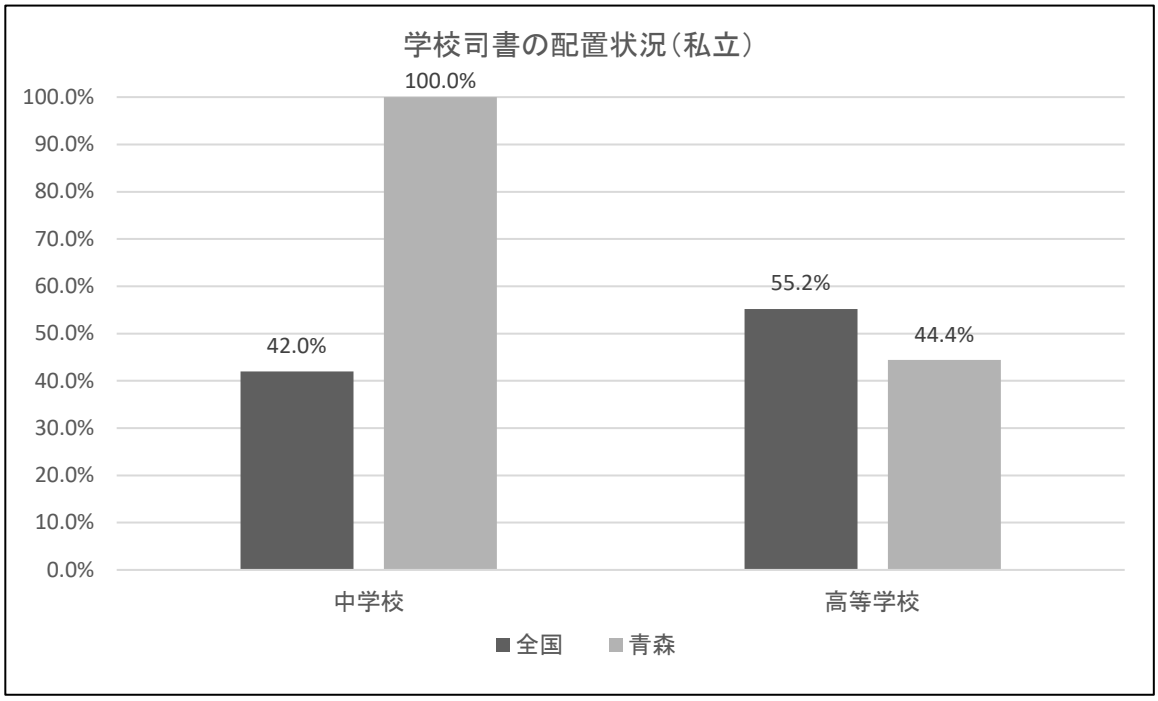
① 公立学校

小学校（n=237）、中学校（n=127）、高等学校（n=39）



② 私立学校

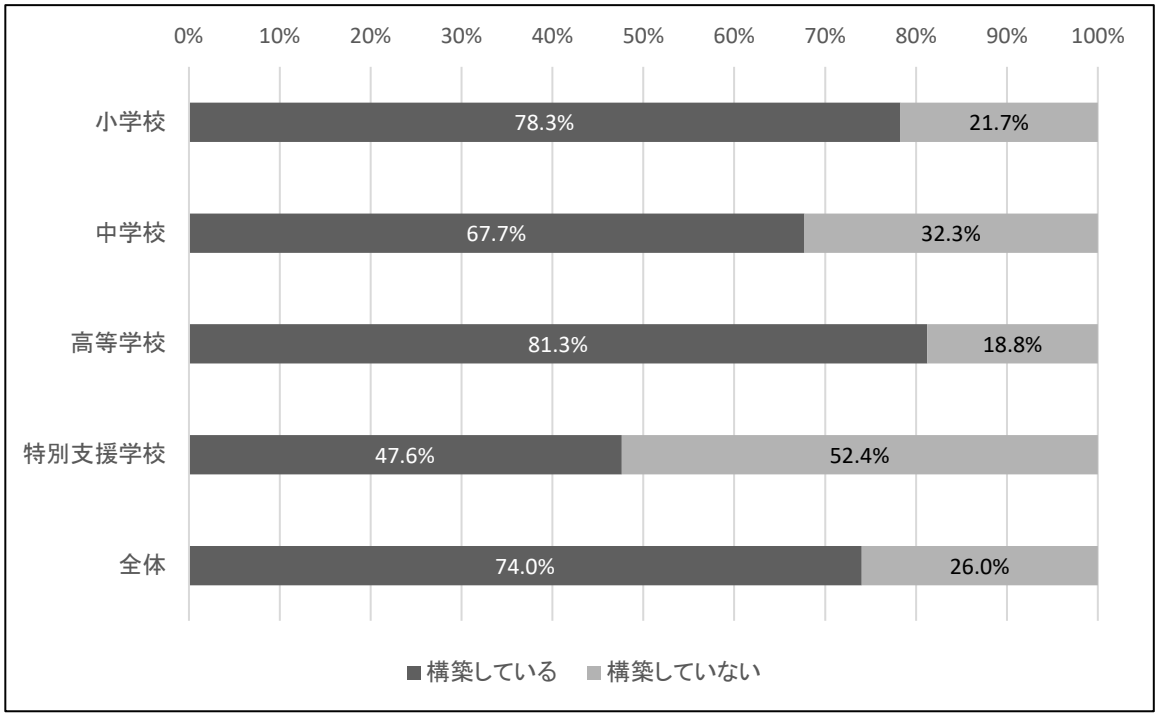
中学校（n=2）、高等学校（n=9）



（9）蔵書のデータベースの構築

設問 13「蔵書のデータベースの構築」について、「構築している」と「構築していない」を整理した。

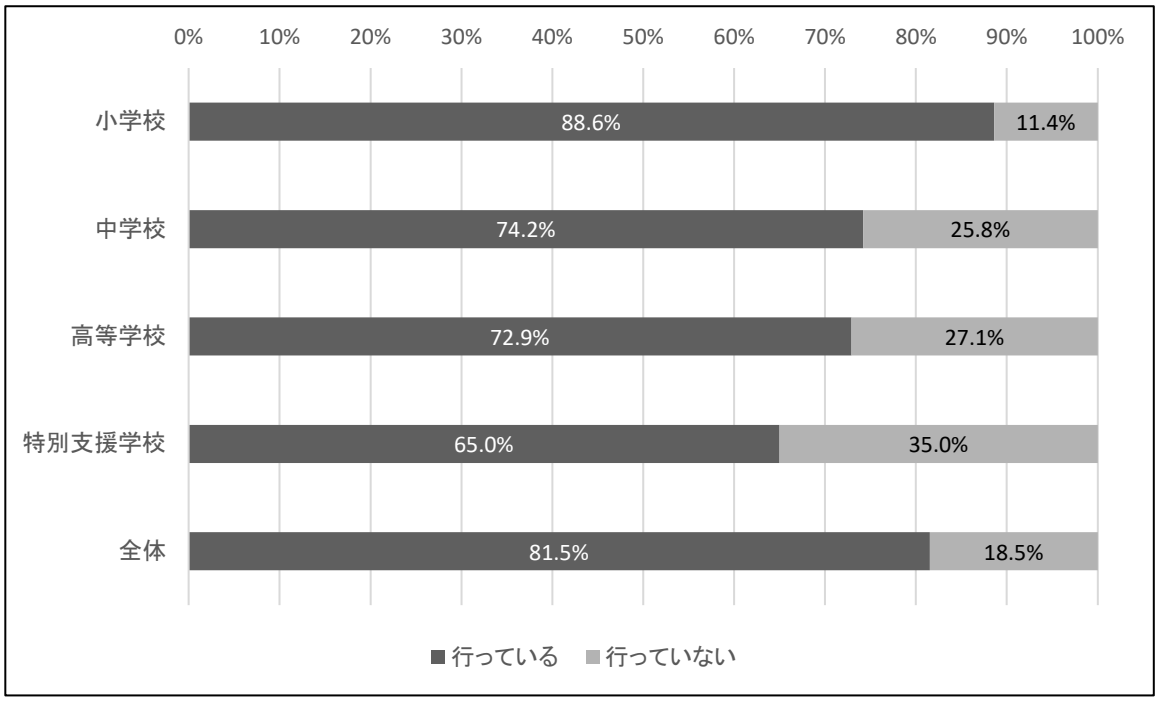
小学校（n=235）、中学校（n=127）、高等学校（n=48）、特別支援学校（n=21）



（10）計画的な蔵書の破棄・更新

設問 14「計画的な蔵書の破棄・更新」について、「行っている」と「行っていない」を整理した。

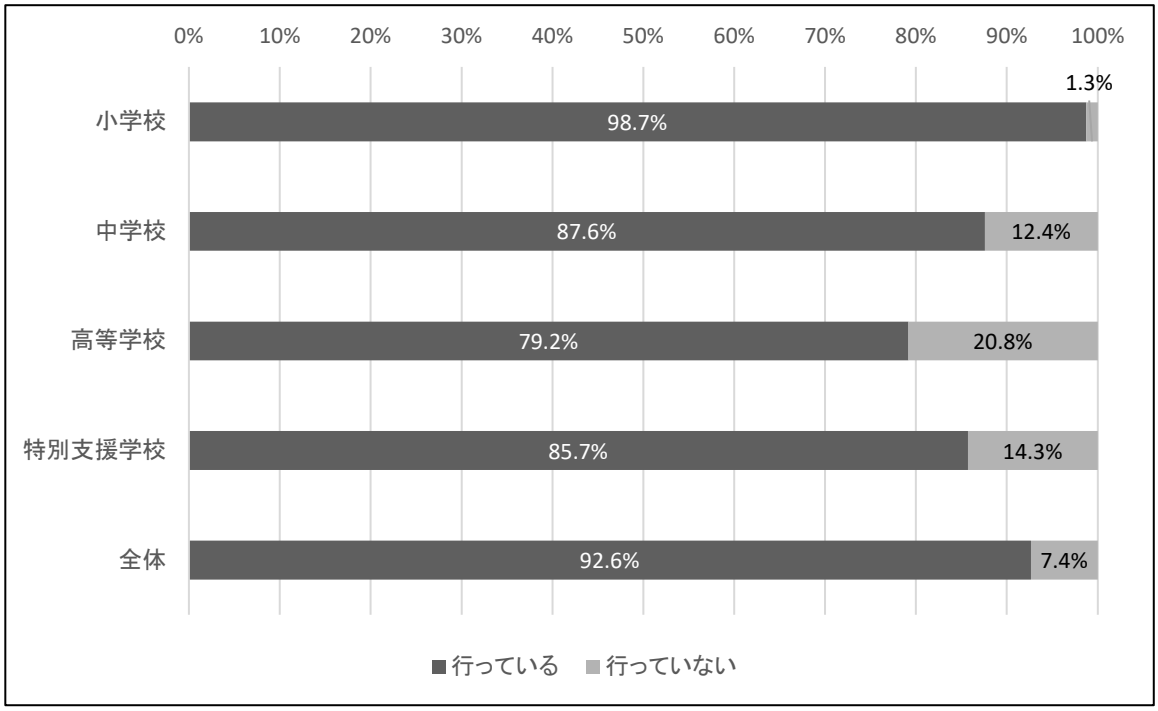
小学校（n=237）、中学校（n=128）、高等学校（n=48）、特別支援学校（n=20）



（11）児童・生徒に対する学校図書館の利用指導

設問 15「児童・生徒に対する学校図書館の利用指導」について、「行っている」と「行っていない」を整理した。

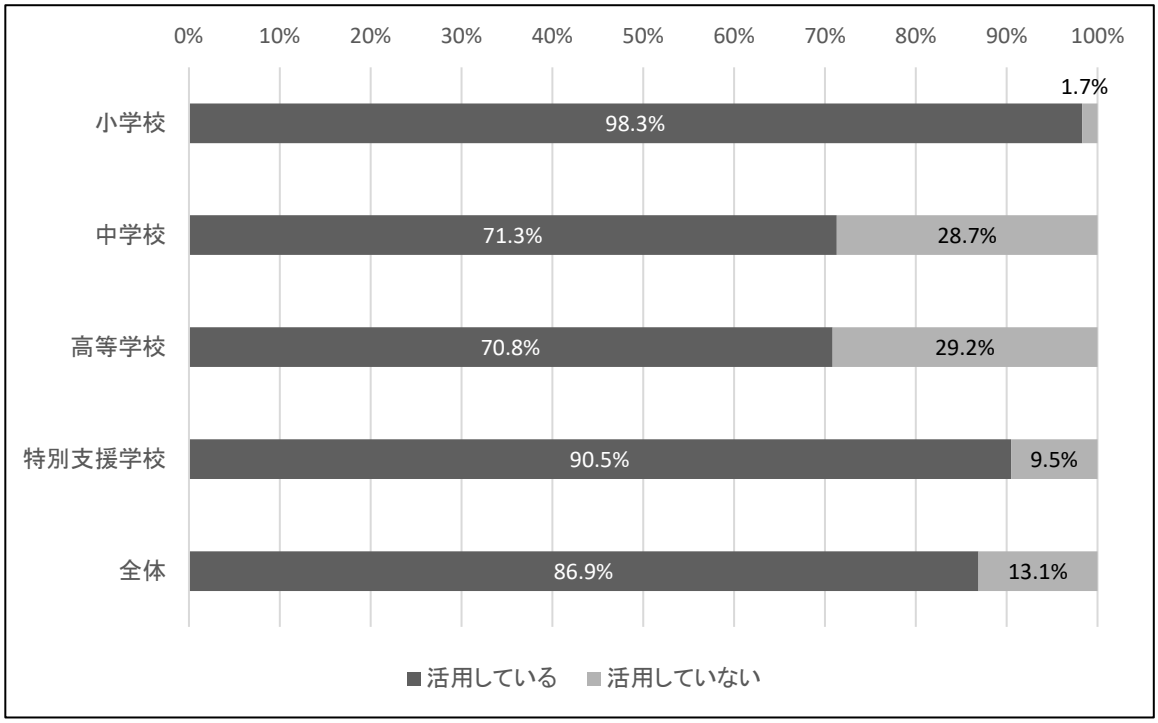
小学校（n=237）、中学校（n=129）、高等学校（n=48）、特別支援学校（n=21）



（12）学校図書館の授業での活用

設問 16「学校図書館の授業での活用」について、「活用している」と「活用していない」を整理した。

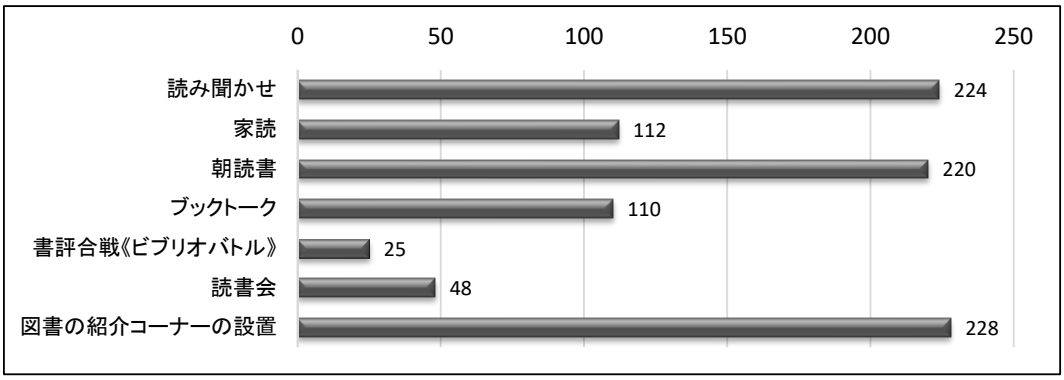
小学校（n=237）、中学校（n=129）、高等学校（n=48）、特別支援学校（n=21）



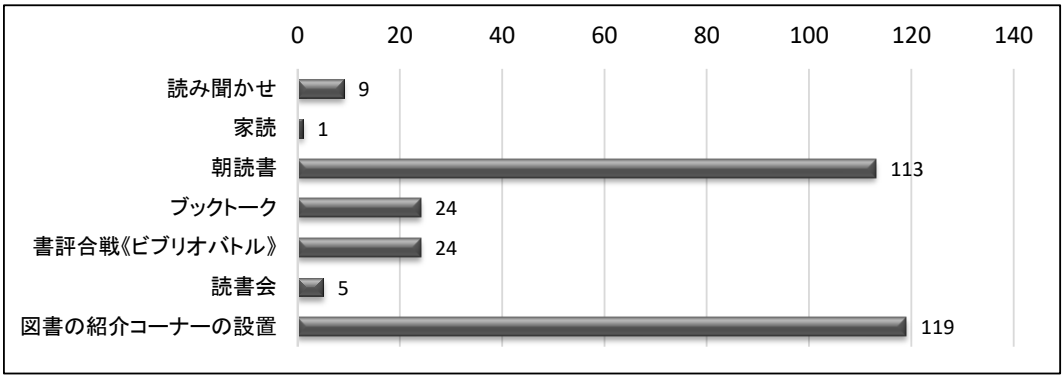
（13）子どもの読書活動推進に向けた取組の実施状況

設問 17「読み聞かせ」、設問 18「家読」、設問 19「朝読書」、設問 20「ブックトーク」、設問 21「書評合戦」、設問 22「読書会」、設問 23「図書の紹介コーナーの設置」について、「している」と回答した学校数を校種ごとに整理した。

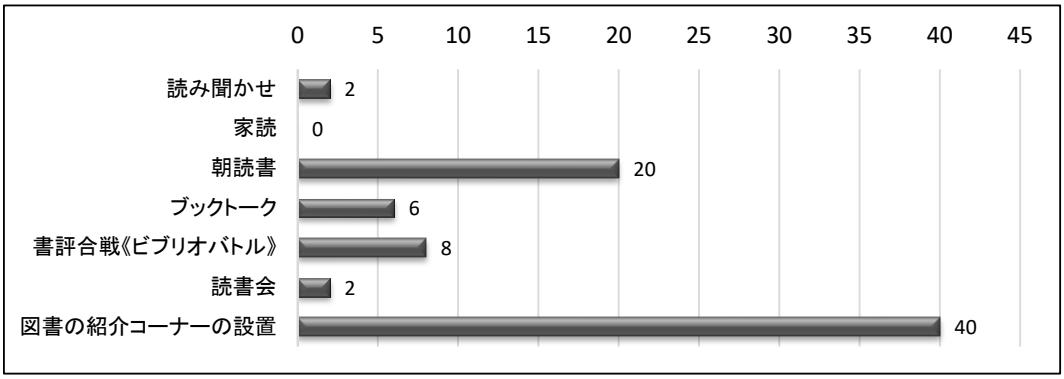
① 小学校（n=237）



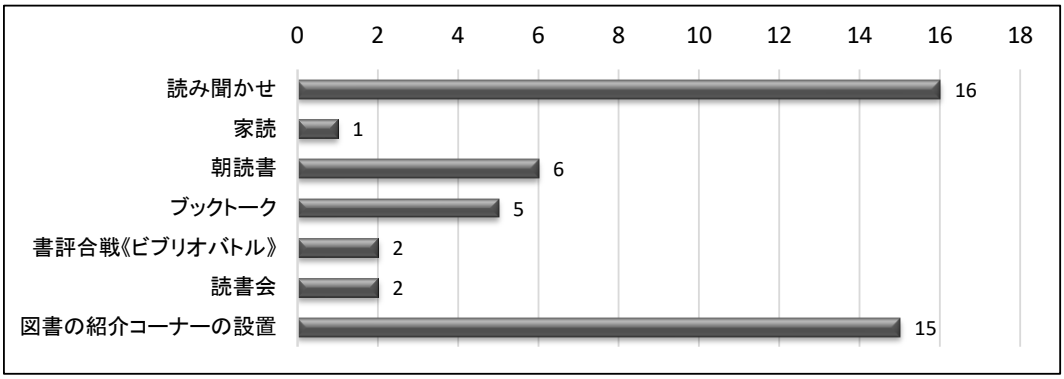
② 中学校（n=129）



③ 高等学校（n=48）



④ 特別支援学校（n=21）



（14）各学校での取組に関する自由記述

設問 24　子どもの読書活動推進に関して、上記（設問 17～23）以外で実施している取組があれば、記入してください。

※　原文をそのまま記載　　小学校（n=155）、中学校（n=57）、高等学校（n=17）、特別支援学校（n=8）

①　小学校

［小学校］　（n=155）

○秋の読書週間に、図書委員主催のイベント（しおりづくり）やおすすめの本の紹介を行っている。

○図書委員会の活動として「図書ビンゴ」を行い、様々なジャンルの本にふれる機会をつくっている。

○委員会児童による読書週間での活動、パネルシアター、図書館クイズ、読書ビンゴ。

○図書委員会主催図書まつり。七夕期間：本を借りた人へ短冊を渡し、願い事を図書室前の笹に飾る。読書週間：図書室にある本に関するクイズラリー。読書チャンピオン表彰：年間目標読書量を超えた児童への表彰。（読書の記録ファイル活用。６年間積み重ね。）

○読書活動推進をねらいとした読書週間や読書月間の設定。外部団体主催による読書感想文コンクールへの応募。読書ビンゴの実施。しおりのプレゼント。多読者の表彰。PTA や外部の人材による読み聞かせ。

○図書委員会による図書まつり（ビンゴ、クイズラリー）

○図書委員によるクイズ（課題の本から出題）企画。図書委員による福袋貸し出し。（テーマごとに本を３冊入れた袋を貸し出している）

○読書の記録をカードに書かせ、学年目標冊数・目標ページを達成した児童を表彰している。また、15 分間朝読をする期間を年に２回設けている。

○図書委員会の活動として、貸し出し冊数のランキングの紹介、新刊本の紹介、おすすめの本の紹介を行った。

○年に３回読書週間を設け、おすすめの本カードを全校で書いている。図書委員会のイベントで、読書クイズやおすすめの本を紹介しあう読書郵便を行っている。委員会の児童による読み聞かせ。第２図書館の開設。

○校内の図書委員会が秋の読書週間（２週間程度）にスタンプカードとしおりのプレゼント、全校児童への読書郵便の企画、実施をしている。

○図書委員会によるおすすめ本の紹介

○年２回、本の貸出回数が増えるようなカードを配布してシール等を貼り、賞賛している。

○図書ボランティアによる蔵書整備。各町内会から図書購入補助（図書カード贈与）。図書委員会による図書まつり（しおりづくり・たくさんの本を借りた人の紹介）。

○本の感想カードの掲示

○年間３回（春・秋・冬）の読書週間。昼の放送での新刊紹介（図書委員による）。読書目標の設定と表彰。

○年に３回程度「読書まつり」を実施し、全校でおすすめ本を紹介するシートを作成したり、本の貸出冊数が多い児童を発表したりするなど、子どもたちの読書活動推進につながる企画を行っています。新刊本を紹介するコーナーを設置し、図書室の利用を促す工夫をしています。

○学年ごとに、年間の読書冊数の目標を設定し、全校児童に読書の記録をつけさせている。図書委員会の活動として「読書まつり」を実施している。

○図書ビンゴ

○4 月 23 日「子ども読書の日」に全校お話会を実施している。先生方おすすめ本の特設コーナー「ブックカフェ」を実施している。秋の図書館まつり「読書ビンゴ大会」を実施している。６年生対象に「卒業おめでとうお話会」を３月に予定している。

○図書まつり

○年３回の校内読書習慣。各学年への必読図書カードの配布。読書の日。全校読書集会。

○読書月間を設定し、図書委員がアイディアを出し特別な取り組みをしている。（今年度は、11 月から１ヶ月間。読書スタンプラリーとしおり作りを行っている。）

○図書委員会による「図書館まつり」（クイズ・ビンゴ・本の紹介）

○図書委員会による図書の紹介やイベント・全校お話し会

○図書委員会で「秋のブックビンゴ」を行い、９種類の本を読んで、ビンゴスタンプを押し、全部揃ったら、しおりをプレゼントする取組を行っている。

○子ども達の委員会活動の中で、読書まつり期間を設け、読書郵便、読書ビンゴなどの活動を全校児童に呼びかけ実施している。

○委員会による図書まつりの実施。ボランティアの方々によるよみきかせ。

○図書委員会の企画・スタンプラリー・読み聞かせ

○図書委員会によるイベント令和４年度はビンゴ。地域の図書ボランティアによる読み聞かせ。学級担任よるブックトーク。

○読書ビンゴ・しおりコンテスト

○図書委員会で、学校図書館からたくさん本を借りた人や、たくさん本を読んだ人を表彰する。読書祭りを開催している。

○学期ごとに、図書委員会がイベントを企画、実行し、読書活動推進を行っている。

○月１回、地域の方による読み聞かせ会が行われています。

○図書委員会企画の図書祭り

○市立図書館との連携。図書館利用についての出前授業、移動図書館。図書担当教諭によるアニマシオン。図書委員会による読書まつりの実施（読書を啓発するイベント）。

○ペア読書：たてわり班で上学年と下学年のペアをつくり、上学年が下学年に読み聞かせをしたり、感想を交流したりする。

○読書まつり・必読（しおりプレゼント）

○図書委員を活用した図書クイズの実施。夏季休業中に読んだ本についての図書紹介カードの作成（全児童に宿題として）。

○読書まつり～図書館に足を運んでもらえるように、子どもたちが内容を工夫して取り組んでいる。今年度の例として、読み聞かせ・本はどこだゲーム・お話の内容のダウトを探せゲーム・読書画コンクールがある。

○本の貸し出しポイントカード・図書クイズ

○読書すごろく（一冊本を借りたら、すごろくカードにスタンプを１つ押してもらう。５つたまったら、しおりのプレゼントをもらえる。）

○図書委員がオリジナルのストーリーとイラストで絵本を作り展示している。図書委員がタブレットで「図書館だより」を作製している。

○各学年のおすすめの本を 20 冊程度決めていて全校で取り組んでいる。

○読書習慣の設定

○学担の先生が学級の児童に読んでもらいたい本を 15～20 冊選び、教室に常置。全て読破すると賞状

がもらえる。

○アニマシオン学習

○町で実施している子ども司書活動に参加している児童が３名在籍している。その３名の児童の学校での読み聞かせの実施。

○校内読書習慣を設け、先生方の読み聞かせや読書集会を開いている。たくさん本をかりている子の表彰。

○なかよし読書：たてわり班の高学年が低学年へ読み聞かせをしている。年に３回あり、相手をかえている。

○図書委員会による図書の紹介

○図書委員会企画運営の「しおりコンクール」を読書月間（11 月）に実施している。（4 年、5 年、6 年）

○図書委員会による図書館まつり（読み聞かせ←紙芝居、読書ビンゴなど）

○11 月１日～30 日の１か月間を読書習慣とし、図書委員を中心に、読書を促す声がけを行った。またポイントカードを発行し、期間中にポイントが貯まった児童に手作りのしおりをプレゼントする取組を行った。

○図書委員会児童による本の紹介ポップ作り

○図書委員が放送を使い本の紹介をしている。教員による本の紹介コーナーがある。学習をすすめるうえで参考になる本の各学年への貸し出し。司書教諭と図書委員による本だより「本はともだち」を出して掲示。行事やニュース（新聞を活用）、作者をクローズアップしたコーナーの掲示。

○読書週間にあわせて図書委員会から本を借りた子に手作りのしおりをプレゼントしている。

○図書委員会で、本のジャンルでビンゴをやり、手作りのしおりをプレゼントする。

○お話美術館　今年度、読んだ本の中から心に残った場面を絵に描き、全校みんなの作品を展示します。

○図書委員会主催の時習館まつり（年２回）

○昼の放送で、児童（図書委員）による本の紹介コーナーを設け、週一回位放送している。

○図書委員会の児童が、朝読書の時間が１年生の教室で読み書かせを行いいている。図書委員会が全校児童に「おすすめの本紹介コンクール」を募集し集まった作品を審査し、図書館前に優秀作品を掲示している。

○各学年の読書目標を決め（下学年…冊数、上学年…ページ数）、達成できた児童に賞状を渡したり、放送で紹介したりしている。

○地域のボランティア（ふくろう便）による読みきかせ。（昼休み⇒全校、朝⇒各学級）

○新刊本の紹介

○多読賞…読書推進週間を決め、たくさん読んだ子を表彰する。たから本コンクール…各クラスに読んでほしい本を紹介し、図書室の中でその本を探す。その本の絵や感想を書いてコンクールに参加し、図書委員会が表彰する。

○弘前市電子図書館を朝読書に利用している。

○国語の教科書に記載されている本を学年ごとにまとめ、大成おすすめブックリストとしてカードを活用し、推進を図っている。

○学校独自の読書週間を設定している。

○1．学校行事に関連したコーナー設置（例：学校用→田・稲の本）　2．時勢に関連したコーナー設置（例：台風・大雨→防災の本）　3．新聞コーナー設置　4．新刊本のおすすめコーナー（先生方による選んだ本）⇒好評です　5．図書委員による「お話会」の実施

○長期休業中の本の貸し出し

○月に１会、読んだ本の中から、おもしろかった等の本を選び、読書感想カードに絵と感想を書いてもら

って、図書室前の廊下に掲示している。

◯地域の団体による読み聞かせ会の実施：朝（8：00～8：15）1.2 年２回、3.4 年２回、5.6 年２回。45 分間の読み聞かせ：1.2.3 年合同で１回、4.5.6 年合同で１回。黒石市立図書館から２ヶ月に１回、20 冊の配本と回収。

◯平川市内の読み聞かせボランティア「おはなしこっとん」による読み聞かせ（令和４年度は８回実施）

◯夏休み親子読書（家読）、１・２年生への読書ボランティアによる読み聞かせ

◯読書ビンゴ・読書クイズ・しおりコンクール

◯長期休業後に、全児童に「本のしょうかいカード」を書かせている。長期休業中に、児童一人につき２冊まで貸し出ししている。

◯県立図書館から、巡回図書セットを借用し、図書コーナーに設置し、読書に活用している。（前・後期で入れかえをしている）

◯図書だより：毎月、誕生月の児童と職員におすすめの本の題名、作者名、あらすじ、おすすめポイントなどを書いてもらい、本を持っている写真とともに掲載して、全校児童に配布している。

◯スタンプラリー・読書マラソン（カード記入、目標冊数に達したら表彰）

◯校内読書感想画コンクール　年間多読賞表彰

◯図書館ボランティアさんによる読み聞かせ発表会。（小道具や背景などを作り、ステージ上で発表する。）

◯委員会活動（おすすめ本紹介、全校読み聞かせ、読書ビンゴ、しおり作りと配布）・昼休みの貸し出し・学級文庫配置・月１回のお気に入り本音読

◯図書の紹介で ICT の活用

◯新しい図書の紹介・委員会児童によるおすすめ図書コーナーの設置・季節ごとの図書室の飾りつけ・読書シールラリー「どくしょの木」の掲示

◯作家を招待して講演会を行っている

◯職員による読み聞かせ

◯児童が大型絵本をつかって全校に読み聞かせしている。（図書委員会）

◯国語教材と、同じシリーズ、同じ作者の本や、ジャンルの同じ本について、紹介し興味をもたせたり、読みきかせをしている。すきま時間に読み聞かせを行っている。（担任による）

◯PTA 委員による朝、昼の読み聞かせ・図書委員会による読書企画（読書ビンゴ、ポイントラリー）・学級文庫の配本

◯子ども読書カードを学年ごとに作り、読んでほしい本をリストアップし、読書活動を推進している。三沢市のミナクル９を実施（小・中学校）。

◯毎週末を家庭読書の日として、図書室の本を持たせている。（低学年）・各学年ごとにおすすめの本を教室に揃え、いつでも手にとってすぐによむことができる環境にしている。

◯朝の図書館読書（朝の自習時間に、１学年毎に交代で、図書館で読書をする。20～25 分程度）。購入してほしい本のリクエスト募集。年二回読書カード作成（読んだ本の一覧、冊数、乾燥記入）。

◯昼の放送で、図書委員がおすすめの本を紹介している。

◯図書委員会の子が各学年へのおすすめ本を５冊選び、紹介文を書いて提示している。週一回地域の方が来て読み聞かせを行っている。・担任が読んでいる本を紹介している。

◯読書ファイル…読んだ本の第目を書きためていく。しおり作り。クイズ…読み聞かせの後に、その本に関するクイズを出す。

◯読書ビンゴ

◯本の持ち帰り日を作っている。読書スタンプラリー、図書だより。

○絵本士の資格を持っている支援員による読み聞かせを月２回行っている。
○おすすめの図書が書かれた図書おみくじ・利用者を増やすためのポイントカード・しおりプレゼント・図書キャラクター作り
○週末全校児童が家で読書に取り組む。
○読書タイム（業間、週２回）・読書ビンゴ・読書郵便・図書委員による読み聞かせ
○子ども県民カレッジへの参加
○必読図書の設定
○町で「必読書の取り組み」を行っています（学年ごとに、読んだほうがいい本を選定して、呼びかけしています。完読すると、完読証と、しおりがもらえます）。「よむよむラリー」を実施しています（期間中に本を 1 冊読むごとにシールを 1 枚もらえます。学年ごとの目標冊数に達するとしおりがもらえます）
○町や県の巡回図書を閲覧できるように整備している。低・中・高で必読書を決め、読書を推進している。PTA の活動で、図書環境整備や、本の紹介などをしている。
○委員会の活動として、図書ビンゴラリー（図書館にある本の中から内容に関する簡単なクイズ）
○移動図書の設置…教室前廊下に学年ごとのおすすめの本を置いて借りられるようにしている。読書ビンゴ…テーマに沿って選んだ本を読み、ビンゴしたらシールを貼る　→　11 月の読書推進週間に実施
○年２回の読書週間の実施（読書と感想文の指導）・学級図書の充実・移動図書館車利用の奨励
○子どもの読書量を調べるためのアンケート調査・子どもたちが読んだ本の記録・移動図書館の活用
○図書委員会の児童がおすすめの本のポスターをつくり、全校児童がタブレットで見られるようにしている。
○地域のボランティア（ふくろう便）による読みきかせ。（昼休み⇒全校、朝⇒各学級）読み聞かせグループによる紙芝居や絵本の読み聞かせを、年に 3～4 回程行っています。
○紙しばい、NIE
○高校生による読み聞かせ実施
○読書週間の設定。本の紹介カードの作成。
○毎月、その月に関係した本やおすすめの本、新しい本を図書室前の廊下に掲示（展示）して紹介している。おすすめの本をポスターにして、図書委員会（5.6 年生）がポスター作成、掲示作業を行っている。
○先生方への「おすすめの本」インタビューとその掲示
○読み聞かせボランティアの活用
○国語の学習と関連させて、本の帯を作る。
○図書委員に季節のおすすめ本などを紹介してもらっている。
○校内における読書週間の設定
○読書タイム（全校　水曜日　昼）・図書館祭り（図書委員会によるイベント　11 月　３日間）。朝のよみきかせ（月１回　全クラス　ボランティアの方）。昼のよみきかせ（月 2.3 回　図書室　昼休み）地域ボランティアの方（お話の森）
○夏季休業中、地域で行っている朝の読み聞かせ活動「江陽おとぎの広場」に、小学校の図書委員会の児童が参加し、読み聞かせを行っている。・読書週間を年に２回設定し、多読のきっかけ作りをしている。
○読書スタンプカードや読書ビンゴカードの活用。図書委員による読書クイズ。
○読書週間の実施
○読書習慣を設け、ブックウォークや本からクイズ出題などの企画を実践している。
○朝読書ではなく、昼の読書タイムを実施している。（週４日、13：30～13：40 の 10 分間）

○年２回読書月間の設定、児童の目標読書冊数の設定
○校内図書フェスティバル（図書委員による読み聞かせやクイズ）
○読書スタンプラリー。図書委員会の児童が様々な種類から意図的に読んでほしいジャンルの本を選び、おすすめの本として紹介。それを借りるとポイントをもらえ、様々な本を読んでもらうようにしている。
○「読書ビンゴ」と称して、低・中・高学年ごとに様々なジャンルの本に触れるようなカードを作成し、２ビンゴごとにしおりをプレゼント。
○年３回（6 月 11 月.2 月）全校で読書月間を設定し、読書感想カードをかいて紹介し合う。夏休みに、地域の方が主催した『多賀鎮守の森で語るべ」（読み聞かせ会）に多数の児童が参加した。
○年３回の読書週間の実施（読書ビンゴ・ポイントカードの活用）。マイブッククーポンで買った本の紹介。卒業を迎える６年生へ１年生で初めて借りた本の題名を知らせたり、６年間借りた本のリストをプレゼントしたりする。
○新書を購入する際に、図書委員会児童が選んだ本の中から、全校児童に投票を呼びかけ、ベスト 10 に入った本を購入した。学校司書とボランティアの方々が鳥獣戯画のミニ絵巻を作製し、６年生へプレゼントした。学校図書館で一度も借りられていない本のコーナーを作り、その本を選んだ人へしおりのプレゼントを行った。
○読書週間等に、図書委員会で読書ポイント活動を行っています。ポイントを貯めたら図書ボランティアの方に作っていただいた手作りのしおりをプレゼントしています。
○読書しまつり（年２回）図書委員会主催　図書室スタンプラリーやクイズ大会等を行っている
○読書週間（10/23～11/17）（スタンプラリー）。読書クエスト（本のクイズ）。図書委員会によるおすすめの本のコーナー作り。タン元に必要な本の提案（学校司書）
○春と秋の２回の読書週間・毎学期、学年ごとに目標冊数を設定し、達成児童の紹介。読書スタンプラリー。
○各学年で必読図書を 20 冊決め、10 冊、20 冊完読するごとに賞状をわたしている。
○図書情報センターによる読み聞かせ・学校司書によるブックトーク
○読書まつり（6 月、11 月）：図書委員会。しおり作り：図書委員会、図書ボランティア
○月１回、市立図書館の移動図書館車が来校し、理由している。
○図書ボランティアによる、図書館の飾り付けや、栞作り。図書委員会による、お昼放送での本紹介。学校司書による、本紹介の掲示。・学校司書による、新１年生への図書館の利用方法のガイダンス。
○ノーメディア・読書デー（毎月 20 日）を設定し、メディアから離れ、本を読む取り組みを全校で行っている。
○国語の単元に合わせた並行読書用の本を選書し、教室近くにブックトラックにのせておいている。
○委員会で読書冊数調べを行い、その結果を掲示しています。
○図書委員会が年に ２ 回「図書室の日」というのを企画し、全校児童がクイズやしおり作りなどを通して、本への関心が高まるようにしている。
○読書月間を設定し、一人ひとりが読みたい本の種類や量を決め、そのめあてに沿って読書をしている。
○本を１冊借りたらシールが１枚もらえる読書月間を行っている。
○図書委員会で、読書月間に合わせて、キャンペーン（○冊借りるとしおりがもらえる等）行っている。学年ごとに年間目標冊数を決め、達成児童に賞状を渡す。週４回朝読書の時間を設け、全校で取り組んでいる。
○図書委員会が企画し、昼休みに図書室で本を読んでほしい願いから、３冊本をかりると「ラッキーくじ」をひいてしおりなどが当たる企画を催した。たくさんの人が本に親しむことができた良い取組だった。

○図書ボランティアによる図書室整備、しおり配布、年間目標の設定

○読書週間を設けて、期間中は貸出冊数でポイントを集めて、図書委員が作成したしおりをプレゼントしている。

○学校図書館だけでなく各教室やホール等に本棚を設置しています。

○図書室だよりの配信（おすすめの本紹介、図書室で実施する企画の紹介など）。読書ビンゴ（分類を使ったビンゴで、対象の本を読んだならビンゴが埋まっていく。ビンゴ達成者へはしおりをプレゼント）。難読漢字、四字熟語クイズ（廊下に掲示したところ、漢字・四字熟語の本を借りる児童が増えた）。本のポップコンテスト・ハロウィン福笑い（本を借りたら顔のパーツをプレゼントし、みんなで顔作っていく）。ガチャ本（カードにおすすめの本を書いてもらい、ガチャガチャでひくことができる）。

② 中学校

［中学校］ （n=57）

○全校集会での発表

○図書ポップの作成（委員会活動）・リクエストの実施

○学級文庫を全クラスに 36 冊設置し、学内で月ごとにローテーションしている。なお、生徒の希望する図書アンケートをもとにして、広報委員（図書委員会の活動も行っている。）が選書している。

○巡回図書として、学校図書館の本を学級文庫として配置している。

○図書だよりを発行し、新刊やおすすめ図書を紹介している。

○学級文庫の設置

○生徒の放送による週 1 回の図書紹介。生徒の興味を引く購入図書選定。図鑑・辞書・資料を使用した調べ学習。図書便りの発行。こどもの読書週間に合わせた読書推進。

○夏休みの課題作文の選択肢として、各種読書感想文コンクールに出品するための感想文を入れています。

○学習委員が本の紹介についての動画を作成して配信したり、POP を作って掲示したりしている。

○図書委員によるポスター制作、図書委員による図書通信を通してのおススメ図書紹介

○新刊図書の紹介（昼の放送など）

○今年の職場体験時「みんなに読んでもらいたい本」を生徒が選書した。（推し活の本など、普段選ばないものに目を向けてくれたので幅が広がりました。）

○通信による生徒のオススメ本の紹介、読みたい本の募集

○委員会の生徒によるお薦めの本 POP づくり。本と POP を図書室前へ展示している。

○新刊図書を紹介するリーフレット作り（図書委員会）

○新刊図書が入った際には、POP の作成をしています。

○県立図書館から学級文庫用の本を借り、設置している。（各クラス 20 冊）

○図書 DJ

○図書館にある本を題材にしたクイズを作り、クイズラリーを行っている。多くの人に図書館に足を運んでもらうことが目的。

○学級文庫の設置（学校図書館の本から生徒が選書）。県立図書館からの資料の貸し出し支援による学校図書館の充実。

○夏休みの読書感想文提出の推進

○図書だよりの発行

○文化委員会による昼の放送での新刊紹介

○毎日給食時間に図書委員のおすすめ図書を放送し、おすすめ理由と、置いてある場所を伝え、広報活動に努めた。図書室内ではおすすめ本にラミネートした大版のしおりをはさみ、それと分かるようにしている。

○昼の放送で読書週間についてお知らせした。

○渡り廊下に月毎にお薦めの本を展示、貸し出している。

○巡回図書（図書委員がオススメの本を 10～20 冊選び、定期的に学級に設置）

○図書委員会による、図書紹介を週 1 回昼の放送で行っている。

○新書紹介のためのポップ・ミニポスター作り

○学級巡回文庫を 2 ヶ月に 1 回ペースで、図書委員が、自分のクラスメートに読んでほしい本を選んで、クラスに置いている。

○全校集会での図書の紹介（委員会生徒の発表）

○全校集会で委員会活動として委員が新刊図書を紹介している。夏休みには課題図書（図書室の本を利用）を設定し、学年ごとに読ませ、感想を書かせている。図書室の本の帯を国語の授業で作っている。

○「巡回図書」として図書委員が選んだ本を学級図書に期間を決めて貸し出しています。

○図書だよりを発行し、新刊を紹介している。

○読書推進キャンペーン（図書館の利用促進、読書啓発のための、生徒会図書委員会の取り組み）。学級（教室）への図書館の本の配架と定期的な入れ替え。

○夏休みの課題として読書感想文を設定。委員会活動の取りくみとして、読書の呼びかけ、読みたい本のアンケート（購入に反映）。

○ミラクル９

○ミラクル９（三沢市で行っている活動）

○学校司書による「三沢市図書館だより」の発行

○図書委員会による図書だより（新刊の紹介、おすすめの本など）

○「図書だより」の発行

○どんな本に関心があるのか、委員会活動を通して調査している。

○図書委員会の活動で、図書紹介ポスター作り・図書室だより作成、リクエスト本の募集、学校文庫入れかえ作業などを行っている。図書支援員の協力により、多目的ホール、キャリア学習室、相談室などに図書を展示、貸し出しコーナーを設置している。

○ポップコンテスト　全校で本の紹介ポップを作成し、どのポップが 1 番興味を引くか、投票する。

○図書委員会の委員が毎月、自分のオススメの本の紹介を図書だよりに掲載し、印刷、配布している。

○校内読書習慣を年 2 回設定し、読んだ本の感想を指定された感想用紙に記入させ、図書室前廊下の壁に掲示している。

○本紹介ポップ大会

○委員会の生徒による新刊図書の紹介、学級文庫の設置（図書室の本を 10 冊ずつ各教室へ）

○給食時、図書委員が、「おすすめの本」を紹介している（放送で）。月 1 回「図書だより」で「おすすめの本」や新刊本を紹介している。

○（図書委員によるおすすめの本紹介）全校集会で発表

○図書委員会の生徒がクロムブックを使って、図書委員会のクラスルームを立ち上げ、本の紹介を投稿している。

○1～2 ヶ月に 1 度、地域にある南郷図書館の方が学校に来てくださり、ブックトークをしていただいております。

○ポスターの掲示・おすすめの紹介

○朝読書で読んだ本の記録を掲示し感想を共有する。校内課題図書の設定（国語科）。朝読書用の本を図書室から出す（選書して、各教室に分けて配置する）。

○年に２回の読書習慣の実施（朝自習）　６月…図書室の小説　10 月…図書室のノンフィクション　読んで小さなレポート（感想+α）を書く。　→　掲示　図書委員による全校朝会での紹介、よいものは本とセットで図書室に掲示など

○読書まつり（委員会活動）

○文化祭では、図書局企画によるビブリオバトルを開催し、生徒代表６名による書評合戦を行い、参加者との意見交流などを行っている。今年で 5 年目となり、生徒の中にビブリオバトルが定着してきている。読書週間に図書室前のホールに「本のなる木」のポスターを掲示し、「好きなジャンル」「好きな登場人物」などについて生徒が付せんに記入し、貼付する活動を行っている。

③　高等学校

［高等学校］　（n=17）

○図書館だよりの発行（年６回）新着図書案内の発行（年４回）館報「無限」の発行（年２回）特別展示の開催（年４回）

○文化祭での図書委員の展示、アンケート、書籍の紹介・新刊案内（月ごと）

○年６回図書通信を発行している。（図書委員が作成）

○「図書館だより」を発行している。・図書購入希望調査を行い、読みたい本の機能をなるべくかなえるようにしている。

○図書だよりで、図書委員および司書教諭が薦める図書を紹介している。

○年間 5 回の図書館購入図書の希望調べを全生徒と教職員に対して実施しており希望をもとにかかりの教員が選択して購入している。生徒が読みたい本を購入していることは読書活動推進に繋がっている。

○青森県近代文学館より、講師をお呼びして「教室で出会った作家とあおもり」と題して教養講座を実施した。

○図書の POP 作成、掲示　図書だよりによる図書紹介

○教室へ図書（10～15 冊程度）を運んで掲示するミニ移動図書館。

○ポスター掲示・図書便りの発行・新刊図書の購入

○図書館の蔵書を移動学校文庫として各 HR に置いて図書を手に取ってもらう。（15 冊ほどが入る箱を用意。選書は図書委員が行い、2～3 週間程度で箱は交換する。）

○図書だよりの発行・図書室でのハンドベルの演奏会（R4）・図書おみくじの設置（R5）

○授業（表現、現代の国語等）でポップを作っている・廊下に本の閲覧コーナーをつくる・本のリクエスト（購入希望）を生徒、教員からとる

○図書館だよりの発刊

○図書館だよりの発行（年 18～19 回）、文化祭での展示

○読書習慣等のポスター掲示、「ちいさな図書館」（カラーボックスに本を収納）を２か所に設置

○登校（始業時間）から朝の SHR までの 10 分間で全校一斉に朝の読書を行っている。

④　特別支援学校

［特別支援学校］　（n=8）

○青森市民図書館と連携し、各月のテーマ添った図書を借りている。借りた図書は「愛・Eye 文庫」というコーナーに並べ、幼児児童生徒が見やすいよう陳列し、貸し出しを行っている。

○図書室にある本を教員が点訳をして、教科の授業や余暇活動で活用している。

○11/27（月）～12/15（金）まで読書習慣を設定し、小学部全員（7 名）で 100 冊読書しようと取り組み中です。

○前期、後期それぞれで学部毎に借りた本の冊数の上位３名を読書賞として学期末に賞状・賞品を贈り表彰している。

○「多読賞」の表彰　図書委員会が企画し、年間で借りた本が多かった生徒を表彰している。

○読書賞の設定（学期毎に 20 冊以上読んだ児童・生徒を表彰）

○職員へ購入図書の紹介・全校集会で児童生徒へ図書の紹介

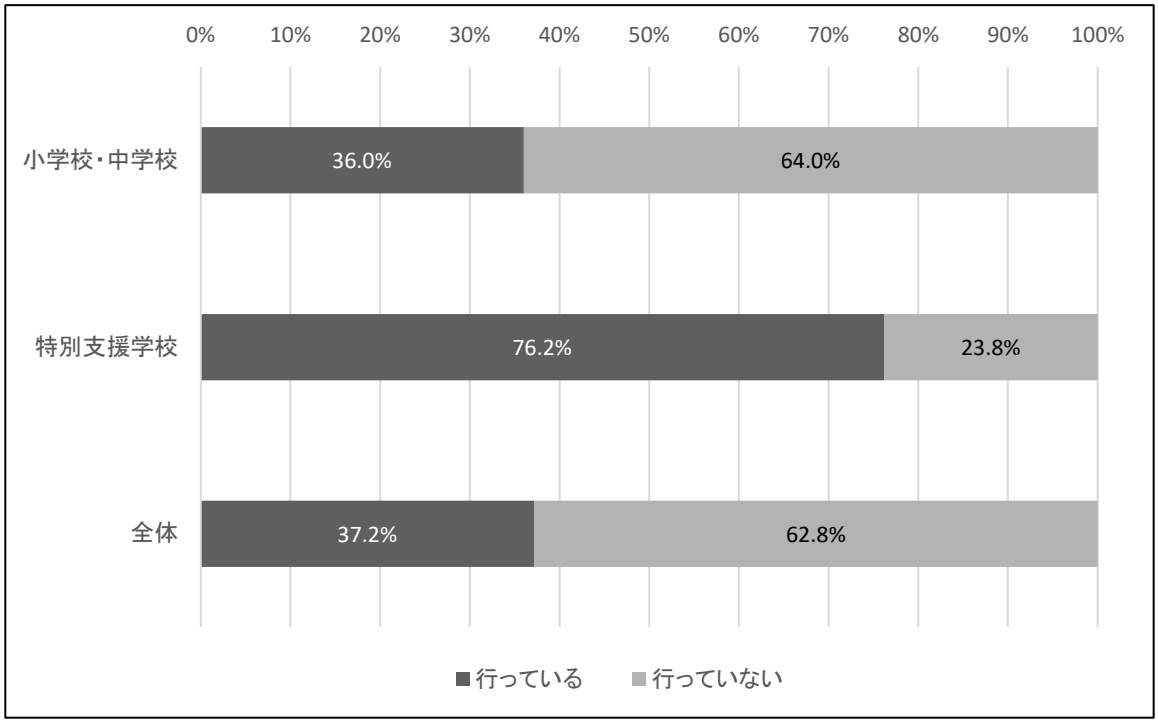
○子どもから読みたい本のリクエストを出してもらい、つがる市立図書館から毎月 100 冊本を借りている。

（15）障害のある子どもへの読書活動支援

設問 25「障害のある子どもへの読書活動支援」について「行っている」と「行っていない」を整理した。

※特別支援学級を有しない小・中学校と高等学校を除く

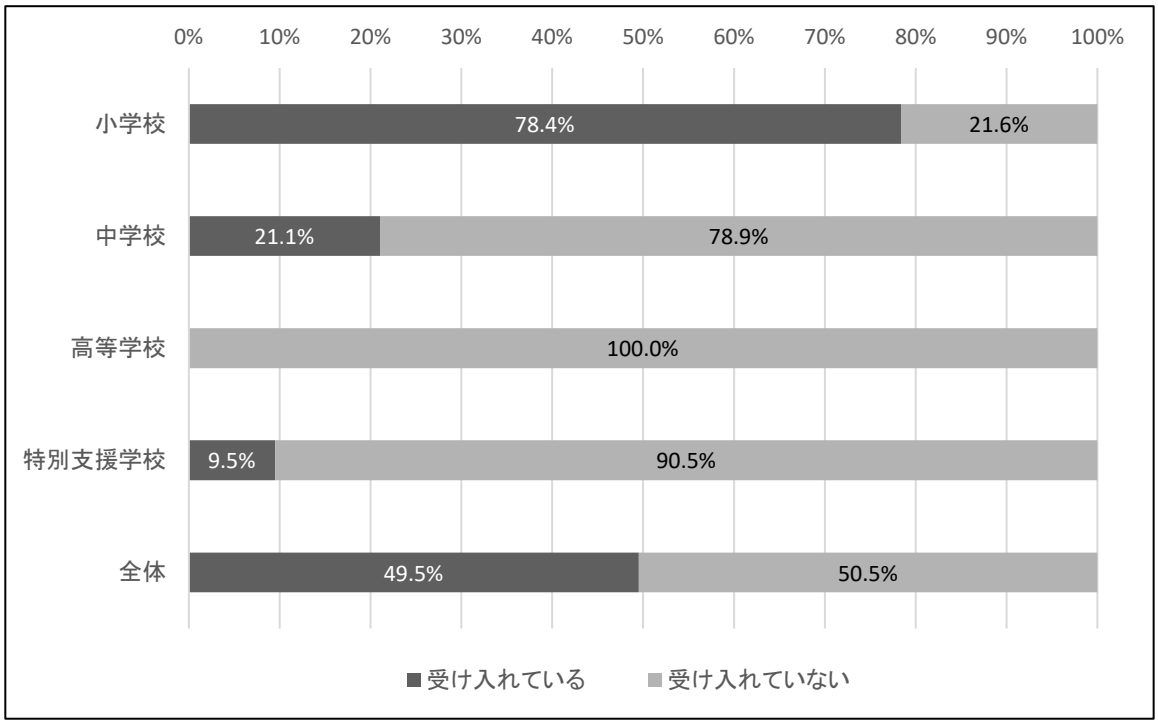
小学校（n=227）、中学校（n=120）、特別支援学校（n=21）



（16）保護者や地域のボランティアの受け入れ

設問 26「保護者や地域のボランティアの受け入れ」について「受け入れている」と「受け入れていない」を整理した。

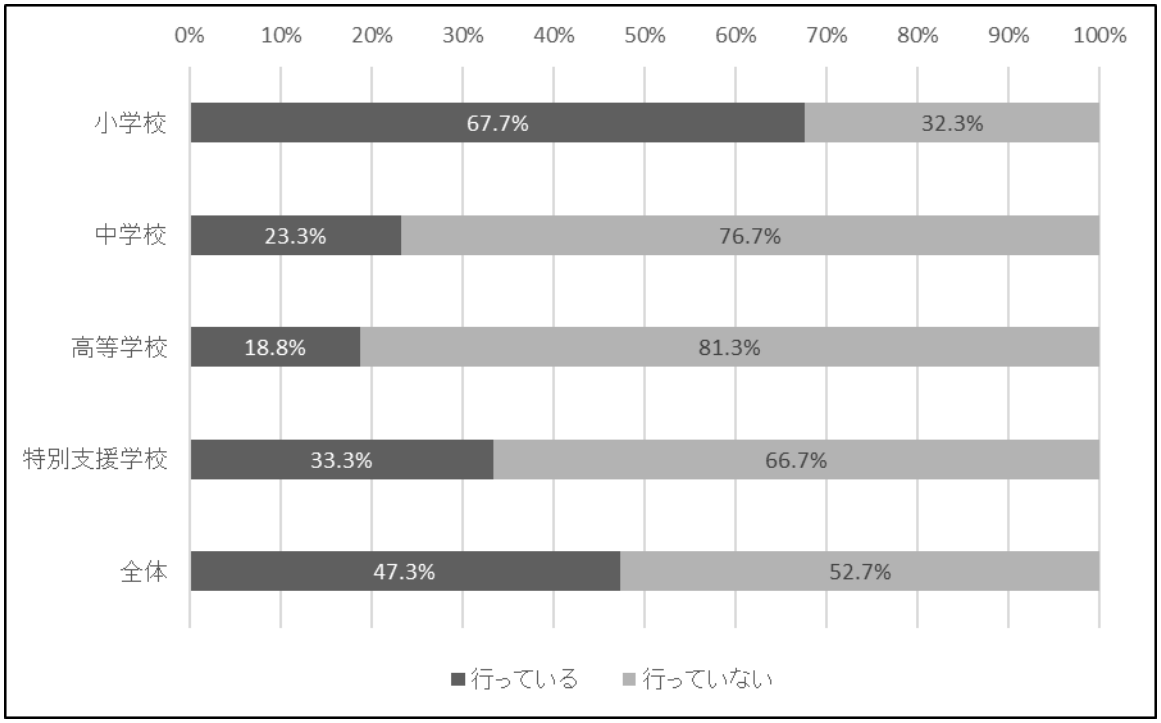
小学校（n=236）、中学校（n=128）、高等学校（n=47）、特別支援学校（n=21）



（17）公立図書館と連携した取組

設問 27「公立図書館等と連携した取組」（公民館や児童館の図書室を含む）について、「行っている」と「行っていない」を整理した。

小学校（n=235）、中学校（n=129）、高等学校（n=48）、特別支援学校（n=21）



（18）子ども読書活動推進に関する自由記述

設問 28　子どもの読書活動推進に関して、お気づきの点などをご自由にお書きください。

※　原文をそのまま記載

小学校（n=49）、中学校（n=20）、高等学校（n=16）、特別支援学校（n=5）

① 小学校

［小学校］　（n=49）

○読書ばなれが進んでいる気がして、どうすれば読書好きが増えるかを試行錯誤しているところです。

○司書教諭の発令はあるものの、学担としての役割を優先せざるをえない。図書館に常駐して児童や教員にすぐにレファレンスできる学校司書の配置を強く希望します。

○以前から本をたくさん読む子と読まない子の読書量の格差を感じていた。子ども同士で本を紹介し合える企画や、授業・委員会活動など、学校の中で計画し、一年の計画にしっかり入れて行けたらよい、と思う。

○学校図書館を効果的に活用した授業づくりには、学級担当一人では難しい。司書教諭の配置はあるものの、授業づくりに関わっていけるほど、時間的余裕はない。図書館利用に関して初期の小学校にも学校司書が配置されたら、学校図書館の利活用が今よりもっと進むと思う。

○市民図書館が様々な企画を催しているので、積極的に本を借りることができる。

○感染症対策の制限がなくなり、児童が自由に図書室及び図書を利用できるようになったことはとても喜ばしいことです。今年度の夏の厳しさを考えると、エアコンの設置が必要だと考えます。

○読書への関心を高めるためには、教師の働きがけが大切だと思います。本校では、先生方が様々な学習で学校図書館を活用しています。そのため、児童と本との関わりが多く、一人一人が積極的に利用しています。今後も、読書活動推進を進めていきたいです。

○児童に、読書習慣が身に付いていないことを痛感しています。学校図書館の機能を存分に働かせ、授業の中で学校図書館や図書を最大限に活用していくために各学校への学校司書の配置を希望します。

○本校では、夏休み・冬休みを利用して、「親子読書」を行っている。外国人を両親にもっている女の子のお母さんから、「娘が、『ゾロリ』を読んでくれたので、どんなお話かわかりました。」と書いた文章を読み、「親子読書」の親から子への一方通行的なものだけでなく、逆のあり方を体験でき、心が温かくなりました。

○図書委員が各学年におすすめの本のポスター作りをし、廊下に掲示している。図書室だけでなく、各階の廊下に図書コーナーを設置し、定期的に本を入れかえたり、「としょ室だより」等の掲示をしたりして環境を整えている。

○読書を推進することで子どもの世界が広がり、ゲームや動画視聴の時間が減少し、成長につながっていると感じています。今後も読書活動を推進していきたいです。

○高学年の読書意欲を向上させることが課題である。課題を解決するための取組があれば知りたい。

○地域人材の発掘・予算がもっと欲しい。

○県立図書館や市立図書館との連携で、朝読用の本や調べ物の本がかりられて助かっています。

○地域の読みきかせボランティアの方々にとてもお世話になっていて、ありがたいと思っています。

○新しい本を購入できる予算が少ない。

○親子読書をやりたいと思っているが、保護者の協力が得られるか心配でやっていない。そこまで強要していいのか、できるものなのか、説得する自信がない。どういうふうにアプローチすればいいのですか？

○学校司書が配置されるといいなと思います。

○各校に 1 名は司書教諭がほしい。学級担任が業務のかたわら図書室管理をするのはとても大変だし、難

しい。

○青森県全部の学校図書館や地域の図書館がデータベース化されつながってほしいです。その中で、どの子も自分が読みたい紙の本や電子図書を自由に選び借りる。自由に返すことができたらよいと思います。そのためには、まず県内でデータベース化されていない地域をなくし、その利用を支援するマンパワーの確保をするといいと思います。

○昼休み、図書室に来るよう委員会でも取り組んでいますが、なかなか読書する人が増えずにいます。

○インターネットでなんでも見たり調べたりできるため本を読んだり本で調べたりする機会が少なくなってきている。児童が手にとる本もテレビ等で知っているものがほとんど。本の楽しさを教えることができればよいなと思っている。

○子どもたちは新刊本に興味を示します。廊下や図書室内に、新刊本やそれに関連した本のコーナーを設置することで「今日の図書室はどんなコーナーがあるのかな？」といったワクワク感が読書率アップにつながっていると感じます。

○児童図書費予算より公費購入予算の割合が高くなっている。公費で購入した本は次年度監査のため、自由に貸出できず、図書室のみでの閲覧となっている。自由に貸出できるのは次年度監査後となり、新刊を購入しても貸し出しできない。他校ではどのようにしているのかよい方法があれば参考にしたい。

○学校図書館の蔵書がまだまだ少ない。

○情報メディアの発達による読書離れを実感しているが、読書のよさは ICT 機器の利用とも関連させることで今の子どもたちに入りやすくなると考えている。（本のよさとは分けて考えている。）

○市内でも学校によって図書館運営の IT 化にばらつきがある。本校は、PC がなく手書きカードによる貸し出しである。県内でシステムが統一されるとありがたい。・外部の図書館司書が配置されると教職員の負担軽減になる。

○安定して予算を確保してほしい。

○朝は、読書で心を落ち着かせてから学習に入る。朝読書は有効である。・本をデジタルで読む時代になってきているが、文字の大きさ、光などの点から、視力の低下を心配している。

○学校規模に応じた取組をしておりますことを、ご理解いただけますよう、お願いいたします。

○予算がつくと多くの本を購入できる。・古い本の処分に困難がある。

○今後、図書のデータベース化と貸し出しの電子化を進めていきたい。

○マンガ本について職員間の見解の違いがあるが、３年前から購入冊数を増やしたところ、５・６年生の読書量が増えました。

○学校で、子どもが興味をもつような活動を考えたり、家庭への呼びかけをしたりしているが、学校内や家庭内での読書が減ってきているように感じている。読書の習慣をどう促していけばよいか、悩んでいる。

○司書教諭が学級担任、その他の分掌と兼務のため、勤務時間内で図書館整備の時間がとれず持ち帰り、残業、休日出勤をどうしてもせざるをえない。図書館整備の仕事も好きな業務なのでやっているが、どこか中途半端な気持ちを抱えてしまう。県立図書館、六戸町立図書館のサポート事業のおかげで図書館はとても使いやすくなった。（3 年前）

○子どもの読書離れが言われている昨今なので、読書推進のために、これからも様々な活動をしていく必要があると思っています。

○一人一台端末の導入により、調べ活動が本よりインターネットを活用する場面が増えた。本で調べるよさも伝えていきたい。

○電子書籍や読書の普及で、家での読書の機会が減っている。そのため読書が習慣化していない児童が増

えている。
○本を購入するためのお金があれば、いくらでも子どもたちの興味にあった新刊を選ぶことができる。この調査を学校の取組だけにとどめず、本をたくさん購入できる未来づくりのために活用していただきたい。
○休み時間に読書をする児童は少なく、委員会活動などでゆっくりと読書時間を確保する取組も現段階では難しい。可能な取組としては、授業での効果的な活用方法や学級図書の選定の仕方などを工夫することが、読書活動推進に有効であると考えている。
○学校図書館の整備は職員数の少ない学校ではなかなか時間がとれず難しいため、何らかの支援をいただける制度があれば大変ありがたいです。（ラベリング、データベース構築など）
○八戸市はマイブッククーポンがもらえます。それに合わせて各書店さんもコーナーをつくるなど工夫してくださっています。子どもたちが好きな本を手にとって買うよい機会になっていると思います。
○ブックトークは本のプロに紹介してもらうことで、様々なジャンルの本に出会うことができ非常に効果的だと思う。
○家庭での読書の機会が減ってきているようです。学校と家庭と図書館等で協力していきたいです。
○学校司書による図書および図書室整備により、子どもたちが読書に対する関心を高めることにつながっていてありがたいです。
○学校の担当者だけでは気がつかないことや専門性が高い内容のことは、学校司書に相談し、助言を受けている。また保護者と地域の方による図書ボランティアの方々も学校司書と連携して活動してくださっている。このような方々の力をかりて子どもの読書活動推進に努めていけていると実感している。
○学校司書が各学校にいてほしい。
○他校がどのような取組をしているのか、知りたいです。
○家読に取り組ませたことがなかったので、チャレンジしてみたいと思った。

② 中学校

［中学校］ （n=20）
○学校司書など図書館運営に専念できる職員の配置が必要。
○調査の形式は、紙媒体による手書きではなく、電子媒体による入力式の方が望ましい。
○ブックトークなどにも興味があるが、大規模の学校全体で取り組むことへの難しさを感じている。
○新しいマンガを入れると生徒も多く足を運んでくれます。まずは足を運ぶきっかけ作りが図書館へ来てくれることへつながっていると思います。あとは、生徒からの要望を取り入れて選書しています。
○本校では、朝読書を各学期の終わり頃に数日行っている。普段は、基礎固めドリルに取り組んでいる。
○本が好きな生徒はどんどん本を借りていくが、そうでない生徒はこちらから働きかけないと借りていかない傾向が強い。教職員の読書離れも見られ、頭が痛い。全校集会での発表でアピールしている。
○授業時数軽減等がなく司書教諭としての仕事をする時間がなかなかとれなかったり、司書教諭の配置がなかったり、もっと図書館を活用し活性化させたいと思うものの、現状ではなかなか難しいです。
○調べ学習を行うのに、以前は学校図書館を利用していましたが、今はタブレットを使っての活動が主となり、段々と学校図書館を利用する人や回数が減ってきています。読書の良さをどう伝え理解してもらうかが課題です。
○今はタブレット端末で調べたいものをすぐ調べられてしまうので、図書館で調べ学習というのも難しくなってきている。（本の情報は更新されないので）本に触れてほしいと思うが、なかなか難しい。公共の図書館と連携して、本もデジタルで読めるという県もあるらしく、常に新しい図書と触れ合えるという

のは魅力的。青森もそうなってほしい。

○4 月の図書館利用の説明の仕方を今年度変えました。　→　利用者数が少しですが増えました。利用しやすい、利用をどんどんしていいのだ、と思わせることが大事と気づきました。

○様々なジャンルの本を置くように、現在ある本を確認しながら購入している。授業、昼休み、放課後等、図書室に親しめる時間を適宜入れ、生徒が本に興味をもつように工夫している。

○学校司書が月 1 回でも来校してくれるような制度があればいい。

○良い推進方法を教えていただいて、参考にしたいと思います。

○各校に学校司書を配置（教諭との兼任ではなくという意味で）して、図書の整備と読書活動の推進をお願いしたい。

○今年度から担当になったので、昨年に関するものは詳しくわかりませんでした。

○TRC への注文のみで購入しているが、子どもがすぐに読みたい本がある場合、時間がかかる。すると、子どもお関心は、他に移ってしまい、読みたい時に本が届かないという状況がある。よって、1 割でも 2 割でも、書店（身近な）からの購入が可能になれば、子どもたちのニーズ（時間的なこと）にこたえられると思う。

○図書室での仕事をいろいろしたいとは思っているが、授業や部活、行事に追われてなかなかできないのが実情です。

○中学生の読書の時間を確保するのはなかなか難しい。朝読書はなくしたくない。崩さないためにはある程度のルールは必要。

○県立図書館の巡回支援に感謝いたします。

○文字が多い本は嫌厭されることが多く、マンガなどをよむために図書室を利用する生徒が増えてきているように感じます。読書を楽しむための企画として何かよいものがあればおしえていただきたいと思っています。

③　高等学校

［高等学校］　（n=16）

○本校でも読書離れを危惧しております。生徒に手にとってもらえるような POP 作りや本のレイアウトの工夫、さらには直木賞や芥川賞、本屋大賞など候補作を含めて特別コーナーを設けるなど生徒の興味、関心を引き出す工夫をしています。受験においても早い時期から読書は必要不可欠であるということを理解させながら推し進めていく考えです。そのためにも図書購入費等の図書館充実に向けた助成をお願いします。

○本を借りにくる生徒は少ないです。

○どちらかというと読書より学習に多く時間がとられている。教室と図書館が離れていてすぐ移動できない。

○部活動や様々な行事、講習等で読書の時間がとれていない。

○第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計画で、新聞配備費として総額 190 億円（単年度 38 億円）が地方交付税措置されているとの情報が全国学校図書館協議会から届いていますが、高校職員に内容がわかるように説明する必要があると思います。

○ICT の推進に伴って、生徒の読書離れは、より一層顕著になったと痛感しています。

○最近は活字離れが多く、スマートフォンやタブレットの利用を通して本へつながる活動が必要。

○1 人に 1 台のタブレット端末が支給され、調べ物をする等の利用はますます減っていくと思う。蔵書のバランスを大幅に変える時期ではないかと考えている。

○読書離れが進んでいるように感じる。スマートフォンでの読書をうまく活用するようにすればよいと思う。

○読み聞かせ（先生方による）を定期的に行っていますが、タブレットやプロジェクターを用いての読み聞かせとなっている。純粋に読んでいるのを聞いてイメージできないのではと考える。一方で、読み聞かせをしていただくには、しかたがないことなのかと考えたりもします。

○楽しみとして読書する生徒は限定的である。課題等で指示されない限りは、動画視聴とゲームで日々を過ごしている。

○朝読書を継続することで、各自で興味のある本をそれぞれのペースで読んでいるので、抵抗を感じていない生徒には本を読む習慣がつき、効果を感じている。

○予算が少ない。年々減少している。

○学校司書の配置を早期にお願いしたい。

○司書教諭がいない学校であるため、なかなか図書室の整備が行きとどかない。やはり専門家の力が必要である。

○図書の担当者が司書教諭 1 名であるため、図書関係のことに手がまわらない。（校務分掌の部長、教科主任もしながら、部活や会議、出張、通常の授業の他、やることが多すぎて図書の方にまで、手がまわっていないことが現状である。）

④ 特別支援学校

［特別支援学校］ （n=5）

○本校は視覚障害のある児童生徒が在籍しているため、市販の書籍は読みづらいことが多い。図書室には大型絵本など、書籍の拡大版を用意したり、音声で聞くことのできるデイジー図書を活用したりしながら、読書に取り組めるようにしている。視覚障害のある児童生徒が取り組んでいる音声による読書活動について知っていただくとともに、もっと音声によるデイジー図書の認知度や普及が高まることを期待する。

○読書活動の推進にあたり、学校にある本には限りがある。しかし、本校の子ども達の実態を踏まえると、図書館などへ借りに行くのが難しい場合もある。もし、図書館の本がデジタル化され、kindle のようにタブレットで読めるようになると、本の種類だけでなく、読書の方法（拡大したり、読みあげ機能使ったり）も増やすことができる。もちろん無料で、という条件が必要なため、難しいと思うが、これからの時代を考えると、貸し借りや読み方の選択肢が増えると喜ぶ子供が増えるのでなないか、と感じています。

○本棚が設置されている場所にテーブルや椅子がなかったため、本を借りて教室で読んでいる状態である。今年度中にテーブルや椅子を設置し読書活動に取り組みやすい環境を整備する予定である。

○障害により読字が困難な児童・生徒のために、さわる絵本や音の出る絵本、マルチメディア DAISY 図書などを取り入れている。

○予算がしっかりつくとよいと思います。（書籍購入、図書室の整備など）

第3章　考察

Ⅰ　子どもの読書活動の推進のために

青森大学　社会学部　教授　秋田　敏博

はじめに

「子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」

これは、2001（平成 13）年 12 月 12 日に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」の第二条の条文であり、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定めたものである。

この法律に基づき、政府は、2002（平成 14）年８月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（以下「国の基本計画」という。）を策定し、その後おおむね５年ごとに計画を変更している。現在は、2023（令和５）年３月に策定された第５次の国の基本計画の計画期間となっている。

また、この法律では、都道府県に対して、国の基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定することを求めている。

これを受けて、本県においては、2004（平成 16）年３月に、「青森県子ども読書活動推進計画」（以下「県推進計画」という。）を策定し、その後、国の基本計画の変更内容を見据えて、県推進計画を変更している。現在は、2020（令和２）年 12 月に策定した県推進計画（第４次）の計画期間で、その最終年度は、2024（令和６）年度となっているため、今後、県推進計画（第５次）の策定作業が求められる。

以上の状況を踏まえ、本稿においては、このたび実施された「令和５年度子どもの読書活動推進に関する実態調査」における児童・生徒を対象とする「子どもの読書活動に関する状況調査」の結果について、県推進計画（第５次）策定作業の参考となることを目的に考察する。

具体的には、「１か月に本を１冊も読まない子どもの割合」、「子どもと本とを結びつける環境と読書量」及び「電子書籍」という３つのテーマを設定して考察する。

なお、国の基本計画において参考資料としている学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会）では、読んだ本の冊数に、教科書、学習参考書、漫画、雑誌や付録を含まないこととしている。本調査もこの方針に準じている。

また、学校の図書室の正式名称は、学校図書館であるが、本調査においては、小学生の混乱を避けるため「学校の図書室」という表現を使用している。このため、本稿においてもこの表現を使用する。

１　1か月に本を1冊も読まない子どもの割合について

(1)本を読まない子どもの割合の概況

１か月に本を１冊も読まない子どもの割合（以下「不読率」という。）の改善は、子どもの読書活動を推進する上で重要であるが、国の基本計画（第一次）が策定され、この計画に基づく様々

な取り組みが展開されるようになってからも、十分な改善はなされていない。

本県の不読率は、「(２) １か月間の読書量」(P4)に示されている。これを近年の全国調査の結果と比較すると、次のようになる。

（表１）本県調査と全国調査の不読率の比較

調査範囲 学校段階と対象学年	青森県 （令和５年度調査）	全国 （令和４年度調査）
小学生 （青森県：小学校５年生） （全国：小学校４年生～６年生）	12.2%	6.4%
中学生 （青森県：中学校２年生） （全国：中学校１年生～３年生）	25.9%	18.6%
高校生 （青森県：高校２年生） （全国：高校１年生～３年生）	55.6%	51.1%

調査年度と調査対象となった学年が異なってはいるが、本県の子どもの不読率は、すべての学校段階において全国平均を上回っていることは間違いない。

なお、小中高と進むにつれて不読率が上昇する傾向は、全国的な傾向である。これは、「(６) 昨年と比較した読書頻度」(P6)において、小中高と進むにつれて読書の頻度が低下するという結果が出たことと一致する。

(2)読まない理由と改善策

「読まなかった」と回答した子どもたちが、なぜ本を読まなかったのかについては、「(４) 本を読まなかった理由」(P5)に示されている。

全学年において最も回答者が多かった「イ　音楽、動画(YouTube など)、ゲームに時間を使うから」を含めて「ア」から「カ」までの理由は、「興味・関心や優先順位が読書を上回るものがあった」としてくくることが可能である。これらの回答を選択した子どもに関しては、読書に興味・関心を持つような環境の整備を進めることで不読率を改善することが可能であろう。

次に、全体として回答者が２番目に多かった「ケ　特に読みたい本がないから」を含む「キ」から「ケ」を選択した子どもたちについて考察したい。この中には、「読書に対して興味・関心はあるのだが」または「読書する時間がないほど忙しいわけではないのだが」という文言を選択肢の前に付け加えた方が実情に近いという子どもが相当数いると推察される。このような子どもたちの不読率の改善に関しては、後述する「子どもと本とを結びつける環境」の整備が効果を持つと考えられる。

(3)不読率と読書に対する感情

続いて、不読率と読書に対する感情との関連性について考察したい。

読書に対してどのような感情を持っているかは、「(５) 読書への評価」(P6)に示されている。

これを不読率と並べてみると、次のようになる。

（表２）不読率と読書への評価

不読率、本への評価 対象学年	不読率	「本を読むことが好き」または「どちらかといえば好き」	「本を読むことが嫌い」または「どちらかといえば嫌い」
小学校５年生	12.2%	76.4%	23.7%
中学校２年生	25.9%	75.1%	24.9%
高校２年生	55.6%	77.9%	22.1%

この表で最も注目すべきは、読書への評価の数値が、小学校５年生から高校２年生まで、ほぼ変化しないということである。

読書への評価が年齢を重ねるとともに変化していく子どもが一定数いるとしても、「小学校５年生ころまでに形成された読書への評価は、その後変化しない傾向にある。」と推察できるのではないか。

小学校５年生においては、不読率（12.2%）が、「本を読むことが嫌い」または「どちらかといえば嫌い」と回答した子ども（以下「読書が好きではない子ども」という。）の割合（23.7%）のほぼ半分となっている。つまり、読書が好きではない子どもの半数は、実際には読書をしているということになる。この要因として、小学生の時期は、「各種読書感想文コンクールの開催」、「公共図書館からの一括貸し出しなどにより、ホームルームに学級文庫が設置されている」、「地域のボランティアなどによる読み聞かせが実施されている」、「放課後児童クラブなどの学童保育の現場において、読書の時間が設けられている」などの読書を促す刺激が多いことが考えられる。

中学校２年生においては、不読率と読書が好きではない子どもの割合がほぼ一致している。これは、小学校時代と比べて読書を促す刺激が減少することにより、読書が好きではない子どもが、実際に本を読まないという状態が多く生じるためと考えられる。

高校２年生においては、不読率が、読書が好きではない子どもの割合を大きく上回っている。この要因として、高校生になると、学習時間、通学に要する時間、スマートフォンを使う時間などが増加し、読書が好きであっても読書をする時間を確保することが難しくなるという状況が考えられる。

以上、推測の域を出ない考察が多かったものの、これらを統合すると、「小学校５年生ころまでに形成された子どもの読書に対する評価は、その後変わらない傾向にあり、また、不読率に大きな影響を与えている。不読率を減少させるためには、小学校５年生ころまでに、読書に対して良い評価を持つような環境の整備をすることが重要である。」という結論が導き出される。

留意したいのは、小学校５年生ころまでの環境には、小学校の環境だけでなく、乳幼児期からの家庭環境、保育施設などの環境、地域の環境など、時間的にも空間的にも、あらゆる環境が含まれるということである。

２ 子どもと本とを結びつける環境と読書量

(1)「環境」の具体化と考察方針

既に記載したとおり、子どもの読書活動の推進に関する法律の基本理念（第二条）では、「すべ

ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」と規定されている。

まずは、ここで言う「環境」について、イメージを具体化したい。

子どもの読書活動を推進するためには、子どもたちが多種多様な本に触れて、読書の楽しさを知ったり、自分の興味・関心をそそる分野の本に出会ったりする「読書意欲喚起のための環境」が整っていなければならない。また、子どもたちが興味を持ち読みたいと思った本を希望のとおりに入手したり借りたりすることができる「読書意欲継続のための環境」が整っている必要もある。

これら二つの環境は、それぞれ独立して存在しているものではない。例えば、小学校の図書室は、ある児童にとっては読書意欲を喚起してくれる環境であり、別な児童にとっては読書意欲継続のための環境である。このような環境としては、学校の図書室、地域の図書館、書店などのハード面に加え、本の紹介、貸与、提供といった他者（保護者、教師、友人、図書館職員、読み聞かせボランティアなど）からの働きかけ、読書の楽しさを伝えるイベントなどのソフト面がある。

これらの環境は、子どもたちの手が本に届くまでの環境であることから、本考察では、「本へのアクセス環境」と表現する。「環境」に関しては、本を手にした子どもたちが読書に集中できる環境も重要であるが、本調査の調査内容に即して、「本へのアクセス環境」について考察する。

また、子どもたちの読書量は、子どもの読書活動推進に関する実態を把握するための重要な指標であるとともに、本へのアクセス環境と密接に関連していると考えられる。そこで、ここでは、読書量と本へのアクセス環境について、それぞれの状況及び関連について考察する。

(2)読書量と読書への感情

読書量に関しては、不読率に関する考察でもご覧いただいた「（２） １か月間の読書量」(P4)に示されている。小中高と進むにつれて、不読率が増加することに加え、読書をするにしても読書量を減らす子どもが増加する。これは、学年進行とともに、読書に費やすことのできる時間が減少していくという背景がある一方で、読み切るために時間のかかる本を手にとるようになった結果、読む冊数が減るという事情があると考えられる。

次に、読書量と読書への感情の相関関係を考察するため、『(11) クロス集計１「1 ヶ月の読書量」×「読書への評価」』(P9～10)を参照することとする。

このクロス集計からは、「本を読むことが好き」または「どちらかといえば好き」と回答した子どもは読書量が多いという傾向が見られる。

先に述べた「読書に対して良い評価を持つような環境の整備をすることが重要である。」という指摘がここでも当てはまると考える。

(3)本へのアクセス環境

続いて「本へのアクセス環境」について考察する。この環境のうち、学校における環境や取り組みに関しては、学校を対象とする「子どもの読書活動推進に関する学校状況調査」が扱っており、本稿では、子どもの側から見た環境について考察することとなる。

まず、子どもたちが読みたい本をどのように入手しているのかが、「（７）本の入手方法」(P7)に示されている。

子どもたちがある本を読みたいと思った時にその本を希望どおりに入手できる環境は、本へのアクセス環境のうちの読書意欲継続のための環境そのものであり、子どもたちが多様な入手手段

から選択できる状況であることが望ましい。

このことを踏まえて考察するならば、小学校５年生においては、「ア」、「ウ」、「オ」の３つが主要な選択肢としてほぼ同じ割合を占めており、多様な入手手段がある状態である。

中学校２年生と高校２年生においては、「ア　買う（買ってもらう）」が突出した状態となるが、これは、学年進行とともに読みたい本の多様性、専門性が高まり、「買う」以外の入手手段がなくなる場合があるためと考えられる。また、スマートフォン、タブレット端末等の使用時間が増えることに伴い、電子書籍を購入が増えることが反映されているとも考えられる。

また、中学校２年生と高校２年生において、「オ　家にある本を読む」の割合が大きく下落することなく 20%代を保っていることは、家庭に子どもが読みたいと思う本があることが大切な環境であることを示している。

次に、本へのアクセス環境の重要な要素の一つである学校の図書室や地域の図書館等（本調査では各種図書館と表現）が、子どもたちによってどの程度活用されているのかについて考察する。

これは、「（８）各種図書館から本を借りたことがあるか」(P8)と「（９）各種図書館で本を閲覧したことがあるか」(P8)で示されている。これらの調査結果に加えて、この調査結果をもとに、子どもたちが各種図書館を活用した経験の有無を表した資料を示す。

（表３　各種図書館の活用経験の有無）

回答内容 ＼ 対象学年	学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館から本を借りたことがあるか		学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館で本を読んだことがあるか	
	いずれかまたは両方から借りたことがある	どちらからも借りたことがない	いずれかまたは両方で読んだことがある	どちらでも読んだことがない
小学校５年生	93.3%	6.7%	85.9%	14.2%
中学校２年生	60.6%	39.4%	64.1%	36.0%
高校２年生	60.9%	39.1%	57.8%	42.2%

以上の資料から、小学校においては９割程度の児童が各種図書館を活用しているということがわかる。また、中学生になると活用率が６割程度に低下するものの、高校生になってさらに大幅に低下するということはないと言える。

既に述べたとおり、本へのアクセス環境を整備する上で、子どもたちが多様な入手手段から選択できる状況を作り出すことが望ましい。このことを踏まえ、本県の状況と他県の状況を比較してみたい。

次の表は、本調査の本の入手方法と、2022（令和４）年度において宮城県が実施した類似の調査における本の入手方法を比べたものである。本県の調査においては、調査対象が小学校５年生、中学校２年生及び高校２年生であるが、宮城県の調査においては、小学校３年生から高校３年生までを対象としている。また、不読率に関して宮城県は、小学校、中学校においては全国平均を上回ってはいるものの本県の不読率よりは低く、高校における不読率は、全国平均よりも低いという状況である。

（表４　本の入手方法の多様性比較）

入手方法	学校段階	青森県	宮城県
買う（買ってもらう）	小学生	27.9%	51.8%
	中学生	43.9%	77.3%
	高校生	56.1%	80.7%
友だち・家族・先生から借りる	小学生	5.0%	4.3%
	中学生	10.5%	11.5%
	高校生	9.7%	11.5%
学校の図書室から借りる	小学生	27.7%	55.9%
	中学生	12.4%	25.9%
	高校生	6.9%	15.0%
学校以外の図書館から借りる	小学生	10.6%	13.1%
	中学生	5.4%	7.3%
	高校生	5.4%	5.7%
家にある本を読む	小学生	27.5%	42.7%
	中学生	26.1%	37.0%
	高校生	21.2%	28.4%

比較対象が宮城県のみであるので、考察するには至らないが、宮城県の子どもたちと比べて、本県の子どもたちは、本の入手方法の選択肢が少ないという状況である。今後、本の入手方法の多様性と子どもの読書活動推進状況との関連性がわかる資料を収集し、分析する必要があると考える。

(4)読書量と本の入手方法

続いて、「読書量」と「本の入手方法の多様性」との関係について考察するため、『(13) クロス集計３「1 ヶ月の読書量」×「本の入手方法」』(P12～13)を参照することとする。また、続けて１か月間の読書量ごとに本の入手方法の順位を示す表を提示する。

（表５　１か月間の読書量ごとの本の入手方法順位）

学年	１か月間の読書量	本の入手方法の順位					
		買う（買ってもらう）	友だち・家族・先生から借りる	学校の図書室から借りる	学校以外の図書館から借りる	家にある本を読む	その他
小学校５年生（N=1573）	１～５冊	2	5	1	4	3	6
	６～10 冊	3	5	1	4	2	6
	11～15 冊	1	5	3	4	2	6
	16～20 冊	3	5	2	4	1	6
	20 冊より多い	2	5	3	4	1	6
中学校２年生（N=1055）	１～５冊	1	3	4	5	2	6
	６～10 冊	1	4	3	5	2	6
	11～15 冊	1	3	4	5	2	
	16～20 冊	1	5	3	4	2	
	20 冊より多い	1	3	5	4	2	6
高校２年生（N=564）	１～５冊	1	3	4	5	2	6
	６～10 冊	1	4	3	5	2	
	11～15 冊	1	4	3	5	2	
	16～20 冊	1	4	2	3	5	
	20 冊より多い	1	3	4		2	
全体（N=3192）	１～５冊	1	4	3	5	2	6
	６～10 冊	1	5	3	4	2	6
	11～15 冊	1	5	3	4	2	6
	16～20 冊	2	5	3	4	1	6
	20 冊より多い	1	5	3	4	2	6

これらの資料を学年ごとに見た場合、読書量による入手方法の違いは見受けられず、「（７）本の入手方法」(P7)の結果のみを考察した内容に付け加えるべきことはない。

小学校５年生においては、「買う（買ってもらう）」、「学校の図書室から借りる」、「家にある本を読む」の３つの選択肢が、１位から３位の中で順位が変動してはいるものの、三本柱であることに変わりはない。

３ 電子書籍について

近年、子どものスマートフォン所持率が上昇している。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための取り組みを経て、学校においては、児童・生徒が一人一台のタブレット端末を持って

授業を受ける光景が日常的なものになるとともに、オンラインで授業を受けたり他者と交流したりするという活動が定着した。現在の子どもたちは、デジタル社会の中で暮らしているのである。

今後、子どもの読書活動推進のための方策を検討するに当たって、対象となる子どもたちは、生まれた時からデジタル社会の中で育ち、スマートフォンやタブレット端末を活用することが生活の一部となっている子どもたちなのである。

国の基本計画（第５次）においても、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」を基本方針の一つとしており、読書環境の整備においても、デジタル化の推進は重要な要素と位置づけられている。

このような状況を踏まえ、本県の子どもたちとデジタル社会との関連について考察する。

子どもたちがデジタル社会の中にどの程度溶け込んでいるのかを測る指標として、スマートフォンの使用状況が挙げられる。本調査では、「(10) スマートフォンの使用状況」(P9)に示されており、小中高と進むにつれて所持率が高くなり、高校２年生の所持率は 100%に近い。また、小中高と進むにつれて長時間の使用が増える傾向にある。

１日の使用時間が３時間を上回る子どもの割合が、小学校５年生で 23.2%、中学校２年生で 39.2%、高校２年生で 54.1%となっていることは、憂慮すべき状況であるが、このことへの対策は、読書活動の推進を含む子どもの健全育成というより大きな範囲で検討すべきと考える。本稿では、上記の結果は、本県の子どもたちがデジタル社会の中に溶け込んでいる証左の一つであるとコメントするに留めることとしたい。

さて、デジタル社会における読書環境として、今最も注目すべきは、電子書籍である。電子書籍の活用状況は、「(３) 電子書籍の読書状況」に示されている。電子書籍を読んだことのある子どもの割合は、小学校５年生で 16.9%、中学校２年生で 29.7%、高校２年生で 39.3%となっており、小中高と進むに連れて増えている。また、小中高と進むにつれて、「電子書籍だけを読んだ」または「電子書籍の方が多い」と答える子どもの割合が増えている。これらの傾向は、スマートフォンの使用状況で見られた傾向と共通性がある。

続いて、読書量と電子書籍の活用状況との間に何らかの相関関係または傾向があるかどうかを考察するため、『(12) クロス集計２「1 ヶ月の読書量」×「電子書籍の読書状況」』(P11～12)を参照することとする。この集計結果からは、顕著な相関関係や傾向は認められない。

本調査だけで、電子書籍の活用が進展しているのかどうかを判断することはできない。しかし、「社会のデジタル化が今後ますます進展することは確実である」、「学校向け電子図書館を開設した地方公共団体がある」、「地域の書店が減少していく中で、デジタル書籍は、本を入手するために有効かつ簡便な手段である」などの情勢を考慮すると、今後、より多くの子どもたちが、より多くの電子書籍を活用するようになることは確実である。

子どもの読書環境を整備する上で、電子図書は欠かせない要素となりつつある。

おわりに

ここまでの考察を踏まえ、特に強調したいことを２つ挙げたい。

一つ目は、小学校５年生ころまでに形成された読書への評価は、その後、統計的に大きく変化することがないまま、読書活動に大きな影響を与えるということである。なお、本調査の対象となった子どもの最年少が小学校５年生であったことから「小学校５年生ころまで」としているが、形成時期は、もっと早いという可能性がある。したがって、子どもの読書活動推進のためには、乳幼児期から切れ目なく、読書に対して良い評価を持つような環境を整備することが必要である。

二つ目は、今後、子どもの読書活動推進のための取り組みの対象となるのは、乳幼児期からデジタル社会で暮らしてきた子どもたちだということである。このため、今後の子どもの読書環境整備において、電子書籍やデジタル機器などを大きな要素として捉える必要があることを強調したい。

本調査の結果が、青森県子ども読書活動推進計画（第５次）の充実に資することを期待する。

Ⅱ　青森県内の学校図書館の整備状況

青森中央短期大学　食物栄養学科　　講師　本間　維

はじめに

学校図書館は、児童・生徒の興味関心を受け止め、その発達を支えるために、十分な量の図書館資料を備えることが求められる。また、それらの図書館資料を活用するために、専門的な知識や技能を持った司書教諭や学校司書が配置されることも期待される。

本稿では、青森県が実施した令和 5 年度の「子どもの読書活動推進に関する実態調査」の結果を基に、資料と人の面で学校図書館の整備状況の考察を試みる。

1　図書館資料の整備状況

(1) 図書の整備状況

学校図書館は、児童・生徒の興味関心に応えうる十分な量の図書館資料を備えることが期待される。文部科学省の第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計画（令和 4 年度～令和 8 年度）では、学校図書館図書の整備に5年間で総額995億円の予算が配分されることになっている。そのうち、不足する図書の購入分が 195 億円、更新する図書の購入分が 800 億円である。また、学校図書館への新聞配備に総額 190 億円が配分されている。この節では、青森県の学校図書館における図書館資料の整備状況を概観する。

表 1 は、青森県と全国との児童・生徒 1 人当たりの蔵書冊数を比較したものである。青森県の結果は令和 5 年度の実態調査によるもので、全国の結果は全国学校図書館協議会が実施した 2023 年度学校図書館調査の結果である。青森県の平均値は、県内の各校種の蔵書数を合計し、児童・生徒数の合計で割った値である。

小学校と中学校において、1 人当たりの蔵書冊数は全国平均を上回っており、他の都道府県と比べて児童・生徒の身の回りに図書が配備されている環境がうかがえる。一方、高等学校では平均値が全国を下回っており、全国平均を上回った学校の割合も、34.0%と低い数値になっている。このことから、生徒の周りに十分な量の蔵書が整備できていない高等学校も多いことが推察される。

表 1：　児童・生徒 1 人当たりの蔵書冊数（2023 年度学校図書館調査と比較）

	全国	青森		
	平均値	平均値	中央値	全国平均を上回った学校の割合
小学校	29.6 冊	34.2 冊	38.8 冊	68.2%
中学校	34.4 冊	50.8 冊	47.5 冊	74.8%
高等学校	43.3 冊	38.3 冊	37.6 冊	34.0%

表 2 は、学校図書館図書標準を達成した学校の割合を表したものである。全国の達成率は、文部科学省が実施した令和 2 年度学校図書館の現状に関する調査を参照している。

学校図書館図書標準は、公立の小中学校の学校図書館に配備すべき蔵書の標準的な冊数を定めた目安であり、学級数に応じた蔵書冊数が示されている。第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計

画では、この学校図書館図書標準の達成率を 100%とすることを目標の 1 つとしている。本調査の結果では、小中学校ともに達成率は全国平均を大きく下回っており、学級数に応じた蔵書整備が十分には進んでいない状況を示している。

児童・生徒 1 人当たりの蔵書数が全国と比較して多いにも関わらず、学校図書館図書標準の達成率が低い要因の 1 つとして、小規模校の多さが考えられる。児童・生徒数の少ない学校であっても、一定数以上の基本的な図書館資料は配備することが一般的である。そのため、小規模校の方が 1 人当たりの蔵書冊数は多くなりがちである。青森県 1 人当たり蔵書冊数の多さは、そうした小規模校の多さが影響している可能性がある。

表 2： 学校図書館図書標準の達成状況（令和 2 年度学校図書館の現状に関する調査と比較）

	全国	青森		
	達成率	達成率	達成校数	未達成校数
小学校	71.2%	49.8%	118 校	119 校
中学校	61.1%	49.6%	63 校	64 校

小学校における蔵書数と学校図書館図書標準との差の分布を示したものが図 1 である。図書標準未達成校のうち、1～500 冊の不足となっている学校が最も多い。これらの学校が蔵書を増やし学校図書館図書標準を達成することで、達成率は 64.1%まで上昇する。500 冊の不足を解消することは容易ではないが、十分な予算を確保し計画的に資料を収集することで、青森県内の図書標準達成状況を大きく改善することが可能である。

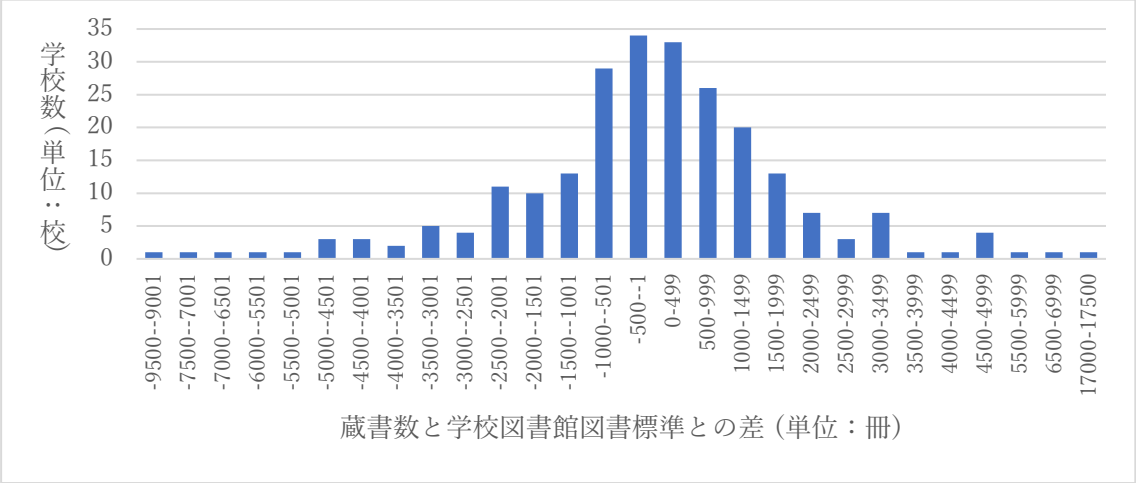


図 1： 青森県内の小学校における学校図書館図書標準に対する過不足冊数の分布

図 2 は、中学校における蔵書数と学校図書館図書標準との差の分布を表している。1001～1500 冊の不足、2001～3000 冊の不足となっている学校が多く、小学校と比べて達成度合いのばらつきが大きいこともうかがえる。学校図書館図書標準の達成状況を改善するためには、一部の学校における資料収集の促進だけでは不十分であり、各自治体が資料増に向けた取り組みを計画することが求められる。

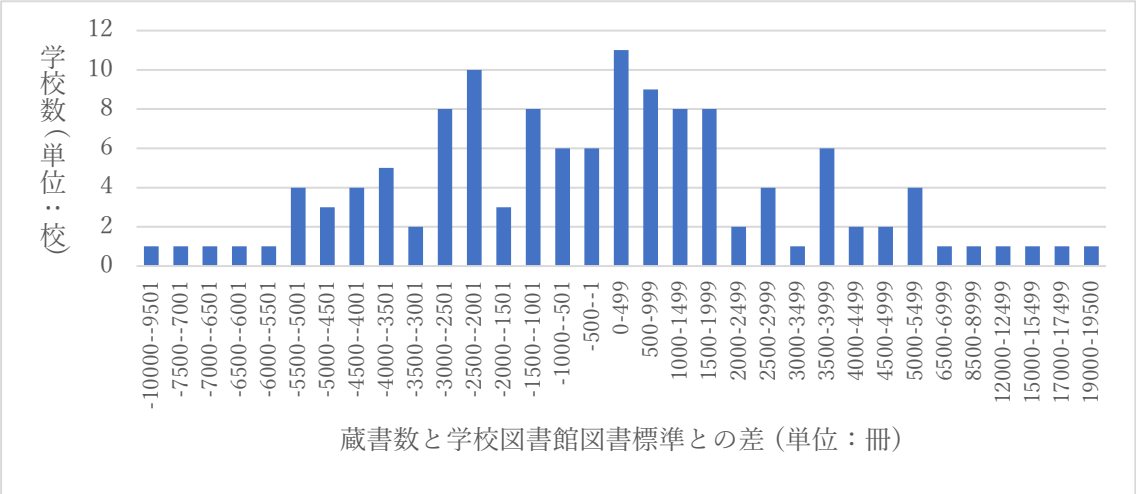


図 2： 青森県内の中学校における学校図書館図書標準に対する過不足冊数の分布

図書標準の達成率を地域別に整理したものが表 3 である。東青地域の小中学校と上北地域の中学校は全国平均を上回っているが、それ以外は全国平均に達していない。特に西北地域の中学校における達成率が低く、1 校しか図書標準を満たせていなかった。表 4 によると、西北地域は公共図書館との連携の実施率が高い地域であり、公共図書館からの団体貸出で蔵書不足を補える環境にあると考えられる。実際に、自由記述の中では「県立図書館や市立図書館との連携で、朝読書や調べ物に使う本が借りられて助かっている」という意見も挙げられていた。しかし、団体貸出による一時的な蔵書の拡充だけではなく、児童・生徒がいつでも十分な量の蔵書に触れられる環境を整備することも重要である。

表 3： 地域別の学校図書館図書標準達成率（令和 2 年度学校図書館の現状に関する調査と比較）

	全国	東青	西北	中南	上北	下北	三八
小学校	71.2%	77.8%	37.9%	40.8%	55.0%	44.4%	39.3%
中学校	61.1%	81.0%	5.9%	58.3%	61.5%	41.7%	37.0%

表 4：地域別の公共図書館との連携実施率

	東青	西北	中南	上北	下北	三八
小学校	82.2%	96.6%	46.9%	70.0%	55.6%	58.9%
中学校	4.8%	52.9%	15.4%	23.1%	25.0%	25.9%
高等学校	10.0%	40.0%	18.2%	12.5%	0.0%	27.3%

各学校の自由記述では、特に小学校で資料購入のための予算不足に言及する意見が散見された。ここまで青森県における蔵書の不足について触れてきたが、その要因の 1 つが予算の不足であると現場で認識されていることが分かる。予算が不足すると、学校図書館図書標準に対し不足する蔵書の補充ができないだけでなく、計画的な蔵書の更新も滞ることになる。今回の調査では蔵書の更新頻度や更新冊数には触れていないが、各自治体における予算化の際には、不足する冊数の補充に加えて資料更新の費用も計算に含めることが望まれている。

そのほか、電子書籍の普及やタブレット端末の活用に伴い、蔵書構成の見直しを図るべきだという意見も挙げられていた。調べ学習にタブレット端末が用いられるようになり、学校図書館を

担当する教職員の中でも、図書館での調べ物が減っていくのではないかと考えている者も見られる。また、特別支援学校からは、公共図書館に行けない児童・生徒でも利用できる電子書籍の閲覧環境を期待する声が挙がった。このような時代において、タブレット端末でも利用できる電子書籍を自治体単位で導入したり、県立図書館や近隣の市町村立図書館が契約する電子書籍を学校でも閲覧できる環境を整えたりすることも、今後の学校図書館の蔵書整備を考える上で議論になるだろう。

（2）新聞の整備状況

図書館が所蔵すべき資料として、調べ学習や NIE（Newspaper in Education）で用いられる新聞が挙げられる。第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計画では、図書整備や学校司書配置と並んで新聞配備が予算措置の対象となっており、小学校で 2 紙、中学校で 3 紙、高等学校で 5 紙の購読が目標とされている。

表 5 は、新聞を 1 紙以上購読している学校の割合を表している。小学校においては全国と並ぶ購読率となっているが、中学校や高等学校では十分な割合に達していないことが分かる。特に中学校では、半数以上の学校が新聞を 1 紙も購読していない状況である。また、表 6 に示した第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計画の達成率も、中学校における未達成の多さが目立つ結果となっている。

一方、表 7 の( )内に示した 1 紙以上購読している学校の平均購読紙数を見ると、いずれの校種も全国平均を上回っていることが分かる。購読率が低いにも関わらず平均購読紙数が高いという結果から、1 紙も購読していない学校と全国平均を上回る購読紙数の学校とに二極化している様子が推察される。

表 5： 新聞を 1 紙以上購読している学校の割合 （2023 年度学校図書館調査との比較）

	全国	青森
小学校	64.4%	62.8%
中学校	69.0%	45.6%
高等学校	97.2%	89.6%

表 6： 青森県内の第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計画における新聞購読数の目標達成状況

	達成	未達成
小学校	40.1%	60.0%
中学校	18.6%	81.4%
高等学校	41.7%	58.3%

表 7： 1 校あたりの平均購読紙数（2023 年度学校図書館調査との比較）

	全国	青森
小学校	1.1 紙（1.6 紙）	1.3 紙（2.0 紙）
中学校	1.5 紙（2.0 紙）	1.1 紙（2.4 紙）
高等学校	3.7 紙（3.7 紙）	3.8 紙（4.3 紙）

※ ( )内は 1 紙以上購読している学校の平均購読紙数

2 図書館職員の配備状況

学校図書館の活用を進めるためには、図書館資料の充実を図るだけでなく、その利用を支える図書館職員の配置が不可欠である。第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計画では、学校図書館の運営・管理や、学校図書館を活用した教育活動の支援のために、図書館業務に専従する学校司書を配置するための予算を総額 1,215 億円としている。この計画では、学校司書を小中学校のおおむね 1.3 校に 1 名配置することを目標としており、将来的には 1 校に 1 名の配置を目指している。本節では、学校司書や司書教諭といった図書館職員の配備状況について考察する。

青森県内における学校司書の配置数を表 8 に示す。いずれの校種も 0 名が最も多く、学校司書の配置が進んでいない状況がうかがえる。学校司書 1 名あたりの学校数は、小学校で 2.69 校、中学校で 2.93 校、高校で 6.00 校となり、第 6 次学校図書館図書整備等 5 か年計画が目標とする 1.3 校に 1 名の配置からはかけ離れている。2014 年の学校図書館法改正によって学校司書が法律上に位置付けられて以降、学校司書が司書教諭に代わって、あるいは司書教諭の支えとなって活躍することが期待されてきた。青森県の現状は、まだその途上にあると言わざるを得ない。

表 8： 学校司書の配置数

	0 名	1 名	2 名	3 名以上
小学校	161 校	69 校	4 校	3 校
中学校	89 校	36 校	4 校	0 校
高等学校	40 校	8 校	0 校	0 校

表 9 は、学校司書と司書教諭の合計配置数を表したものである。高等学校においては 1 名以上の教員あるいは職員が配置されている割合が高いが、小学校と中学校ではいずれも 0 名という学校の割合が最も高くなっている。学校図書館を管理・運営するための専門的な知識を持った図書館職員が全く配置されておらず、各校での日常的な運営や図書館活用・読書活動推進の取り組みに苦慮していることが予想される。

表 9： 司書教諭と学校司書の合計配置数

	0 名	1 名	2 名	3 名以上
小学校	88 校	78 校	55 校	18 校
中学校	52 校	43 校	30 校	4 校
高等学校	7 校	33 校	8 校	0 校

続いて、司書教諭や学校司書といった職員の役割を、児童・生徒一人当たりの年間貸出冊数から考察する。表 10 は、職員の配置の有無による、年間貸出冊数の違いを表したものである。職員を配置した学校の方が、年間貸出冊数が高くなっていることが分かる。この差が偶然のものであるかを検証するため、p 値を求めた。p 値が 0.05 未満あるいは 0.01 未満のとき、偶然や誤差ではなく統計的にも職員が配置されている方が年間貸出冊数は多くなると言える。しかし、今回はいずれも 0.05 以上のため、年間貸出冊数の差は偶然や誤差の範囲であると考えられる。

表 10： 司書教諭・学校司書の有無と児童・生徒あたりの年間貸出冊数

	配置あり	配置なし	p 値 （片側 t 検定）
小学校	38.1 冊	31.1 冊	0.147
中学校	4.52 冊	3.37 冊	0.151
高等学校	0.94 冊	0.45 冊	0.294

表 11 は、学校司書の配置の有無による、年間貸出冊数の違いを表したものである。司書教諭が含まれていた表 10 の結果と比較して、小中学校において配置の有無による年間貸出冊数の差が大きくなっている。また、p 値が小学校で 0.05 未満、中学校で 0.01 未満となっており、偶然や誤差ではなく、確かに学校司書が配置されている学校の方が児童・生徒一人当たりの年間貸出冊数が多いと統計的に言える。このことから、学校司書の配置は特に小中学校の年間貸出冊数に好影響を与えることが示唆される。

表 11： 学校司書の有無と児童・生徒あたりの年間貸出冊数

	配置あり	配置なし	p 値 （片側 t 検定）
小学校	45.9 冊	30.6 冊	0.011
中学校	7.36 冊	2.60 冊	0.000
高等学校	0.33 冊	0.97 冊	0.242

3 図書館サービスの実施状況

図 3～図 5 は、校種別の年間平均開館日数の分布である。小学校は年間開館日数が 180 日～219 日に集中しており、県内いずれの学校でも同程度の日数にわたってサービスが提供されていることが分かる。一方、中学校や高等学校は、全体的に小学校よりも年間開館日数が短いことに加えて、学校ごとの年間開館日数の違いが大きく現れており、生徒が学校図書館に接する機会にばらつきがあることが分かる。

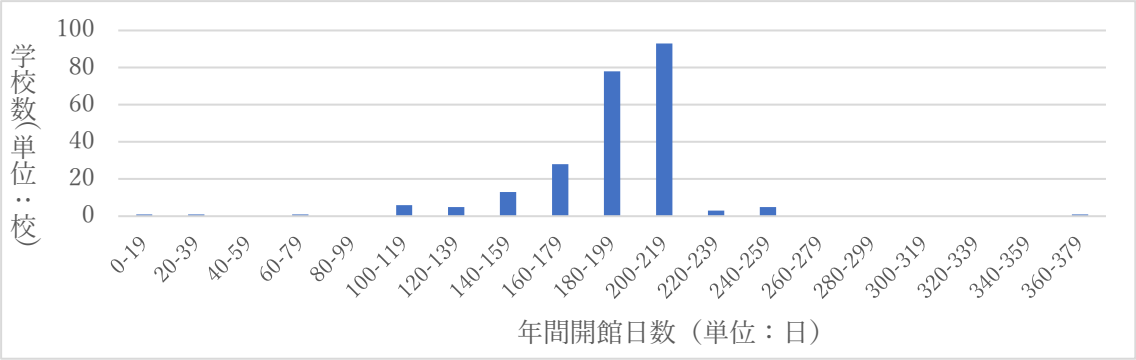


図 3： 小学校の年間平均開館日数の分布

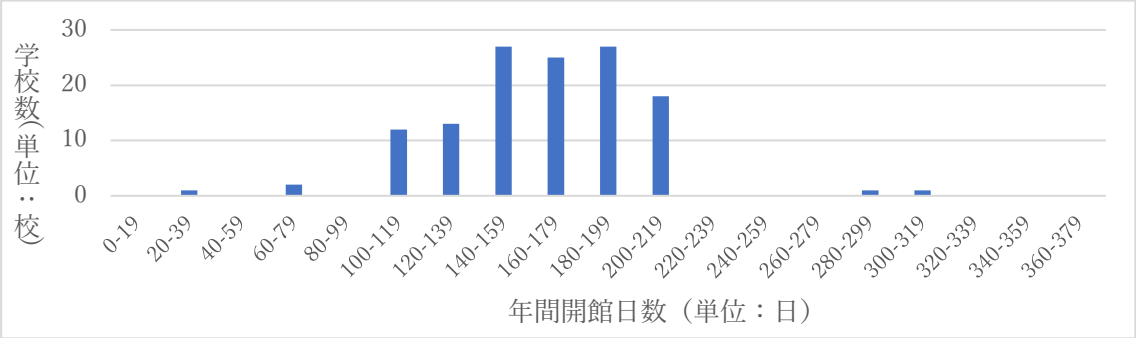


図 4： 中学校の年間平均開館日数の分布

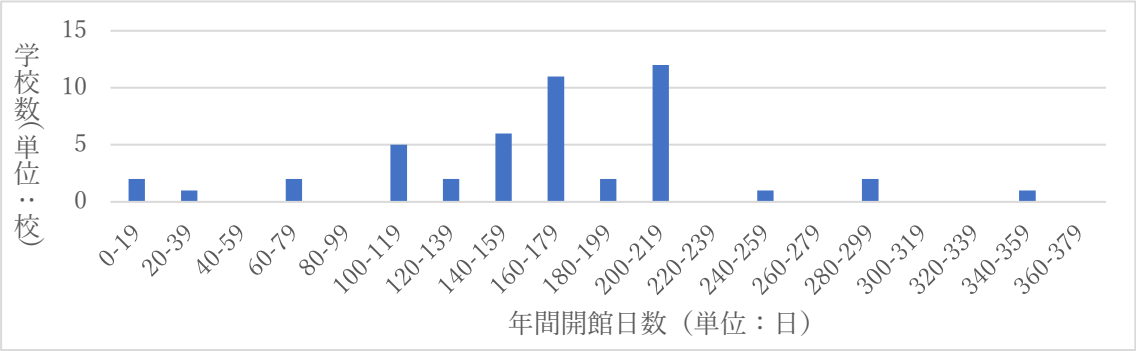


図 5： 高等学校の年間平均開館日数の分布

また、通常の開館時間を見てみると、中学校や高等学校の開館時間の短さが目立つ結果となった。小学校は開館時間 2 時間未満の学校が 11.7%であるのに対し、中学校は 67.7%、高等学校は 42.6%であった。授業終了時刻の差によって、放課後の図書館利用可能時間の長さに違いが出ていることも考えられるが、小学校以降で学校図書館に接する機会が大きく制限されることにつながっていないか危惧されるところである。

図書館のサービス提供状況としては、障害のある子どもへの読書活動支援についても触れておきたい。「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」や「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」が施行され、障害を持つ児童・生徒に対する支援の必要性が増している。しかし、特別支援学校のうち障害のある児童・生徒への支援を行っている学校が 76.2%である一方、特別支援学級を有する小中学校での支援は 36.0%となっている。特別支援学級を有する学校における支援の充実も図られなければならない。

おわりに

本稿では、令和 5 年度の「子どもの読書活動推進に関する実態調査」を基に、青森県内の学校図書館の整備状況について分析・考察を行った。学校図書館図書標準の達成状況からは、全国と比較して図書館資料の整備が遅れていることや、特に中学校において県内の学校間の格差が開いている様子が見受けられた。また、新聞の購読数も学校間で差がある状況であった。人員の面では、学校司書の配置の有無が児童・生徒の貸出冊数に影響を与える可能性が示唆された一方、特に小中学校は十分な人員が配置されていない状況がうかがえた。図書館サービスについては、中学校と高等学校において小学校よりも開館日数が少なく、開館時間も短い状況であった。障害を持つ児童・生徒への支援も途上であり、すべての子どもに十全な読書環境を提供するためにも、

地域の公共図書館等とも連携を図りつつ、学校図書館自体の一層の充実が図られることが望ましい。

各学校が創意工夫を重ね、子どもの読書環境の充実に向けて努力されていることと思う。そうした現場を支えるために、自治体には図書館資料や人員の面での支援をお願いしたい。第四次青森県子ども読書活動推進計画が令和 6 年度で終了を迎える。第五次の計画において、より良い読書環境の構築に向けて学校図書館が改善されていくことを大いに期待する。

第４章　資料

○　調査結果単純集計表

１　子どもの読書活動に関する状況調査　単純集計

質問１　学校がある地区（地区別）

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	1 東青地区	259	22.9%	219	21.2%	248	26.3%
	2 西北地区	160	14.1%	139	13.4%	65	6.9%
	3 中南地区	201	17.7%	198	19.1%	216	22.9%
	4 上北地区	179	15.8%	175	16.9%	119	12.6%
	5 下北地区	103	9.1%	108	10.4%	100	10.6%
	6 三八地区	231	20.4%	196	18.9%	195	20.7%
	合計	1133	100.0%	1035	99.9%	943	100.0%
欠損値	0 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		1133	100.0%	1035	99.9%	943	100.0%

質問２　今年10月の１か月間に本を読みましたか

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	ア 読んだ	992	87.6%	766	74.0%	419	44.4%
	イ 読まなかった⇒問6へ	137	12.1%	267	25.8%	524	55.6%
	合計	1129	99.7%	1033	99.8%	943	100.0%
欠損値	0 無回答	4	0.4%	2	0.2%	0	0.0%
合計		1133	100.1%	1035	100.0%	943	100.0%

質問３　今年10月の１か月間に本を何冊読みましたか（質問２で「ア読んだ人」のみ）

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	ア 1～5冊	477	48.1%	610	79.6%	370	88.3%
	イ 6～10冊	268	27.0%	100	13.1%	26	6.2%
	ウ 11～15冊	109	11.0%	20	2.6%	9	2.1%
	エ 16～20冊	68	6.9%	13	1.7%	5	1.2%
	オ 20冊より多い	67	6.8%	22	2.9%	9	2.1%
	合計	989	99.8%	765	99.9%	419	99.9%
欠損値	0 無回答	3	0.3%	1	0.1%	0	0.0%
合計		992	100.1%	766	100.0%	419	99.9%

質問４　今年10月の１か月間にスマートフォンやタブレット端末等で読むことのできる電子書籍を読みましたか（質問２で「ア読んだ人」のみ）

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	ア 読んだ	170	17.1%	228	29.8%	164	39.1%
	イ 読まなかった⇒問7へ	810	81.7%	534	69.7%	254	60.6%
	合計	980	98.8%	762	99.5%	418	99.7%
欠損値	0 無回答	12	1.2%	4	0.5%	1	0.2%
合計		992	100.0%	766	100.0%	419	99.9%

質問5　今年10月の1か月間、紙の本と比べて、スマートフォンやタブレット端末等で読むことのできる電子書籍をどのくらい読みましたか（質問4で「ア読んだ人」のみ）

			小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効								
	1	電子書籍だけを読んだ（紙の本は読んでいない）	7	4.1%	27	11.8%	20	12.2%
	2	電子書籍の方が多い	31	18.2%	77	33.8%	63	38.4%
	3	電子書籍を同じくらい読んだ	27	15.9%	33	14.5%	30	18.3%
	4	電子書籍の方が少ない	100	58.8%	90	39.5%	51	31.1%
	合計		165	97.0%	227	99.6%	164	100.0%
欠損値	99	無回答	5	2.9%	1	0.4%	0	0.0%
合計			170	99.9%	228	100.0%	164	100.0%

3

質問6　読まなかった理由（質問2で「イ読まなかった人」のみ）複数回答

			小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効								
	ア	マンガや雑誌を読むのに時間を使うから	30	8.0%	90	9.8%	145	9.0%
	イ	音楽、動画（YouTubeなど）、ゲームに時間を使うから	97	25.8%	210	22.9%	369	23.0%
	ウ	インターネットでウェブページを見るのに時間を使うから	9	2.4%	61	6.6%	154	9.6%
	エ	スマートフォンでのやりとりに時間をつかうから	21	5.6%	104	11.3%	210	13.1%
	オ	友だちと遊ぶのに時間を使うから	58	15.4%	106	11.5%	142	8.9%
	カ	勉強や部活動、塾、習いごとで忙しいから	58	15.4%	120	13.1%	252	15.7%
	キ	読みたい本が手に入らないから	19	5.1%	34	3.7%	43	2.7%
	ク	どんな本を読んでいいのかわからないから	13	3.5%	31	3.4%	35	2.2%
	ケ	特に読みたい本がないから	64	17.0%	157	17.1%	244	15.2%
	コ	その他（　　）	7	1.9%	5	0.5%	10	0.6%
	合計		376	100.1%	918	99.9%	1604	100.0%

質問7　本を読むことが好きですか

			小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効								
	ア	好き	347	30.6%	340	32.9%	315	33.4%
	イ	どちらかといえば好き	513	45.3%	434	41.9%	420	44.5%
	ウ	どちらかといえば嫌い	201	17.7%	183	17.7%	150	15.9%
	エ	嫌い	65	5.7%	74	7.1%	58	6.2%
	合計		1126	99.3%	1031	99.6%	943	100.0%
欠損値	0	無回答	7	0.6%	4	0.4%	0	0.0%
合計			1133	99.9%	1035	100.0%	943	100.0%

質問8　昨年と比べて本を読むようになりましたか

			小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効								
	ア	読むようになった	413	36.5%	298	28.8%	100	10.6%
	イ	読まなくなった	255	22.5%	210	20.3%	325	34.5%
	ウ	変わらない	462	40.8%	523	50.5%	517	54.8%
	合計		1130	99.8%	1031	99.6%	942	99.9%
欠損値	0	無回答	3	0.3%	4	0.4%	1	0.1%
合計			1133	100.1%	1035	100.0%	943	100.0%

質問9　どのようにして本を手に入れることが多いですか　複数回答

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	ア 買う（買ってもらう）	676	27.9%	819	43.9%	824	56.1%
	イ 友だち・家族・先生から借りる	122	5.0%	196	10.5%	143	9.7%
	ウ 学校の図書室から借りる	672	27.7%	232	12.4%	102	6.9%
	エ 学校以外の図書館から借りる	258	10.6%	101	5.4%	80	5.4%
	オ 家にある本を読む	667	27.5%	486	26.1%	311	21.2%
	カ その他（　　）	29	1.2%	30	1.6%	8	0.5%
	合計	2424	99.9%	1864	99.9%	1468	99.8%

質問10　学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館から本を借りたことがありますか

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	ア 学校の図書室から借りたことがある	626	55.3%	235	22.7%	160	17.0%
	イ 学校以外の図書館から借りたことがある	90	7.9%	201	19.4%	228	24.2%
	ウ どちらも借りたことがある	321	28.3%	183	17.7%	182	19.3%
	エ どちらからも借りたことがない	75	6.6%	403	38.9%	366	38.8%
	合計	1112	98.1%	1022	98.7%	936	99.3%
欠損値	0 無回答	21	1.9%	13	1.3%	7	0.7%
合計		1133	100.0%	1035	100.0%	943	100.0%

質問11　学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館で本を読んだことがありますか

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	ア 学校の図書室で読んだことがある	509	44.9%	265	25.6%	126	13.4%
	イ 学校以外の図書館で読んだことがある	128	11.3%	170	16.4%	222	23.5%
	ウ どちらでも読んだことがある	295	26.0%	192	18.6%	164	17.4%
	エ どちらでも読んだことがない	154	13.6%	352	34.0%	374	39.7%
	合計	1086	95.8%	979	94.6%	886	94.0%
欠損値	0 無回答	47	4.1%	56	5.4%	57	6.0%
合計		1133	99.9%	1035	100.0%	943	100.0%

質問12　1日にスマートフォンを何時間使いますか

		小学5年	割合	中学2年	割合	高校2年	割合
有効							
	ア 1時間未満	154	13.6%	58	5.6%	17	1.8%
	イ 1時間から2時間未満	172	15.2%	173	16.7%	154	16.3%
	ウ 2時間から3時間未満	158	13.9%	225	21.7%	235	24.9%
	エ 3時間から4時間未満	96	8.5%	186	18.0%	214	22.7%
	オ 4時間から5時間未満	61	5.4%	85	8.2%	113	12.0%
	カ 5時間以上	99	8.7%	117	11.3%	155	16.4%
	キ スマートフォンを持っていない	364	32.1%	147	14.2%	3	0.3%
	合計	1104	97.4%	991	95.7%	891	94.4%
欠損値	0 無回答	29	2.6%	44	4.3%	52	5.5%
合計		1133	100.0%	1035	100.0%	943	99.9%

２　子どもの読書活動推進に関する学校状況調査

設問3　学校がある地区（地区別）

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 東青地区	45	19.0%	21	16.3%	10	20.8%	8	38.1%
	2 西北地区	29	12.2%	17	13.2%	5	10.4%	1	4.8%
	3 中南地区	49	20.7%	26	20.2%	11	22.9%	5	23.8%
	4 上北地区	40	16.9%	26	20.2%	8	16.7%	1	4.8%
	5 下北地区	18	7.6%	12	9.3%	3	6.3%	1	4.8%
	6 三八地区	56	23.6%	27	20.9%	11	22.9%	5	23.8%
合計		237	100.0%	129	100.1%	48	100.0%	21	100.1%
欠損値	0 無回答	0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	100.0%	129	100.1%	48	100.0%	21	100.1%

設問5関連　学級数

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 12学級以上	100	42.2%	33	25.6%	35	72.9%	14	66.7%
	2 11学級以下	136	57.4%	96	74.4%	13	27.1%	7	33.3%
合計		236	99.6%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問10　学校図書館の通常の開館時間

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 1時間未満	21	8.9%	81	62.8%	10	20.8%	2	9.5%
	2 1時間以上2時間未満	6	2.5%	5	3.9%	10	20.8%	1	4.8%
	3 2時間以上3時間未満	1	0.4%	2	1.6%	2	4.2%	0	0.0%
	4 3時間以上4時間未満	0	0.0%	2	1.6%	2	4.2%	0	0.0%
	5 4時間以上5時間未満	12	5.1%	2	1.6%	4	8.3%	1	4.8%
	6 5時間以上	191	80.6%	35	27.1%	19	39.6%	16	76.2%
合計		231	97.5%	127	98.6%	47	97.9%	20	95.3%
欠損値	0 無回答	6	2.5%	2	1.6%	1	2.1%	1	4.8%
合計		237	100.0%	129	100.2%	48	100.0%	21	100.1%

設問11　司書教諭配置人数（発令されている職員）　※令和5年5月1日現在

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 0人	106	44.7%	65	50.4%	8	16.7%	8	38.1%
	2 1人	107	45.1%	57	44.2%	39	81.3%	8	38.1%
	3 2人	18	7.6%	6	4.7%	1	2.1%	1	4.8%
	4 3人	3	1.3%	1	0.8%	0	0.0%	4	19.0%
	5 4人	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	6 5人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		236	99.5%	129	100.1%	48	100.1%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	1	0.4%		0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	99.9%	129	100.1%	48	100.1%	21	100.0%

設問12　学校司書配置人数　※令和5年5月1日現在

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 0人	161	67.9%	89	69.0%	40	83.3%	19	90.5%
	2 1人	69	29.1%	36	27.9%	8	16.7%	1	4.8%
	3 2人	4	1.7%	4	3.1%	0	0.0%	1	4.8%
	4 3人	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	5 4人	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	6 5人	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		237	99.9%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.1%
欠損値	0 無回答	0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	99.9%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.1%

設問13　蔵書のデータベースの構築

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 構築している	184	77.6%	86	66.7%	39	81.3%	10	47.6%
	2 構築していない	51	21.5%	41	31.8%	9	18.8%	11	52.4%
合計		235	99.1%	127	98.5%	48	100.1%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	2	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
合計		237	99.9%	129	100.1%	48	100.1%	21	100.0%

設問14　計画的な蔵書の破棄・更新

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 行っている	210	88.6%	95	73.6%	35	72.9%	13	61.9%
	2 行っていない	27	11.4%	33	25.6%	13	27.1%	7	33.3%
合計		237	100.0%	128	99.2%	48	100.0%	20	95.2%
欠損値	0 無回答	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	4.8%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問15　児童・生徒に対する学校図書館の利用指導

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 行っている	234	98.7%	113	87.6%	38	79.2%	18	85.7%
	2 行っていない	3	1.3%	16	12.4%	10	20.8%	3	14.3%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問16　学校図書館の授業での活用

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 活用している	233	98.3%	92	71.3%	34	70.8%	19	90.5%
	2 活用していない	4	1.7%	37	28.7%	14	29.2%	2	9.5%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	0	0.0%	0	0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問17　読み聞かせ

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 している	224	94.5%	9	7.0%	2	4.2%	16	76.2%
	2 していない	11	4.6%	120	93.0%	46	95.8%	5	23.8%
合計		235	99.1%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	0	0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	99.9%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問18　家読

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 している	112	47.3%	1	0.8%	0	0.0%	1	4.8%
	2 していない	123	51.9%	128	99.2%	48	100.0%	20	95.2%
合計		235	99.2%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	0	0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問19　朝読書

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 している	220	92.8%	113	87.6%	20	41.7%	6	28.6%
	2 していない	15	6.3%	15	11.6%	28	58.3%	15	71.4%
合計		235	99.1%	128	99.2%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	1	0.8%		0.0%		0.0%
合計		237	99.9%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問20　ブックトーク

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 している	110	46.4%	24	18.6%	6	12.5%	5	23.8%
	2 していない	125	52.7%	104	80.6%	42	87.5%	16	76.2%
合計		235	99.1%	128	99.2%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	1	0.8%		0.0%		0.0%
合計		237	99.9%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問21　書評合戦《ビブリオバトル》

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 している	25	10.5%	24	18.6%	8	16.7%	2	9.5%
	2 していない	210	88.6%	105	81.4%	40	83.3%	19	90.5%
合計		235	99.1%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	0	0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	99.9%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問22　読書会

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 している	48	20.3%	5	3.9%	2	4.2%	2	9.5%
	2 していない	187	78.9%	124	96.1%	46	95.8%	19	90.5%
合計		235	99.2%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	0	0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問23　図書の紹介コーナーの設置

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 している	228	96.2%	119	92.2%	40	83.3%	15	71.4%
	2 していない	9	3.8%	10	7.8%	8	16.7%	6	28.6%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	0	0.0%	0	0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問24　子どもの読書活動推進に関して、19～25以外で実施している取組

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 ある(　)	155	65.4%	57	44.2%	17	35.4%	8	38.1%
	2 無回答	82	34.6%	72	55.8%	31	64.6%	13	61.9%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問25　障害のある子どもへの読書活動支援

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 行っている	102	43.0%	23	17.8%	0	0.0%	16	76.2%
	2 行っていない	125	52.7%	97	75.2%	23	47.9%	5	23.8%
合計		227	95.7%	120	93.0%	23	47.9%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	10	4.2%	9	7.0%	25	52.1%		0.0%
合計		237	99.9%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問26　保護者や地域のボランティアの受け入れ

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 受け入れている	185	78.1%	27	20.9%	0	0.0%	2	9.5%
	2 受け入れていない	51	21.5%	101	78.3%	47	97.9%	19	90.5%
合計		236	99.6%	128	99.2%	47	97.9%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	1	0.4%	1	0.8%	1	2.1%		0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

設問27　公立図書館等と連携した取組

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 行っている	159	67.1%	30	23.3%	9	18.8%	7	33.3%
	2 行っていない	76	32.1%	99	76.7%	39	81.3%	14	66.7%
合計		235	99.2%	129	100.0%	48	100.1%	21	100.0%
欠損値	0 無回答	2	0.8%	0	0.0%		0.0%		0.0%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.1%	21	100.0%

設問28　自由記述

		小学校	割合	中学校	割合	高等学校	割合	特別支援校	割合
有効									
	1 ある(　)	49	20.7%	20	15.5%	16	33.3%	5	23.8%
	2 無回答	188	79.3%	109	84.5%	32	66.7%	16	76.2%
合計		237	100.0%	129	100.0%	48	100.0%	21	100.0%

○　調査票（生徒用）

子どもの読書活動に関する状況調査

※小５､中２用の調査票には､必要に応じてルビが振ってあります。

（高校２年生用）

青森県教育庁生涯学習課

【はじめに】

１　みなさんが、いつもどのような読書活動をしているのか知りたいのでご協力をお願いします。
２　名前を書くところはありません。
３　この用紙に、直接、回答を書いてください。
４　**この調査の「本」には、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌、新聞は入りません。また、スマートフォンやタブレット端末等で読むことのできる電子書籍は入ります。**

１　あなたの通う学校がある市町村を教えてください。

市・町・村

２　あなたは今年 10 月の１か月間に本を読みましたか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。
※読んでいる途中の本がある人は、「ア　読んだ」を選んでください。

ア　読んだ
イ　読まなかった　→　質問６に進んでください

３　質問２で「ア　読んだ」を選んだ人だけ答えてください。あなたは今年 10 月の１か月間に本を何冊読みましたか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。
※読んでいる途中の本は読んだ数に入れてください。

ア　１～５冊	イ　６～10 冊	ウ　11～15 冊
エ　16～20 冊	オ　20 冊より多い	

４　質問２で「ア　読んだ」を選んだ人だけ答えてください。あなたは今年 10 月の１か月間にスマートフォンやタブレット端末等で読むことのできる電子書籍を読みましたか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

ア　読んだ イ　読まなかった　→　質問７に進んでください

５　質問４で「ア　読んだ」を選んだ人だけ答えてください。あなたは今年 10 月の１か月間、紙の本と比べて、スマートフォンやタブレット端末等で読むことのできる電子書籍をどのくらい読みましたか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。
※読んでいる途中の紙の本、電子書籍は読んだものとしてください。
※読んだ冊数を比べてください。

ア　電子書籍だけを読んだ（紙の本は読んでいない） イ　電子書籍の方が多い ウ　電子書籍を同じくらい読んだ エ　電子書籍の方が少ない

→　質問７に進んでください

６　質問２で「イ　読まなかった」を選んだ人だけ答えてください。読まなかった理由を教えてください。あてはまるものすべての記号に○をつけてください。

ア　マンガや雑誌を読むのに時間を使うから イ　音楽、動画（ＹｏｕＴｕｂｅなど）、ゲームに時間を使うから ウ　インターネットでウェブページを見るのに時間を使うから エ　スマートフォンでのやりとりに時間を使うから オ　友だちと遊ぶのに時間を使うから カ　勉強や部活動、塾、習いごとで忙しいから キ　読みたい本が手に入らないから ク　どんな本を読んでいいのかわからないから ケ　特に読みたい本がないから コ　その他（　　）

7　あなたは本を読むことが好きですか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

ア　好き	イ　どちらかといえば好き
ウ　どちらかといえば嫌い	エ　嫌い

8　あなたは昨年と比べて本を読むようになりましたか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

ア　読むようになった
イ　読まなくなった
ウ　変わらない

9　あなたはどのようにして本を手に入れることが多いですか。あてはまるものすべての記号に○をつけてください。
※「学校以外の図書館」とは、地域の図書館や児童館の図書室などのことです。

ア　買う（買ってもらう）	イ　友だち・家族・先生から借りる
ウ　学校の図書室から借りる	エ　学校以外の図書館から借りる
オ　家にある本を読む	カ　その他（　　）

10　あなたは学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館から本を借りたことがありますか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。
※「学校以外の図書館」とは、地域の図書館や児童館の図書室などのことです。

ア　学校の図書室から借りたことがある
イ　学校以外の図書館から借りたことがある
ウ　どちらからも借りたことがある
エ　どちらからも借りたことがない

11　あなたは学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館で本を読んだことがありますか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。
※「学校以外の図書館」とは、地域の図書館や児童館の図書室などのことです。

ア　学校の図書室で読んだことがある
イ　学校以外の図書館で読んだことがある
ウ　どちらでも読んだことがある
エ　どちらでも読んだことがない

12　あなたは１日にスマートフォンを何時間使いますか。あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

ア　１時間未満	イ　１時間から２時間未満
ウ　２時間から３時間未満	エ　３時間から４時間未満
オ　４時間から５時間未満	カ　５時間以上
キ　スマートフォンを持っていない	

これで終わりです。ありがとうございました。

担任の先生に提出してください。

○　調査票（学校用）

子どもの読書活動推進に関する学校状況調査

青森県教育庁生涯学習課

この調査は、県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象に、青森県教育委員会が学校における子どもの読書活動推進に関する状況を把握するために実施するものです。

【記入・返送にあたって】

1　回答は、この調査用紙に、直接、記入してください。
2　クラスや学年の取組も学校の取組として回答してください。
3　同封の返信用封筒にこの調査用紙を入れて、**令和５年 11 月 30 日（木）**までに返送くださるようお願いします。

【本調査に関するお問い合わせ先】
青森県教育庁生涯学習課
〒030-8540 青森市長島一丁目１番１号　電話 017-734-9889 受付:平日 8:30～17:15

1　回答者の職・氏名

2　学校名

3　学校が所在する市町村

市・町・村

4　児童・生徒数　※令和５年５月１日現在

人

5　学級数　※令和５年５月１日現在

クラス

6　学校図書館の蔵書数　※令和５年５月１日現在

冊

7　学校図書館の新聞の購読数　※令和５年５月１日現在

紙

8　学校図書館の年間貸出冊数　※令和４年度の実績

冊

9　学校図書館の年間開館日数　※令和４年度の実績

日

10　学校図書館の通常の開館時間（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
※授業等を含め、生徒が利用できる時間に限る

ア　１時間未満	イ　１時間以上２時間未満
ウ　２時間以上３時間未満	エ　３時間以上４時間未満
オ　４時間以上５時間未満	カ　５時間以上

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

11　司書教諭配置人数（発令されている職員）　※令和５年５月１日現在

人

12　学校司書配置人数　※令和５年５月１日現在

人

13　蔵書のデータベースの構築（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）

ア　構築している　　イ　構築していない

14　計画的な蔵書の破棄・更新（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）

ア　行っている　　イ　行っていない

15　児童・生徒に対する学校図書館の利用指導（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）

ア　行っている　　イ　行っていない

16　学校図書館の授業での活用（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）

ア　活用している　　イ　活用していない

17　読み聞かせ（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
【取組例：読書に対する関心を引き出し、読書活動の習慣化を目的に読み聞かせを実施している】
※児童・生徒による取組を含む

ア　している　　イ　していない

18　家読（うちどく）（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
【取組例：家族で同じ本を読み、感想を話し合うことについて、学校から家庭に働きかけている】

ア　している　　イ　していない

19　朝読書（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
【取組例：授業が始まる前の時間を利用して、児童・生徒と教員が好きな本を読書する機会を設けている】

ア　している　　イ　していない

20　ブックトーク（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
【取組例：テーマを決めて、そのテーマに関連する様々なジャンルの本を紹介させる取組を実施している】

ア　している　　イ　していない

21　書評合戦《ビブリオバトル》（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
【取組例：発表者が読んでおもしろいと思った本について５分程度の紹介を行い、その本に関する意見交換を行った後、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定する取組を実施している】

ア　している　　イ　していない

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

22　読書会（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
【取組例：数人で集まり、本の感想を話し合わせる機会を設けている】

ア　している　　イ　していない

23　図書の紹介コーナーの設置（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
【取組例：友達などに薦めたい本の紹介文などを児童・生徒が作成し、展示する場所を設けている】

ア　している　　イ　していない

24　子どもの読書活動推進に関して、17～23 以外で実施している取組があれば、記入してください。

25　障害のある子どもへの読書活動支援（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）　※特別支援学級を有しない小・中学校と高等学校を除く

ア　行っている　　イ　行っていない

26　保護者や地域のボランティアの受け入れ（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）

ア　受け入れている　イ　受け入れていない

27　公立図書館等と連携した取組（あてはまるものを一つ選び、記号に〇をつける）
※公民館や児童館の図書室を含む

ア　行っている　　イ　行っていない

28　子どもの読書活動推進に関して、お気づきの点などをご自由にお書きください。

大変お疲れ様でした。調査は以上で終了です。

御協力いただき、誠にありがとうございました。

令和５年度　生涯学習・社会教育総合調査研究事業
子どもの読書活動推進に関する実態調査　報告書

発　行　年　月　日　令和６年３月
編　集　・　発　行　青森県教育庁生涯学習課
〒030-8540　青森市長島一丁目１番１号
TEL 017-734-9889（内 3138）　FAX 017-734-8272
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-shogai/aomorimanabi-e_shogai.html
調査・分析委託先　株式会社サンブラッソ・エイティーブイ
〒038-0011　青森市篠田二丁目３番１７号
TEL 017-762-7010　FAX 017-762-7011